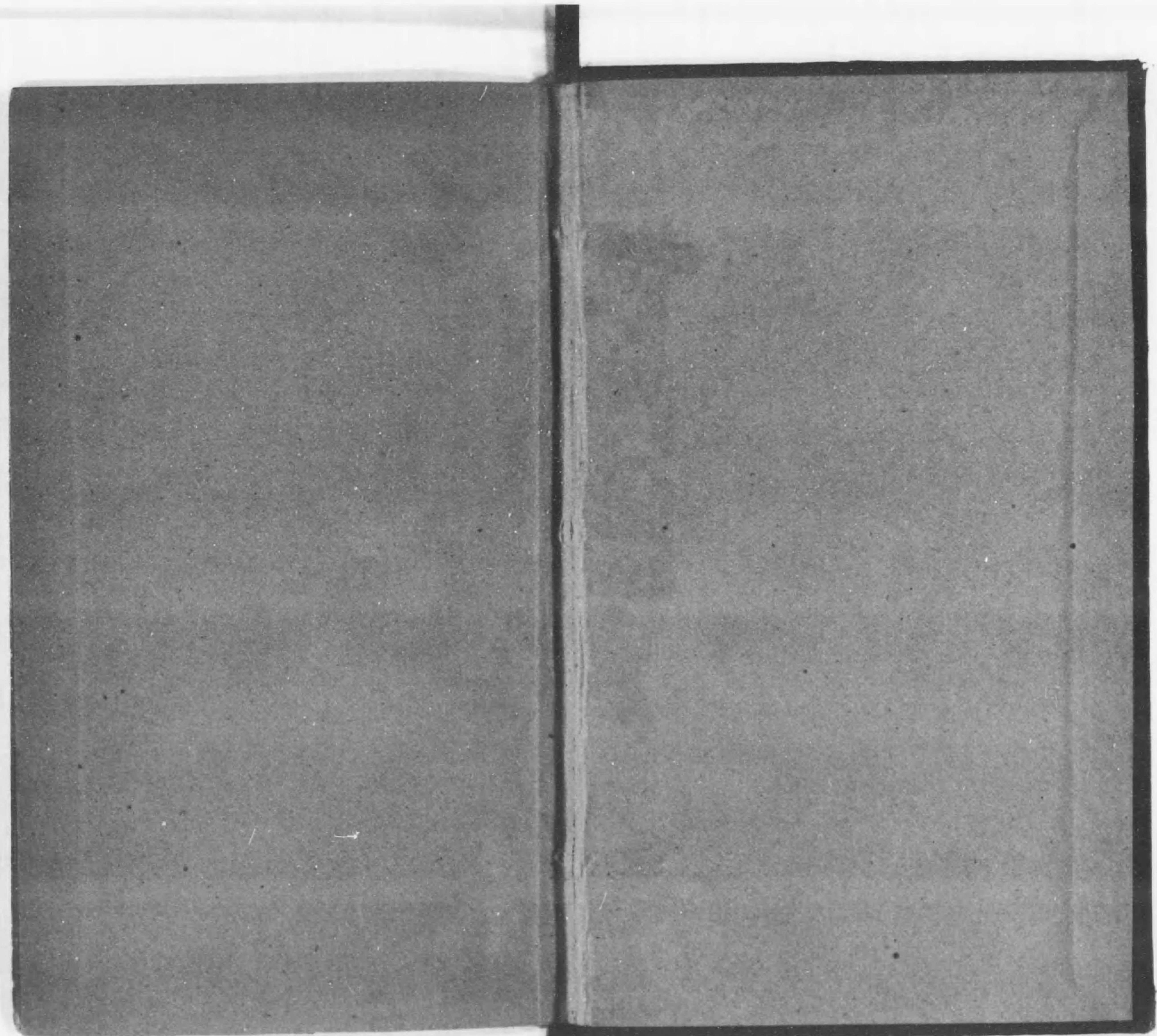


85

55



雲外居士著

訂出補

基本戰術摘要解義

第五卷

川流堂小林又七發行

85-55

序言

本書は元來江湖諸君の研究資料に供するの目的を以て最初より著述したる者にあらず唯た著者等のいたすら草紙の外ならざりし然るに諸彦の勸告に由て發行はなしたるもの、前陳の次第なるを以て固より不完全なるを免さず各位幸に此等の遺漏を補ひ賜はん爲めに本文紙面に別の上欄を設けり即ち此上欄は遺を補ひ漏を充たすの余地となし併せて著者が諸者の閲讀に便ならしめん爲めの註記を載するに供せり

著述上各兵家の(参考書中に記せる各書)所説紛々として決せざる件は

概ね各外國兵事新聞に由て近今の學說を斟酌し以て斷案を下せり然るも新材料なく爲めに遂に斷案を下す能はざりし件は其儘諸說を陳列して參考に供し置けり殊に外國兵書諸新聞を參考に供するに當り悲哉著者が各國の語學に不熟なるを以て其譯出したる所の言辭が文を爲さず或は了解に苦しき所もあらん是を特筆して謝し置かんとする所なり

各局部各専門の事柄に就き本書述ぶる所の外尙ほ深く研究を要せらるゝ節は本書參考書目中の各書を閲讀せらるるは敢て遺憾なかるべし

●基本戰術摘要解義ノ目的

方今戰術ノ研究ニ資スル書籍其數少シトセス然レトモ概ネ其所說局部ニ留マリ一般ニ諸原則ヲ網羅スルモノナシ例ヘハ甲ハ戰鬪ノミ乙ハ野外勤務ニ屬スルコトノミ丙ハ戰略統帥ニ關スルコトノミ丁ハ補助學ニ關スルコトノミ等ノ如シ故ニ全般ノ戰術戰略ヲ一通リ了解セント欲セハ諸種ノ書籍ヲ閲讀シタル後ニ非ラザレバ能ハズ是レ其研究ニ時日ヲ費スコト多キノミナラズ其勞又尠ナカラズ乃チ本書ハ短時日ニ於テ其勞少ク迅速ニ諸般ノ原則ヲ了解シ普通作戰ノ統帥ニ支障ナキ智識ヲ與ヘント欲スルモ

ハナリ、故ニ、萬書ヲ集メテ、始メテ、知リ、得ベキ、原則ヲ、僅ニ、此
一書ニ、悉皆、綱羅シ、俗言セハ、戰略戰術原則ノ、大字典タラシ
ムルニアリ

● 基本戰術摘要解義著述ノ方法

基本戰術ノ原則ハ悉皆綱羅記述セリ然レトモ其原則ノ由
テ生スル演約的理由ノ説明等ニシテ既ニ士官學校其他將
校團教育等ニ由テ普ク教授サレアルベキ者ハ勉メテ節畧
シ唯タ其要點ノ結果ノミヲ記シ以テ著述ノ順序ヲ規正ス
ルニ留メ成ルヘク煩雜ヲ避ケ單簡ニ速ニ要點ヲ了解シ易
キカ如クス但シ普通知ラレアル平易ノコトモ時トシテハ

記述セリ是レ他ノ照應引證等ノ爲メ著述ノ手段上已ムヲ
得サルコトナレハ幸ニ諒察ヲ乞フ

第一篇乃至第四篇ハ戰略戰術ノ學理的上原則ヲ述ヘ就中
想定ニ從ヒ作戰ノ經過情況ヲ現出セシメテ説明スルニ
アラサレハ充分理解セラレ難キ件並ニ想定ニ從ヒテ説
明スルヲ利益ト思考シタル件ハ唯タ其基礎ノ原則ノミ
ニ留メタリ而シテ其精細ハ第五篇ニ遜ルコト、セリ
第五篇ハ諸原則ヲ實際ニ應用スル方式研究ヲ主トシ所謂
應用戰術ノ研究ニ資シ併セテ第一篇ヨリ第四篇ニ至ル
間ニ於テ説述シ能ハサリシ戰略戰術ノ原則ヲ例證シテ

說述ス

第六篇ハ上陸作戰並ニ國防作戰ノ原則並ニ應用ノ一端ヲ述ブ

第七篇ハ要塞ノ攻守法並ニ之レニ附帶スル諸原則ヲ述ブ

第八篇ハ守勢攻勢ニ於ケル各種後方連絡並ニ連絡線上ニ

於ケル諸原則ヲ述ブ

補遺トシテ著述ノ順序上第一篇乃至第八篇中適當ノ條項

ニ於テ説明シ能ハサリシ件並ニ戰略戰術ト互ニ相待ツ

テ緊要ナル補助學ヲ述ブ

附録トシテ軍事學諸般ノ必要件ヲ摘記シ幹部演習圖上對

策兵棋野外演習等ノ良友顧問タラシム

●參考書目

歩兵操典、騎兵操典、砲兵操典、工兵操典、野外要務令、諸教範、Meckel氏著基本戰術、Lehner氏著軍隊指揮官手簿、佛國サンシール兵學校兵學教程、佛國砲兵學校築城教程、佛國中將Berliant氏行軍戰闘術、佛國參謀少佐バルトー氏戰術講義、佛國シユニーガン氏戰論、他兵連合野戰砲兵、クラフト戰略論、獨乙野外要務令、陸軍大學校帥兵規則、陸軍大學校帥兵術、野戰砲兵士官手簿、基本戰術講授錄、戰術講授書、日本士官學校戰術教程、同築城學教程、同兵器學教程、ブルームーメー戰略論、參謀服務學、偕行社記事、大學校交通學、プリアルモン氏戰場築城論、獨乙兵學校築城及ヒ攻城法教程、ラスニール氏騎兵搜索戰闘術、歩兵論、騎兵論、要塞戰法、マハン海權論、海戰術、千八百七十年普佛戰、全七十七年魯土戰、丁抹戰等ノ論評、普國兵事新報、佛國兵事新報、ドラゴミローフ氏戰闘論、海戰史論其他各國時々ノ新聞ハ略ス

基本戰術摘要解義

總目錄

第一卷

第一篇 一般ノ總說並ニ各兵種固有ノ戰術

第二篇 諸種ノ戰鬪原則

第二卷

第三篇 局地戰及ビ特別枝隊ノ小戰

第四篇 野外帥兵術
行軍、駐軍、衛生、給養、命令、訓令、
判斷等總テ統帥ニ關スルモノ

第三卷

第五篇 基本戰術ノ應用
枝隊戰術ヨリ混成旅團、師團等ノ作
戰ニ進ミ軍ノ作戰ニ移ル端緒マデ

第四卷

第六篇 上陸作戰、國防作戰

第七篇 要塞戰

第八篇 後方勤務

第五卷

補遺

方今ノ新戰術、海上海岸戰、戰畧統帥ノ諸計畫、各國諸兵家ノ新說等ヨリ築城、交通、兵器、地形等ノ補助學等ニ至ルマデ前篇中適當ノ處ニテ說叙シ能ハザリシモノヲ編纂ス

第六卷

附錄

軍事諸般ノ必要件ヲ摘記シテ指揮官ノ手簿タラシム

基本戰術摘要解義第五卷

補遺ノ部

目次

●無烟火藥使用ノ影響	二
其一 無烟火藥ヲ小銃ニ用ユル關係	二
其二 無烟火藥ヲ火炮ニ用ユル關係	一二
●騎兵搜索警戒	二七
●威力偵察	四五
●候察	四六
●警戒第一線部隊ノ動作	六三

其一 步兵尖兵

六三

其二 騎兵尖兵

七一

其三 步兵小哨ノ戦闘動作

七五

其四 騎兵小哨ノ戦闘動作

七八

●砲兵中隊ノ四門編成ト六門編成トノ論說摘要

八一

●野戰ニ於テ曲射砲ノ必要

八五

●獨斷專行ニ關スル例證論說

九二

●諸計畫

一〇一

其一 鐵道輸送計畫

一〇一

其二 船舶輸送計畫

一二七

其三 作戰計畫

一五二

其四 集中計畫

一五四

●上車下車

上陸計畫

一六三

其一 團隊指揮官

一七三

其二 輸送指揮官

一七五

其三 各部各隊各人ノ動作並ニ一般ノ要件

一七七

●乘船揚陸

一八〇

其一 團隊指揮官

一八一

其二 輸送指揮官

一八二

其三 乘船搭載一般ノ注意

一八五

其四 材料搭載

一八七

其五 馬匹搭載

一八九

其六 人員ノ乘船

一九四

●築城論

其七	船内勤務並ニ注意	一九五
其八	揚陸	二〇〇
其九	上陸委員ノ組織及ビ職務	二〇四
其一	一般ノ原則	二〇七
其二	野堡断面	二一四
其三	堡壘ノ經始ニ充備スベキ性能	二二四
其四	屈折經始ノ利害	二二五
其五	曲線經始ノ利害	二二八
其六	砲兵ヲ堡壘内ニ配置スル利害	二三〇
其七	砲門ノ利害	二三二
其八	掩堡ノ用處	二三四

其九 凸角堡及ビ眼鏡堡ノ用處

二三五

其十 角面堡

二三六

其十一 防醫舎(木舎(複郭))

二三九

其十二 堡壘線

二四三

其十三 守兵ト堡壘幅員ノ關係

二四七

其十四 工事ニ要スル計算

二四九

其十五 防禦陣地ノ築城

二五五

其十六 攻者ノ戰場築城

二七一

其十七 副防禦

二七六

●海上戦闘

二八六

●海上ヨリ施行スル沿岸ノ攻撃

二九六

●封鎖被鎖

三〇八

● 壅塞

● 防禦水雷

其一 視發水雷

其二 電氣觸發水雷

其三 機械水雷

其四 構造的使用上ニ於ケル水雷ノ種別

其五 防禦水雷ノ布設

● 攻撃水雷

其一 外裝水雷

其二 擲爆藥

其三 反裝水雷

其四 水雷艇

三二四

三二六

三二七

三一九

三二〇

三二一

三二六

三三〇

三三〇

三三一

三三二

三三三

其五 魚形水雷

● 航海上ノ摘要備考

其一 羅針盤方位

其二 海圖一般ノ要領

其三 海圖上ノ警戒線

其四 印刷セル海圖ノ摺縮

其五 常ニ最大尺度ノ海圖ヲ用ヒンコトヲ要ス

其六 小尺度ノ海圖ヲ用ユルノ注意

其七 燈臺

其八 浮標

其九 霧中信號

其十 潮及ヒ潮流

三三五

三三九

三四〇

三四二

三四六

三四八

三四九

三四九

三五一

三五三

三五三

三五五

其十一	船ノ位置ヲ確定スルノ法	三五七
第十二	羅鍼偏差ノ變更	三六四
其十三	船内ニ於ケル羅針ノ地方磁氣變動	三六六
其十四	速力	三六七

●通信

其一	電信	三六八
其二	電話	三六八
其三	視號	三七四
其四	軍用鳩	三七五
其五	輕氣球	三八三

基本戰術摘要解義第五卷

補遺ノ部

本卷補遺ノ部ハ說叙ノ順序連繫上第一乃至第四卷中適當ノ條項ニ於テ說述シ能ハザリシ件並ニ既說ノ諸件ヲ研究スルニ當リ互ニ相俟ツテ參考トセザルベカラザル件等ヲ纏メテ一卷トナシタルモノナレバ說述ハ各條項毎ニ其種類事柄ヲ異ニシ終始貫聯セラル叙述ニアラズ唯ダ各種ノ件ヲ概ネ其種類ノ大同小異ニ準シテ逐次ニ列載編纂シタルニ過ギズ

●無烟火藥使用ノ影響

其一 無烟火藥ヲ小銃ニ用ユルノ關係

無烟火藥ノ性質

無烟火藥ノ成分ハ各國ニヨリ多少ノ差異アリト雖トモ要スルニ孰レモ微少ノ蒸汽ヲ發スルノミニシテ此蒸汽ハ速カニ散失シ硝煙ノ如キ認識シ易キ瓦斯物ヲ發セス敵ヲシテ射撃ノ位置ヲ知ル能ハサラシムルハ此火藥ノ特有利益タリ

無烟火藥ハ搜索ヲ困難ナラシム

夫レ戰鬪ハ彼我ノ觸接ニ始マリ此觸接ノ前ニハ彼我ノ搜索互ニ先キヲ爭フモノニシテ此搜索ノ結果ハ忽チ第一ノ彼我觸接ノ際ニ於テ大ニ其利不利ヲ左右スルモノナリ故ニ搜索困難ナレハ觸接困難ナリ觸接困難ナレハ彼ツテ戰鬪困難ナリ

相隔ツル兩軍ガ先ツ觸接スルハ搜索勤務ニ由テ始マルヲ常トス今敵ノ歩兵ガ陣地ヲ占領シアルモノトスレハ今日三兵種ガ之ト觸接ヲ取ルヘキ第一任務ニ於テ如何ナル困難ニ遭遇スヘキヤヲ述ヘントス

騎兵

無烟火藥銃ノ前方ニ於テ獨立騎兵若クハ斥候ハ第一幕タル哨兵線ヲ經テ候察ヲ行フハ頗ル困難トナレリ今日ニ至ルマテ騎兵斥候ハ孤立兵ノ射撃ヲ受クルヤ直チニ其射手ヲ硝煙ニ由テ發見スルヲ以テ躊躇ナク之レニ投スレハ縱令彼レカー一二發ノ射撃ヲナスモ既ニ切迫スル危急ノ爲メ照準正確ナラサルヲ以テ容易ニ之レヲ免レ忽チ之レヲ包圍シ之レヲ捕護セリ此捕獲サレタル兵卒ハ管ニ捕虜タルノミナラス頗ル貴重ナル情報ノ資源トナルモノナリナボレオンノ其騎兵ニ與フル命令中ニハ常ニ捕虜ヲナスヘシトノ一項ヲ見ルナリ蓋シ當時先驅騎兵ト稱シタル搜索勤務ハ此任務ヲ負擔セリ然レトモ現

今ニ至ツテハ大ニ其局面ヲ一變セリ隱蔽セル射手ハ頗ル其火器ヲ信用スルヲ以テ其第一發ヲ放射スルノ後連續逐次ニ好照準ヲ以テ數射彈ヲ送り忽チ騎兵ヲシテ消失セシムルノ餘裕ヲ有シ之レニ反シ騎兵ハ彼ガ發射スル射擊ハ硝煙ノ認ムヘキモノナク時トシテハ遂ニ何レノ方向ヨリ射彈ガ飛ヒ來ルヤヲモ知リ能ハサルヘシ又此射擊手ハ斯ノ如ク危險ナキヲ以テ志氣上リ結果ニ於テモ畏懼ノ念ヲ生スルコトナカルヘシ

數中隊ノ騎兵ハ威力ヲ以テ從合哨兵線丈ケハ退却セシメ得ルモ隱匿セル後方部隊ノ爲メニハ最早前進スル能ハス拒支セラルヘシ若シ強ヒテ之レニ接近セントスレハ忽チ大損害ヲ被ムルヘシ要スルニ騎兵ハ情報ハ往時ニ在テスラ既ニ之レヲ得難カリシニ無烟火藥採用以來ハ愈益々困難ナリ蓋シ騎兵ハ小銃ノ射擊ヲ受クルモ敵ハ銃煙ニ由リ

テ己レノ位置ヲ表セサルヲ以テ其ノ位置ニ關シテハ概略ニテモ案知スルコト能ハサルヘク又現兵器ノ射擊速度ハ頗ル神速ナルヲ以テ戰線ニ在ル銃數ヲモ推知スルコト能ハサルヘシ或人ハ曰ク騎兵ハ敵ノ兩側ヲ發見スヘシト而シテ其ノ情報ハ不變不動ノ線狀隊形ヲ採用スル敵ニ對スルトキハ大ナル價值ヲ有スヘシ然レトモ此隊形ハ毫モ現今軍隊ノ動作ニ適應セス縱令前線ノ兩翼ヲ表示スルトキニ於テスラ屢誤謬ヲ來タシ過早ノ展開ヲ誘發スルコトアリ此事タル有烟火藥ヲ以テスルモ既ニ屢實證セシ所ナリ況ンヤ無煙ニ於テオヤ決シテ敵ノ兩翼ヲ確認スルコトハ容易ノ業ニアラス蓋シ今日ハ縱層配備ヲ以テ隨意ニ兩翼戰線等ヲ成形スルヲ以テ其線ニ現ハル兩翼ヲ見テ直チニ之レヲ戰鬪實行ノ際ニ於ケル兩翼ト斷定スルコト難シ

搜索ヲ行フニハ敵ノ監視線内ニ潛入シ背後ニ於テスレハ一層容易ニ

シテ、且ツ、其利益大ナル、ヘシ、然レトモ、時間及情報傳達ノ不確實ナルガ爲メ、頗ル困難ヲ生ス、ヘシ、而シテ平時ノ演習ニ於テスラ已ニ屢、此困難ヲ見ル況ンヤ戰時敵ノ占領セル危険ノ國土ニ於テオヤ又況ンヤ傳令騎兵ハ屢、充分ナル地圖ヲ有セサルヲ以テ其國土ヲ熟知セサルニ於テオヤ

無烟火藥ハ
歩兵ノ搜索
ヲ必要トス
ルニ至ラシ
メタリ

以上論セルハ騎兵ガ停止且ツ蔭蔽セル敵ニ對シテ動作スルトキノ搜索困難ナルヲ述ヘタル者ニシテ此ク論シ來レハ無烟火藥銃ヲ以テ停止蔭蔽セル敵ハ目標大ニシテ且ツ火器ノ威力ヲ有セサル騎兵ノ如キ者ニテハ到底搜索ノ目的ヲ達セス宜シク歩兵ヲ以テ地形ヲ利用シ或ハ潛行シ或ハ火器ノ威力ニ由テ搜索スルノ外他ニ手段ナカルヘシ吾人ハ此點ニ就テ深ク研究ヲ要スルナリ

歩兵

歩兵ハ搜索勤務ノ法ニ從ツテ動作スルトキ徒歩ノ者ハ騎

威力搜索ノ
必要

兵ニ比スレハ一層容易ニ敵ヲ發見スヘキ點ニマテ潛入スルヲ得ヘシ然レトモ往復ノ爲メ其行進ノ時間長ク又偵察ノ情報ハ頗ル遲延スヘシ故ニ其第一觸接ニ許多ノ時間ヲ要スルニ至ル而シテ此孤立兵ノ見タル所果シテ幾許ソヤ唯タ僅カニ若干ノ散兵ニ過キスシテ之レスラ尙ホ近接シ能ハサリシナラン是故ニ躊躇不斷ヲ免レント欲セハ既往ト現在ト未來トヲ問ハス決然トシテ進見スルヲ要ス換言スレハ威力ヲ以テ敵ヲ攻撃スルノ一法アルノミ然レトモ此攻撃運動ニ方リ敵若シ恐怖スルコトナク近距離マテ攻者ノ前進部隊ヲ引寄せ之レヲシテ死ヲ必シテ前進スルカ猛烈ナル射撃下ニ在ツテ背後ノ地ニ退却スルカ或ハ成ルヘク蔭蔽シテ地上ニ固着シ砲兵ノ來援ヲ持ツカノ苦境ニ陥ラシムルトキハ此攻撃ハ頗ル損害ヲ被ムルモノトス故ニ蔭蔽セル敵ニシテ若シ陣地不明了ナル者ニ對シ之レガ搜索ヲ行フハ難ク已ム

有烟火藥ノ
判斷

ヲ得ス威力ヲ用フレハ其損害ハ固ヨリ覺悟セサルヘカラス此ク論シ
來レハ將來無烟火藥ニ於ケル戰闘ハ彼我先ツ歩砲兵ヲ以テ威力偵察
ヨリ始マリ決勝戰闘ニ移ルトキハ戒慎ヲ要スヘク遭遇戰ニ於テ主張
スル迅速ノ攻撃運動ノ如キハ多クノ場合ニ於テ爲シ能フコト少ナク
彼我互ニ戒慎偵察ニ時間ヲ費スナルヘシ

砲兵

敵ヲ擾亂シツ、前進スル歩兵ヲ援護スル爲メニハ砲兵ノ
必要ヲ感スルナリ若シ有烟火藥ヲ以テスレハ此任務ハ容易ナルヘシ
即チ敵兵放火ヲ始ムレハ其陣地ハ露出スヘク其位置ノ方向ハ正シク
之レヲ定ムルコトヲ得ヘク其深サニ至ツテハ疑ハシキ地境ニ局限ア
ルヘシ又射撃ノ修正ハ長時間ヲ要スル無ク從ツテ忽チ砲兵射撃ノ功
ヲ奏シ頑固ナラサル敵ニ對シテハ若干發ノ後其効ヲ奏スヘシ又歩兵
ノ前方ニアル道路ハ之レヲ掃射スルヲ以テ歩兵ハ容易ニ敵ノ棄却ス

無烟火藥ノ
關係

ル支撐點ヲ占領スルヲ得ヘシ
然レトモ無烟火藥ヲ使用スルニ於テハ其現在ノ距離ニ於テ砲兵ハ毫
モ望見スル能ハス唯タ損害ヲ受ケツ、困苦シテ前進スル友軍ノ歩兵
ヲ見ルノミ之レヲ扶援セントスルモ何處ニ向ツテ其射彈ヲ送ルヘキ
ヤ實ニ敵ノ陣地ハ其廣サ深サ共ニ頗フル不定ナリトス敵ノ占領シ得
ヘキ許多ノ支撐點及ヒ掩蔽物ヲ見ルモ彼レ果シテ之ヲ占領スルヤ如
何或ハ彼レ其側翼ニ在ルヤ否ヤ知ルヘカラサルナリ支撐點ハ放火ヲ
牽引ストノ語ハ既ニ久シク唱フル所ナリ

支撐點モ亦自ラ時トシテ著シキ幅員ヲ有スルモノニシテ我前方ニ在
ル森林ノ如キハ敵兵多分其縁ヲ占領スルナラン然レトモ何處ヨリ之
レニ觸接スヘキヤ又此林縁ノ前方ニハ土地ノ波狀又ハ溝壕ノ如キモ
ノ在ツテ敵兵之レヲ占領スルモ之レヲ發見スル能ハサルコト等ノ場

合ナキ能ハス此時ニ在ツテ徒ラニ林縁ヲ射撃スルモ唯タ彈丸ヲ吸收セラル、ノミニシテ毫モ其効ナカルヘシ
實地ニ就テ深ク研究スレハ如何ニ種々ノ迷謬ヲ來スノ容易ナルカ、如何ニ敏捷ナル敵兵ハ相對スル砲兵ヲシテ誤謬ニ陥ラシムルノ容易ナルカヲ知り得ヘシ
然レトモ砲兵ハ尙ホ疑ハシキ全地境ヲ射撃スルコトヲ得即チ換言スレハ土地ヲ穿鑿スルコトヲ得然レトモ之レカ爲メ箱内ノ彈藥ハ速ヤカニ耗盡スルニ至ルヘシ實ニ敵情ヲ探知スルハ必要ナル所ナリト雖モ是レ頗フル困難ニシテ且ツ大ニ時間ヲ費スモノトス其他如何ナル方法ヲ用フルモ其得タル情報ハ確實ナル能ハス又射撃スヘキ地表ハ廣淵深遠ナルヲ以テ尙ホ到底疑團ヲ免カル、能ハス故ニ、設、令、砲、兵、ヲ、以、テ、歩、兵、ヲ、扶、援、ス、ル、モ、之、レ、カ、爲、メ、費、ス、所、頗、ル、大、ナ、リ、

無烟火藥ハ比較的守者ニ利アリ

無烟火藥ハ砲兵ノ必要ヲ高メタリ

結論

以上所論ニ由テ斷言ヲ下セハ陣地ヲ占領スル歩兵ヲ偵察センニハ設令其兵力微弱ナルモ必ラス許多ノ時間及ヒ人員若クハ彈藥ヲ要スヘシ此事ニ關シテハ從來ニ比スレハ天淵ノ差ヲ生スルニ至レリ即チ攻者ニ在ツテハ敵歩兵ト第一ノ觸接ヲ爲スニ頗ル困難トナリ許多ノ勉勵ト損害トヲ以テセサルヘカラス守者ニ在ツテハ其兵力上ニ就キ久シク敵ヲ欺クコト容易ニシテ且ツ多ク歩兵ヲ損害セスシテ敵ノ摧耗ニ着手シ得ルナリ

砲兵ノ任務ヲ盡クスハ一層困難ナルニ至リシト同時ニ砲兵ヲ戰闘ニ要スル必須ノ度ハ益々多キニ至レリ夫レ歩兵モ現今ノ新兵器ニ對シテハ獨力ノ攻撃ヲナスコト甚々難ク豫メ充分ナル砲兵ノ準備射撃ヲ希望スルニ至リ近迫攻撃ノ爲メ偉大ノ功ヲ奏シタリシ騎兵モ今ヤ危険ナル新兵器ニ對シ著シク戰闘ノ價值ヲ下落セリ此等ヲ救済スルハ砲

兵ノ宜シク深ク研究シテ速ニ敵ノ火力ヲ沈黙セシムルノ策ヲ案出スルニアリ

其二 無烟火藥ヲ火砲ニ用フル關係

無烟火藥採用以來未タ之レヲ戰闘ニ於テ實際ニ經驗シタルコト無キヲ以テ次キニ述フル所モ果シテ其當ヲ得タルヤ否ヤハ之レヲ確定スル能ハス然レトモ理想上ヨリ論シ其利害ヲ研究スレハ砲兵用法上大革新ヲ來スノ原動力タルハ疑ヲ容レサル所ナリ

集團射擊ノ關係 夫レ有烟火藥ハ其硝烟ノ爲メ照準觀測ヲ困

難ナラシメ或ハ時トシテハ全ク之レヲ妨害ス之レカ爲メ射擊ハ著シク其効力ヲ減シ砲兵ノ威力ヲ少ナカラシメタリ殊ニ集團射擊ノ如ク多數ノ砲煩ヲ以テ射擊スルトキハ其硝烟ハ益々甚シク且ツ容易ニ飛散

無烟火藥ハ集團射擊ヲ有利容易ナラシメタリ

セス其妨害タル尤モ甚シ然ルニ無烟火藥發明後ハ机上ノ戰術ヲ實際ニ行フヲ得ルニ至レリ是レ即チ換言スレハ集團射擊ノ利益ヲ机上ノ理論ノ如ク應用シ得ルナリ何トナレハ有烟火藥ニ於テハ如何ニ机上ニ於テハ其利ヲ論スルモ實際ニ於テハ前陳ノ如ク硝烟ノ爲メニ案外其利ハ消滅セラルレトモ無烟火藥ニ於テハ是等ノ害無ケレハナリ乃チ無烟火藥ヲ用ユルトキハ數中隊ヲ一處ニ集メ得テ且ツ其間隔及ヒ陣地ハ地形ニ應シテ隨意ニ定メ得ルモ有烟火藥ヲ用ユレハ數中隊ヲ置クニハ一線ニ之ヲ排列スル能ハス必ラス梯隊ニセサル可カラズ(硝烟飛散ノ關係上凡ソ砲兵ヲ狭少ノ地區ニ集結シテ放列ヲ布クハ原則ニ非ラサレトモ大部隊ニアリテハ之レヲ爲スノ已ムヲ得サルコト屢アリ此ノ如キ場合ニハ無烟火藥ノ効尤モ著シク又如何ニ迅速ハ射擊ヲ爲スモ天候ノ如何ニ拘ハラズ硝烟ハ爲メ展望ヲ遮キラハハコト

ナシ

集團射撃ニテハ指揮官ガ一般ノ指揮ヲナシ中隊長ハ射撃ノ修正ヲナシ小隊長ハ方向ノ修正ヲナシ照準手ハ照準ヲ司ルヲ通則トス是等ノ各任務ハ無烟火藥ナレハ妨害物ナク有烟火藥ニ比シ頗ル容易ナリ則チ射撃ノ指揮ニ於テ指揮官ハ戰場ノ展望自由ナルヲ得部下ノ動作ヲ眼下ニ監視シ部下モ常ニ上官ヨリ監視ヲ受ケ居ルノ念ヲ生シ志氣ヲ奮勵ス又近傍ノ狀況ハ終始視察スルヲ得テ戰況ハ明ニ目視セラレ其戰況ニ應スル所置ヲナスコト容易ナリ有烟火藥ノ射撃ニ於テハ指揮官ハ放列ノ一翼ニ位置スルヲ要スレトモ無烟火藥ニ在ッテハ隨意ニ其位置ヲ撰定シ得ヘク小隊長ハ彈着ノ方向ヲ視テ其原因ヲ容易ニ知リ得照準手ハ照準容易從ツテ誤差少ナシ以上ノ如ク技術上ヨリスルモ指揮上ヨリ考察スルモ無烟火藥ノ有烟火藥ニ勝ルハ明ナリ

右ノ利アルト同時ニ尙ホ從前有烟火藥ニ於ケル左ノ害ヲ除キ得ル

- 一、風向ニ由テ指揮官ノ位置ヲ定ムルノ願慮ハ無用ナリ
- 二、硝煙ヲ避クル爲メ砲車ノ間隔ヲ大ニシタルモ無煙ナレハ此願慮ヲ減ス(損害ヲ避クルノ主意ヨリ間隔ヲ開閉スルトハ別ナリ)
- 三、發射速度ハ有煙ヨリ無煙ハ速ナリ
- 四、一翼ヨリ順次ニ放火ヲナスヲ要セス

砲兵位置發見ノ關係

從來ノ火藥ハ如何ニ地形ヲ利用シ蔭蔽シテ陣地ニ進入スルモ一發ノ射撃ニテ飛揚スル硝煙ハ直チニ自己ノ位置ヲ暴露セシム之レニ反シ無烟火藥ハ永キ間敵ヲシテ我位置ヲ知ラシメス且ツ陣地ノ幅員ヲモ知ルニ難カラシム故ヲ以テ決局彼我無烟火藥ヲ用ユルニ於テハ砲兵戰ノ端緒ニ於テ彼我何レカ早く敵ノ陣地ヲ發見シタル者ニ有利ノ勝運ハ歸スルナリ夫レ有烟火藥ニ在ッ

テハ假令ヒ敵ノ陣地ヲ知ルモ之レニ向ツテ射撃スルトキハ忽チ我硝
烟ノ爲メニ敵方ヲ展望スル能ハサルニ至リ著シク其効力ヲ減セシム
無烟ニ在ツテハ其害ナキ故一亘敵ノ陣地ヲ發見セハ連續迅速ニ之レ
ヲ砲撃シ得ヘク之レニ反シ未タ敵砲ヲ發見シ能ハサル他者ハ唯ダ照
準シタル敵ノ砲火ヲ受クルノミニテ之レニ應スル能ハス其不利知ル
ヘキナリ而シテ又無烟ニ在テハ一旦敵ニ陣地ヲ覺知セラレタル後ハ
彼我硝烟ハ妨ケナキ故照準容易好目標トナル故成ルヘク地形ニ由テ
砲ヲ蔭蔽スルハ甚タ緊要ナルニ至レリ從ツテ工事ヲ要スル場合モ屢
アリ或ル論者ハ曰ク敵方ヨリノ砲聲ト彈着彈跟ノ方向ニテ敵ノ位置
ヲ判斷シ得ルト是レ漠タルコトニテ感服スル能ハス
前陳ノ如ク無烟火藥ノ爲メ尤モ困難ヲ感スルハ敵ノ砲兵ノ位置ヲ初
メヨリ知り得サルニアレトモ然シ終始敵眼ヲ避ケテ秘匿スルハ到底

爲シ能ハス唯タ戰鬪ノ始メニ於テ若干時間ハ之レヲ知リ難キモ砲手
ノ動作前車彈藥車ノ運動並ニ硝烟ハナキモ火光等ニテ早晚其位置ヲ
知り得ヘシ然シ未タ砲車ノ位置ハ如此ニシテ知り得ルモ陣地ノ幅員
砲數等ハ判然之ヲ知リ難ク想像ヲ以テ大凡ノ陣地正面ハ此邊ヨリ彼
邊マテナラント判斷シテ射撃スルヲ要スヘシ
論者曰ク砲ノ位置ヲ全ク敵ニ知ラシメサル爲メニハ間接射撃ヲ可ト
スト是レ集團射撃困難ニシテ常用スヘキ法則ト爲ス能ハス而シテ從
前ハ烟ヲ利用シテ運動ヲ匿クシタルモ無烟ニ至ツテハ之レヲ爲シ能
ハス唯タ幾分カ位置ノ轉換ヲ以テ更ニ敵ニ修正ヲ爲サシムルコトハ
爲シ得ンモ今日ノ照準修正容易ナル兵器ニ在ツテハ甚シク効ナシ即
チ今日ニ在ツテハ天然人造ノ掩體ニ依頼スルノ外他ニ手段ナカラ
ン但シ砲兵ノ大集團ニシテ止ムヲ得ス其一部ヲ暴露スルトキハ其中隊

砲兵動作ノ
三段落

ハ恐ルヘキ敵ノ集中砲火ヲ蒙ムルコトヲ覺悟セサルヘカラス
砲兵戦闘動作ノ關係 凡ソ戦闘ノ初メヨリ終マテ砲兵ノ爲

ス動作ハ次キノ三段ニ分チ得ヘシ

第一段 最初ノ陣地ニ於ケル準備戰或ハ遠戰ナリ此陣地ハ通常敵ヨ
リ二千五百米以上ノ距離ニアリ

第二段 漸次進ンテ砲兵ノ決戰トナル乃チ二千五百米以内ノ距離ニ
於テス

第三段 決勝攻撃ナリ此射撃ハ第二段ニ於ケル陣地ヨリナスカ或ハ
更ニ進ンテ攻撃點ヲ射撃スルナリ而シテ其陣地變換ハ此時機ニ於
テハ困難ナルモノニシテ敵ノ火力ハ尤モ猛烈ヲ極ム故ニ運動ハ遮
蔽シテ之ヲ爲スヲ要シ又馬匹モ保護シ置カサレハ遂ニ運動性ヲ失
フニ至ルナリ

往時砲兵ガ
近距離ニ進
ミシ理由並
ニ目的

往時ハ約六百米マテ接迫セリ是レニツノ目的ヲ有シタル者ニシテ一
ツハ攻撃隊ノ志氣ヲ助ケ一ツハ適當ノ時ニ於テ射撃ヲ中止スル爲メ
ナリ蓋シ遠距離ニテハ此中止スヘキ時期ヲ知り難ケレハナリ其他敵
ノ陣地ヲ占領シタルトキハ直チニ之レヲ守備シ得ル爲メ又退却ニ當
ツテハ退却部隊ヲ收容スル目的ヲモ有セリ然シ此占領シタル陣地ヲ
守備スル爲メ直チニ前進スルト云フハ餘マリ感服スヘキ說ニアラス
何トナレハ此時期ニ於テハ既ニ馬匹ハ多クノ損害ヲ受ケ爲メニ迅速
ノ運動性ヲ有セス又退却ヲ收容スルト云フモ理論ノ如ク好都合ニハ
行ハレス殆ント此時ニハ接戰ナレハナリ千八百七十年戰頃ニ發砲
ヲ用ヒシハ前陳ノ如ク近距離ニ於ケル迅速射撃ヲ主トセシ爲メナラ
ン必竟往時ハ砲ノ威力遠距離ニ逞シカラサルト有烟ナル爲メトニテ
如此近距離前進ヲ要セシナラン然レトモ方今無烟火藥ヲ採用シ威力

大ナル速射砲ヲ用ユルニ至ツテハ近距離ニ進マサルモ彼我ノ識別容易ニシテ射撃ハ隨意ニ適當ノ時期ニ於テ緩急シ得ヘク威力モ遠距離ヨリ逞フスルヲ得ルヲ以テ前進ノ必要ハ大ニ減セリ

偵察ノ關係

無烟火藥ハ偵察ヲ困難ナラシム殊ニ銃砲ノ威力進ミシ故近距離ニ於テ偵察ヲナスハ甚タ困難ナリ今日ニ在ツテハ前述ノ如ク成ルヘク地形ヲ利用シテ己レヲ蔭蔽スルヲ以テ從ツテ遠距離ヨリノ偵察ハ其効ヲ收メ難ク然ルニ昔ハ我砲兵現ハルレハ敵カ之レニ向ツテ射撃シ其硝烟ニテ容易ニ敵砲ノ位置ヲ知り得タレトモ無烟火ニテハ然ル能ハサル故戰鬥ノ初期ニ於テ先ツ此砲兵ノ位置ヲ偵察スルハ甚タ緊要ナリ乃チ戰鬥一般ノ偵察ノミニ依頼セス砲兵自ラモ必ラス偵察ニ努力セサルヘカラス從來砲兵ノ爲セル偵察ハ我砲兵陣地ノ偵察ヲ第一トシ敵ノ砲兵陣地ハ之レヲ第二トセル傾向アリタレ

トモ今後ハ必ラス先ツ敵ノ砲兵ノ位置ヲ偵察スルヲ要ス蓋シ無烟火藥ノ爲メ尤モ影響アルハ此偵察ナラン獨逸ニ於テハ砲兵ノ偵察隊ヲ二ツニ分チ一ツハ進ンテ敵砲ノ位置ヲ確メ一ツハ專ラ我陣地ヲ偵察セリ

陣地撰定ノ關係

陣地ノ撰定ニ關シテハ從來ノ者ト著ク異リタル事ナシ唯タ火力ヲ現ハシ得テ火炮ハ隱蔽スル等ノ要求ハ無烟火藥ニ於テ尤モ必要ナルハ既ニ説ケルガ如シ陣地撰定ニ關シ論者ハ曰ク無烟火藥採用以來火炮ヲ敵眼ニ觸レサラシムルハ尤モ必要ナル處ナレハ之レガ爲メ肩墻砲臺等ヲ作ルモ反ツテ目標トナルノミナレバ或ル遮蔽物ノ背後ニ於テ間接射撃ヲナスヲ可トスト是レ既ニ此説ハ前ニ辯駁シタル如ク適當ナルモノニアラス必竟敵ニ遮蔽スルハ必要ト云ヘル意味ハ間接射撃ニアラサレハ射撃シ能ハサル程火炮ヲ遮蔽

スルニ非ラス敵ヲシテ容易ニ照準シ能ハサル如ク遮蔽スルヲ要スルナリ即チ遮蔽物件ニ直接シテ位置セサルモ可ナリ歐洲諸國ニ於ケル葡萄園ノ如キハ我砲兵ノ照準ニ差支ヘナク敵眼ニ對シテハ能ク遮蔽シ尤モ良好ノ陣地ナリ又火砲掩護ノ爲メ砲臺肩墻ヲ作ルハ可ナレトモ是又目標トナラサル如ク敵ニ遮蔽シテ構造スルコトニ注意スルヲ要ス

陣地進入ノ關係

砲兵陣地ニ進入スルニハ多少ノ準備ヲ要ス即ハチ待機陣地マテ砲兵ヲ招致シ之レヨリ陣地ニ進入スルヲ普通トス此等ノ運動ハ從前ヨリ一屬巧ミニセサルヘカラス即チ敵ニ遮蔽スル爲メ放列ノ後方ニテ前車ヲ解説シ臂力ヲ以テ之ヲ放列ニ備フルノ必要ヲ感スルニ至レリ又目標ハ豫メ陣地進入前ニ之ヲ確示シ置カサレハ不可ナリ從來ノ如ク陣地ニ就キテ然ル後目標ヲ示ス如キニテハ

既ニ遲シト云フヘシ前車段列等ハ敵眼ニ遮蔽スルノミナラス損害ヲ受ケサル如ク蔭蔽保護セサルヘカラス論者ハ曰ク最初ヨリ全砲兵ヲ戰線ニ出サス若干ヲ豫備ト爲スト目下此說ヲ採用スル國モアレトモ普佛ニ於テハ此說ニ反對セリ此反對ハ至當ナラン

砲火ノ開始

將來ノ砲兵ハ四千米或ハ是ヨリ以上ノ距離ヨリ發火ヲ始ムト云フ說アリ其說ノ主トスル所ハ敵ノ未タ展開セス密集行軍縱隊ニアル間ニ之レニ向ツテ放火セバ敵ハ躊躇シ早ク我陣地ヲ發見シ能ハサルヘシト云フニアリ然レトモ此距離ニテハ視力充分ナラス照準修正ニ時ヲ費シ彈藥ヲ多ク消耗シ且ツ砲兵ハ屢陣地ヲ變換セサルノ原則ヨリ考フルモ斯ク遠距離ヨリ發火ヲ始ムルハ不適當ナリ殊ニ又四千米突以上ニ於テ敵ガ行軍縱隊ヲ我ニ暴露スル如キ地形ハ尠ナカルヘシ即チ普通砲兵ノ發火開始ハ二千五百米乃至三千五百

米ノ間ニアルヲ適當トス
 射撃ノ指揮 有烟火藥ヨリ無烟火藥ハ射撃ノ指揮容易ナルハ
 自然ノ數ナリ從ツテ其射撃速度ヲ増加セシ結果ハ射撃軍紀ヲ嚴ニス
 ルノ必要益多ク又假標ハ無烟ニ於テハ後方ニ取ルノ必要ナキニ至レ
 リ此他前陳集團射撃ノ關係ニ於テ論セル所ヲ参照スヘシ
 砲兵ノ自衛 火砲ハ威力増加セシト硝烟ノ無キニ至リシハ砲兵
 ニ向ツテ施ス歩騎兵ノ攻撃ヲ愈々困難ナラシメタリ千八百七十年戰ニ
 於テハ有烟火藥ナリシモ猶ホ歩騎兵ノ攻撃功ヲ奏セサリシコトアリ
 況ンヤ今日無烟ニテハ奏功ノ見込ミナシト斷言スルモ過言ニアラサ
 ルナリ之レニ由テ砲兵自衛ノ力ハ増加スルコトナレリ唯タ砲兵ノ
 不利ナルハ不意ニ歩兵ガ千米突以内ニ接近シタル場合ナリ故ニ之ヲ
 豫防スル爲メ監視兵ヲ出スノ必要ハ免レサルナリ

陣地變換

砲兵ノ戰闘ハ射撃ヲ主トスルヲ以テ運動間ハ威力ナ

シ故ニ陣地ヲ變換スルトキハ其運動中並ニ新ニ試射ヲ爲ス間ハ効力
 ヲ逞フスル能ハサルハ普通ノ原則ナリ方今無烟ニテハ遠距離ヨリ彼
 我ハ區別明瞭ナル故屢陣地ヲ變スル必要ナカルヘシ決戰攻撃ノ際砲
 兵ガ前進スルヤ否ヤニ就テハ衆說アレトモ何レノ國ノ操典ニテモ決
 勝ノトキハ近距離ニ進ムト云ヘリ是レ蓋シ志氣ノ關係ヨリスルナラ
 ン威力上ニ於テハ敢テ前進スルノ必要ナシ

攻撃防禦ノ利害

皮想ノ考ヲ以テスレハ無烟ハ防禦ニ利益ア

ル如シ即チ防者ハ巧ミニ地形ヲ利用シ距離ヲ測定シ遠距離ヨリ發火
 シ攻撃砲兵ノ陣地ヲ撰定スル以前ニ多ク損害ヲ與ヘ得ヘク且ツ防禦
 砲兵ハ敵ニ發見サレ難シ然レトモ更ニ一步ヲ進メテ考フレハ砲兵ヲ
 全ク蔭蔽スルニハ間接射撃ヲ行ハサルヘカラス然リ而シテ此間接射

撃ナルモノハ固定目標ニハ効力アレトモ遊動目標ニハ効ナシ然ラハ反ツテ固定ナル防者ハ不利ニシテ遊動ナル巧者ニ利アリト云ハサルヘカラサルニ至ル且ツ攻者モ決シテ地形ヲ利用シ得スト云フコトナシ殊ニ攻者ハ先制ノ利ヲ占ムルニ於テ乎加之陣地ヲ敵ニ秘匿スルハ小部分ノ砲兵ニ在ツテハ爲シ能フモ集團砲兵ニ至ツテハ到底全ク之レヲ蔭蔽スル能ハス此ニ於テ攻撃防禦ニ就テハ別ニ無烟有烟ヲ問ハス從來ニ於ケル原則ト大差ナカルヘシ

以上所陳ノ如ク之レヲ一言ニ約セハ無烟火藥採用以來ハ集團砲兵ノ効力ハ著シク大トナリ下級指揮官ヨリ上級指揮官ニ至ルニ從ヒ愈々研究考慮ヲ要シ任務動作モ困難トナレリ吾人ハ愈々進ンテ深ク研究スル所ナカルヘカラス

●騎兵搜索警戒

總論

各國々軍ノ兵數ハ日々ニ増大シ從ツテ軍ノ機動地域廣大トナルコト昔日ノ比ニ非ラス往昔ノ戰鬪騎兵ハ今日火器ノ銳ト共ニ其任務ノ一變ヲ促ガサルト同時ニ兵數強大ナル軍ノ機動地域ヲ縱横ニ搜索シ或ハ廣正面ニアル軍ノ運動ヲ掩護スルノ必要日ヲ逐フテ重大トナレリ殊ニ此重大ナル任務ヲ果タス爲メ無二ノ妨害ハ現今採用ノ微烟火藥ナリ

此ニ於テカ騎兵ノ任務ハ往昔ヨリ日ヲ逐フテ繁多重要トナルト同時ニ此速率ヲ以テ之レガ妨害物モ亦タ長足ノ進歩ヲナシツ、アリ乃チ此ノ妨害ニ打ち勝ち騎兵ノ重要任務ヲ完全ナラシメンニハ吾人孜孜トシテ研究スルモ尙ホ及バザランコトヲ恐ル實ニ將來ニ於ケル作戰

一般ノ原則

ノ運命消長ハ一ツニ騎兵ノ活動如何ニアルモノト謂フモ敢テ過言ニアラサルベシ

凡ソ作戰運動中殊ニ戰鬪ノ前後ニ在ツテ騎兵ノ任務ハ概ネ搜索警戒ノ部分ニ屬スヘキ者ナリ

夫レ戰地ニ在ツテ搜索ノ目的トスル所ハ敵軍ノ兵力、其ノ戰鬪序列、敵軍ノ運動並ニ其ノ企圖等ヲ先知シ我指揮官ニ計策ノ材料ヲ供スニアリ又警戒ノ目的トスル所ハ此ノ搜索ヲ行フト同時ニ我軍ノ運動企圖等ヲ敵ニ秘匿スルコトヲ勉メ地形ノ觀察ヲ爲シ(地形ノ變狀、地圖ト實地トノ差異、我軍ノ運動ヲ利シ或ハ妨害スベキ者等)我軍爾後ノ運動ヲ顧慮スルニアリ

則ハチ騎兵ノ動作ハ其ノ自己本軍ヲ掩護シ且ツ同時ニ敵狀ヲ搜索監視スルヲ得ルモノニシテ實ニ一舉兩得ノ利アリ夫レ然リ故ニ騎兵ハ

通常搜索警戒勤務中ニ在ツテ尤モ有益ナル一ツノ活動器械タルヘキ者ナリ因テ凡ソ是ノ使用ニ充テラレタル騎兵隊長タル者ハ常ニ其總指揮官ノ心ヲ以テ己レノ心トナシ、總指揮官ノ志慮ヲシテ全ク實際ニ其ノ當ヲ得セシムル如ク動作セザルベカラス是レ實ニ騎兵隊長ハ達見學識ニ富メル戰畧眼及ヒ戰術眼ヲ以テ妙機ヲ看破スルノ才能アルヲ要スル所以ナリ

前項ノ理ニ基キ凡テ大搜索ニ充ツヘキ騎兵隊長ノ所見ハ必ラス其ノ本軍總指揮官ノ意圖ト同一ナルヘク又タ此ノ騎兵隊長ハ獨リ其ノ部下ノ指揮上ノミナラス必ラズ廣ク一般ノ情況ニ其ノ注意ヲ及ボサルベカラス即ハチ其ノ自隊ノ負フ所ノ作戰上ノ責任ハ常ニ本軍動作ニ在ツテ其ノ事ノ大ト小トヲ問ハス必ラス大關係アル者ナルヲ忘ルヘカラサルナリ蓋シ是ノ關係論ハ隊ノ大小ヲ問ハス大ニシテ師團ナ

搜索ニ任ズ
ル騎兵ニハ
指揮官ノ意
圖ヲ精細ニ
訓スルヲ要
ス

ルモ小ニシテ其ノ一部隊ナルモ皆ナ是レ同一ナル者ナリ
凡ソ搜索ニ任スル所ノ騎兵ニ在ツテ若シ總指揮官ヨリ預メ其ノ隊長
ニ本軍一般ノ情况及ヒ總指揮官ノ企圖等ニ至ルマデ精確ニ訓示ヲ與
ヘサル時ハ其ノ動作ハ一ツモ效益ナキ者ナリ故ヘニ騎兵ヲ放ツテ總
指揮官ノ耳目タラシムルニハ宜シク精細ニ情況並ヒニ總指揮官ノ意
圖企望等ヲ訓令スヘシ換言スレバ總指揮官ノ胸中ニアル作戰計畫ノ
大要主旨ヲ騎兵隊長ニ了解セシメ置クヲ要ス然ルトキハ此ノ騎兵隊
ハ自己ノ方針畫策ヲ定メ其ノ目的ニ適スル如ク動作スベキナリ
凡テ軍ガ或ハ發働シ或ハ集合シ若シクハ行軍シ停止スルモ必ラス常
ニ自ラ守リ且ツ敵情ヲ探知シ同時ニ又タ敵軍ヲシテ居常自ラ守リ自
ラ有利ノ事情ヲ探知スルヲ得サラシムルガ如ク之レヲ遮支スル者は
レ一般ノ本務ナリ

然ルニ其ノ本務中又タ二大別ナキ能ハス即ハチ自衛守禦及ヒ敵情搜
索是レナリ

其ノ自ラ守ルノ法即ハチ自衛守禦ハ是レ一定ナル者ニシテ時機ヲ問
ハス位置ヲ問ハス皆ナ是レヲ施行スヘキナリ而シテ搜索ノ動作ニ至
テハ自ラ一定ナル能ハス其ノ法蓋シ一ツニシテ足ラス而シテ其ノ撰
擇ハ時機ニ從ヒ其ノ變換極マリナキ者トス

夫レ成規ノ前哨若シクハ前衛等ノ如キハ豫シメ遠ク敵軍ノ動作ヲ探
知シ之レヲ偵知スルカ如キハ共ニ決シテ皆ナ其ノ能ハサル所而シテ
又巡察若シクハ斥候ノ如キニ至テハ即チ蓋シ夫ノ前哨前衛等ニ附屬
スル者ニシテ而シテ却テ能ク其ノ本軍ノ警戒ヲ助ケ能ク其ノ警備ヲ
爲スヲ得ヘシ然レモ其ノ敵情精密ノ搜索ニ至テハ即ハチ亦タ蓋シ其
ノ能クセサル所是レ其ノ遠大距離ニ前進セサルヲ以テナリ是ニ於テ

乎何レノ時機ヲ問ハス遠ク獨立スル搜索勤務及ヒ其ノ後續軍ノ爲メノ警戒勤務ハ自ラ其ノ方法ノ差異アル者ナリ騎兵ハ此ノ二様ノ勤務ヲ全フスル爲メニハ其ノ動作方法モ亦タ二種ニ分タザルヘカラス若シ同時ニ同方法ヲ以テ之レガ一個兩用ヲ謀ルヤ則ハチ事必ラス兩立セスシテ終ニ以テ兩ナカラ其ノ功ナキニ至ルナリ

然ルニ又タ實施上ニ於テ強テ是ノ二勤務分離ノ旨趣ニ泥シ或ハ終ニ獨立搜索任務ヲ負ヘル騎兵ノ如キハ之レヲ他ニ用ユヘカラサルト云フ偏論ヲ以テ其ノ後續軍ニ對シ隱然掩護ノ任ヲ負フヲ免除スルヲ能ハサル者ナリ蓋シ凡ソ一軍ノ前面若シクハ側面中ニ於テ働作スル所ノ兵ハ其ノ働作及ヒ其ノ自己軍ノ爲メニ要スル所ノ警戒法ニ依テ自然同時ニ其ノ本軍一般ノ警戒ヲ爲スヲ得ル者ナリ然レモ其ノ實ヲ論スレハ是ノ警戒勤務ハ則ハチ蓋シ此ノ獨立派遣ノ騎兵ノ責任ナル者

ニアラヌ何トナレハ此ノ際ニ在リテハ本軍掩護ノ本分ハ蓋シ其ノ後方中間ニ在ツテ警戒ニ專任スル所ノ警戒騎兵(前哨騎兵前哨騎兵等ノ自ニ屬ス)ニ委任セララル、者ニシテ之レニ加フルニ又タ其ノ後方ニ第三ノ掩護兵ノ猶ホ密接スル者アリ之レヲ前衛歩兵若シクハ前哨歩兵ト爲ス是レ前面警戒法ノ完結ヲ爲ス者ナリ

夫ノ大搜索ノ任ニ當レル騎兵(師團ニ屬スル騎兵ノ外特即ハチ獨立騎兵ト、本軍最近ノ地ニ在テ警戒ノ任ヲ負ヘル諸線即ハチ前哨若シクハ前衛トノ中間ニ更ラニ一梯陣ヲ置キ之レヲシテ眞ニ警戒保安ノ任ニ當ラシム是レ即ハチ師團ニ屬スル師團騎兵ヲ以テ之レニ充ツヘキ者ニシテ其ノ本分ト爲ス所主トシテ敵ノ奇襲ヲ慮ルニ在リ又タ歩騎二兵連合ノ混成前哨兵ハ其ノ巡察及ヒ斥候等ト共ニ本軍直接ノ警戒線ニ在ル者ナリ而シテ是ノ際ニ在テハ彼レ其ノ本軍ノ直ニ

敵前ニ在ル時ニアラサレハ決シテ敵中當日ノ事情ヲ探知スルコト能ハザル者ナリ蓋シ其ノ本軍ガ敵ト遠ク離隔シアルトキニアツテハ此ノ直接警戒ニ任スル者ガ本軍ヨリ離レテ敵ヲ搜索スル者ニアラズ假令ヒ搜索スルモ僅カニ將校斥候ヲ放ツニ過キスシテ此クノ如キ遠距離ニアル搜索ハ專バラ獨立騎兵ノ任ナレハナリ之レニ反シ彼我ノ本軍近ク相接スルニ至リテハ獨立騎兵ノ機動ノ時期ト範圍ハ既ニ終局ニ至リ此ノ際ニ在ツテハ獨立騎兵ハ既ニ本軍ノ側面ニ合シ以テ終ヒニ戰列騎兵タルベキヲ以テナリ

夫レ騎兵大搜索勤務ハ凡テ戰爭ノ初期及ヒ動員集中等ノ際ニ於テ初メテ之レヲ施行スヘキ者ニシテ其ノ目的トスル所ハ專ラ敵軍ノ諸般ノ動作ヲ偵察シ敵ノ情況ニ就テ正確ノ搜索ヲ遂ケ之レヲ我軍ノ總指揮官ニ通報スルニ在ルナリ

此ノ大搜索騎兵ハ(軍ニ關スル)其ノ本軍ノ企圖ニ基キ廣ク敵方ノ搜索ヲ爲スニハ本軍ヨリ遠大ノ距離ニ前進セザルヲ得サルナリ故ヘニ此ノ騎兵ハ獨立シテ其ノ任務ニ服スルナリ而シテ師團ニ屬スル師團騎兵ハ本軍ニ接近シテ警戒勤務ニ服シ行進間ト停止間トヲ問ハス本軍掩護ノ任務ヲ負ヘル者ナリ

前項ノ意ニ基ツキ是ノ獨立騎兵ニ在テハ則チ勉メテ自由獨斷ヲ許スハ常ネニ便多キヲ忘ルヘカラス而シテ其ノ騎兵ノ動作ト本軍ノ動作トノ作戦上ノ連絡ニ至テハ夫ノ師團騎兵即チ之レカ漏縫ヲ爲スヘキナリ是レ此ノ師團騎兵ハ中間連絡點ニ在テ進退スレバナリ

此ノ大搜索ニ任ズル獨立騎兵ハ既テニ本軍ノ前方ニ派遣セラレ、歟或ハ其ノ側面ニ在テ搜索ノ際ニ當テモ亦本軍ノ諸動作ヲ陰蔽シ之レガ暴露ヲ支遮スルノ第一線ヲ爲ス者ナリ而シテ其ノ本軍直接ノ警戒

任務

ニ至テハ則ハチ之レガ專務ヲ負フ者ニ非ラス何トナレバ凡ソ獨立騎兵ノ受任範圍内ニ在テ何ノ時ヲ問ハス機動出沒スル性質タルヘキ者ガ後方團體ノ爲メニ其ノ機動ヲ束縛セラル、如キコアリテハ其ノ活動ヲ痿縮セシムル者ナレハナリ且ツ又タ此ノ騎兵ノ搜索面ハ廣大ニシテ從ツテ其ノ最外線ハ甚タ緻密ナルモノニアラサルヲ以テ敵ノ斥候兵ハ容易ニ我騎幕ヲ潜入シ我ガ縱隊ニ接近スルヲ得ベシ是ニ於テ本軍直接警戒ノ爲メニハ更ラニ別團ノ騎兵ヲ以テシ行軍駐軍ヲ論セス常ネニ歩兵ト連絡シテ任務ヲ履行セシム乃ハチ駐軍ニ在ツテハ混成前哨ヲ成形シ行軍ニ在ツテハ前衛側衛及ヒ後衛ノ警戒線ヲナス歐洲諸強國ノ如ク數軍團ヲ編合スル所ノ軍ニ在テハ一個乃至數個ノ獨立騎兵師團ヲ以テ軍ノ前方ニ獨立派遣シテ搜索ニ任セシムルナリ故ニ其ノ搜索面モ廣大ニシテ前進距離モ遠大ナリ殊ニ騎兵師團ハ騎

砲兵ヲ伴フヲ以テ獨立戰鬥力ヲ有シ動作モ不羈自由ナリ之レニ反シ大ナル騎兵集團及ビ騎砲兵ヲ有セザル搜索隊ニ在ツテハ其ノ戰鬥力ハ甚タ不充分ニシテ唯タ非常ノ場合ニ於テ白兵衝突ヲナスカ或ハ騎兵銃ヲ以テ消極的ノ動作ニ出ツルアルノミ即ハチ是等ハ威力ヲ以テ搜索ヲナスノ能力ニ乏シク主トシテ運動ニ由テ搜索警戒ノ任ヲ盡スヘキノミ凡ソ搜索ニ任ズル騎兵ハ概シテ通常其ノ本軍前面ヲ搜索スルヲ力トメ又タ勉メテ敵ト觸接シテ其ノ踪跡ヲ失フコトナク敵狀ヲ探知スルト同時ニ我軍ノ運動ヲ敵ニ匿秘シ時トシテハ敵ノ騎幕ヲ突破シ其ノ後方ノ情況ヲ搜索シ或ハ徒歩戰ヲ以テ一部ノ前進ヲ遲滯セシムルヲ要スルコトアリ騎兵ノ任務ハ戰鬥ニ非ラスシテ搜索ニアルコトヲ忘ルベカラス戰鬥

ハ唯タ任務ヲ果タス爲メ一時ノ手段タルニ過キス殊ニ騎兵ハ本軍指揮官ト常ニ聯絡ヲ保モチ時々刻々前方ノ情況ヲ速カニ送呈スルニ由テ其ノ効著シキモノトス故ニ騎兵ガ前方ニ動作スルニ當タリ後方連絡ハ常ニ顧慮セサルヘカラス側面ニ迂回シテ搜索スル如キハ搜索ノ良手段タリト雖モ其ノ側面ニ迂回シタル爲メ敵ニ退路ヲ斷タレ折角得タル情報ヲ送達スルニ其ノ途ナキカ如キニ陥ルベカラス是レ實例ニ於テ往々アル所ナリ要スルニ其ノ搜索任務ノ實効若シクハ其ノ達セント欲スル目的ハ概シテ屢々其ノ兵力上ヨリセンヨリハ寧ロ狡猾方畧ノ使用ヲ良トスル者ナレトモ時トシテハ又タ好結果ヲ得ンガ爲メ終ニ攻勢ノ戰鬪ヲ以テスルコトアリ然ル時ハ宜シク最大猛氣ヲ發シ最後ノ勇力ヲ奮ヒ以テ急突敵軍ヲ襲撃スヘシ又タ之レニ反シ自ら防守ノ手段トシテ戰鬪ヲ交ヘサルヲ得サルトキハ巧ミニ働作シテ逆

襲ヲ爲スカ或ハ騎兵銃ノ火力ニ依頼スヘキノミ抑モ搜索警戒ヲナスニ當リ其ノ近隣諸地點ヲ悉ク警備センガ爲メ甚シク其ノ部下ヲ分散スルハ蓋シ許サ、ル所ニシテ古語ノ所謂ル自ラ掩護センコトヲ謀ルノ過度ナル者ハ終ニ却テ一ツモ掩護スル所ナキニ至ルト云フ者亦タ是レガ爲メナリ殊トニ騎兵搜索勤務ヲナスニアリ、テハ兎角兵力分散スルノ性質ヲ有スルモノナレハ常ニ兵力收集ト云フ點ニ就テハ隊長タルモノ深カク注意セサルヘカラズ凡ソ搜索勤務ハ決シテ之レガ常則ヲ建ツルヲ得ヘキノニ非ラス決シテ又タ其ノ勤務中諸般ノ目的ニ適用スヘキ一定ノ方法アルコトナシ蓋シ是ノ際ニ在ツテハ戰術若シクハ戰畧等ノ知識及ビ果斷判決或ハ目撃又ハ經驗等尤モ之レガ用ヲ爲スヘキノミ故ニ夫ノ行軍法若シクハ停止警戒法ニ關スル者等ニ非ラサル外ハ決シテ他ニ定則アルヲ

見ズ

遠ク前方ニ派遣セラル、獨立騎兵ハ運動中或ハ停止間ヲ問ハズ自ラ警戒シ自ラ搜索シ多クハ他ノ援助ヲ受ケズ獨立動作スル者タリ之レニ反シ所謂前衛騎兵ト稱スル所ノ前衛ニ附屬セル騎兵ハ本軍ヨリ遠ク離隔スルコトナク常ネニ聯絡ヲ有モチ本軍ノ支援ヲ受ケツ、本軍ノ周圍ニ於テ搜索警戒ノ任務ニ服スル者ナリ故ヘニ行軍中ニ在ツテ敵ノ扼止スル所トナレハ忽マテ本軍歩兵ノ援助ニ由テ行進路ヲ開キ停止ニ於テハ歩兵ノ掩護ノ下ニ宿營ス

前進行程距離

搜索ニ任ズル騎兵部隊ノ前進距離ハ時ノ情況並ヒニ地形ニ應シテ變化スヘク此ノ距離ヲ豫メ一定スルコト能ハサルモノナリ然レトモ之レヲ概論スルニ凡ソ此騎兵ガ進行スヘキ距離ハ其ノ前面若シクハ側面ニ至ルマテ皆ナ始メ一日行程乃至三日行程ノ中ニ在

搜索警戒

リ其ノ一日行程ハ大畧二十吉羅米突乃至二十二吉羅米突ト爲ス蓋シ獨立騎兵ノ其ノ前方進行又タ其ノ本軍ノ退却ノ際ニ在テ後方進行等ノ働作距離愈々遠大ナル時ハ其ノ搜索警戒ハ愈々確實ニシテ且ツ愈々前衛騎兵ノ任務働作ヲ便ニスル者ナリ之レヲ要スルニ獨立騎兵進行距離ノ遠大ナル者ハ蓋シ搜索警戒上利益多クシテ決シテ夫ノ僅小距離ニ在ル騎兵ヲシテ甚タシク分撤セシムルノ比ニ非ラス凡ソ搜索警戒ノ目的ヲ達スル爲メニハ二個ノ相反スル性能ヲ同時ニ充足セシムルヲ要スル者ニシテ其動作甚ダ困難ナル者ナリ夫レ敵狀ヲ搜索セン爲メニハ敵ノ警戒線内ニ突進スルニ非ラサレバ充分ノ目的ヲ達スル能ハズ敵ノ警戒線ニ突進セバ我騎幕ハ薄弱トナリ敵ノ騎兵ヲシテ容易ニ我警戒線ヲ窺フヲ得セシム然ラバ敵騎ノ侵入ヲ防止セントスルカ我ハ敵ノ騎幕内ニ突進シ彼ヲ搜索スル能ハズ即チ此ノ

二種ノ状態ヲ適宜ニ斟酌シテ其ノ中庸ヲ取り彼レニ先ンジテ情報ヲ
 收得スルハ實ニ騎兵隊長其ノ人ノ技能ニ有リ
 其ノ敵狀ニ從ヒ我ガ施ス可キ術ハ固ヨリ一ツナラズ或ハ將校斥候ヲ
 用ヒ或ハ威力ヲ以テスルカ、戰鬪ニ由ルカ或ハ土民、信書、電信等ニ由テ
 スル間接搜索手段ニ出ツルカ必竟皆是レ等諸種ノ方法ヲ以テシ其ノ
 情況ヲ看破シ其時機ニ適スル動作ヲナスハ學理上ノ研究ハ勿論亦々
 經驗ノ功ヲ尤モ必要トスルモノナリ

凡ソ我軍ノ警戒面ヲ成形スル爲メ前方ニ多數ノ騎兵小部隊若シクバ
 斥候ヲ派出スルヲ要スルコトアレ成ルベクハ兵力ヲ分離セズ視察
 ノ英敏ヲ以テ兵力ヲ補ヒ僅少ノ斥候ヲ以テ其ノ要求ヲ充タスコトヲ
 謀カラサル可カラズ此ノ視察ハ視力ノ良能ナルト判断力ノ慧巧ナル
 ヲ要ス即チ良馬ト良望遠鏡ヲ有シ且ツ才智アル斥候ハ數多ノ小部隊

ヲ用ユルニ勝ルコト數等ナル所以ナリ
 斥候若シクハ小部隊ヲ或ル任務ノ許ニ動作セシムルニ當リ其ノ任務
 ハ成ル可ク單簡ナルヲ要ス同時ニ數種ノ任務ヲ命スルハ遂ニ其ノ一
 ヲモ成効シ能ハサルモノナリ宜シク先ツ一ツノ任務ヲ終ハリ更ラニ
 次キノ任務ヲ命スルヲ要ス若シ甲乙丙等種々ノ任務ヲ一齊ニ服行セ
 シムルノ必要アルキハ其ノ任務ヲ格別ニ各騎兵ニ分課スルヲ要ス
 又タ其ノ必ラス注意シテ爲スヘカラサル者ハ一部隊ニ課スル搜索面
 ハ過大ナラサルニアリ若シ之ヲ願ミスシテ甚タシク廣大面ヲ搜索セ
 シムルヤ事必ラス乖戾ニ歸シ大ニ我カ求ムル所ノ目的上ニ一大害ヲ
 醸成スルニ至ラン
 凡ソ諸部隊ハ一旦敵ニ向ツテ派出セラレヤ瞬時ト雖トモ警戒ヲ怠
 ルコトナク進退動止共ニ敵狀ヲ顧慮シ敵ノ遠近大小ニ應シ不覺ヲ取

ルコトナク注意周到ノ動作ヲナサ、ルヘカラス是レ、騎兵ハ、寡力ヲ、以テ、敵地ニ、挺進スルコト、屢ナルヲ、以テ、搜索ニ、注意スルト、同時ニ、自個ノ、警戒ニ、注意セサレ、ハ、折角、良好ノ、情報ヲ、得ルモ、敵ノ、捕虜トナリ、此得タル、情報ヲ、送達スルコト、能ハサルニ、至ルヘシ、
騎兵ガ、搜索ヲ、ナスニ、當タリテハ、其ノ、各部隊ヲ、諸方ニ、分離スルハ、自然ノ、勢ニシテ、免レ難キ所ナレトモ、是レ、尤モ、勉メテ、避クヘキ者ニシテ、隊長ハ、常ニ、密集部隊ヲ、掌握シアルコトヲ、考ヘサルヘカラス、是レ、騎兵ノ、用ハ、概シテ、急劇、倏急ナル者ニシテ、機ノ、到來ニ、應シ之レヲ、逸スルコトナク、之レニ、應スルヲ、要スレハナリ

●偵察威力

威力偵察ノ、主旨ハ、敵ヲシテ、展開セシメ、以テ、其兵力及、配備ヲ、探知スルニアリ、故ニ、歩、騎、砲ノ、三兵ヲ、連合セル、技隊ヲ、以テスルカ、少クモ、騎、砲ノ、兩兵ヲ、以テセサレ、ハ、偵察ノ、効果ヲ、收ムルヲ、得ス、而シテ、偵察ニ、任スル部隊ハ、成ルヘク、潛行シテ、敵ニ、近接シ、敵眼ニ、觸ル、ニ、當ツテハ、神速果斷ニ、敵ヲ、攻撃スヘシ、其際、展望ニ、任スル、將校ハ、通視ニ、便ナル、地點ニ、在テ、敵情ヲ、視察スルモノトス、
此、搜索ノ、効用ヲ、全センニハ、其得タル、結果ヲ、直チニ、利用スルニアリ、若シ、然ラスシテ、躊躇セハ、敵情、忽チ、一變スルナラン、
往時ハ、威力偵察ニ、任スル、部隊、其目的ヲ、達スレハ、戦闘ヲ、中止シテ、退却スルヲ、常トセリ、然レ、此ノ、如キ、退却ハ、我軍、隊ヲ、シテ、敗退ノ、感覺ヲ、起サシメ、且ツ、得タル、結果ハ、之カ、爲メ、生スル、損害ヲ、償フニ、足ラサルコト

多ク又後方ノ団体ハ此戦闘ニ誘致セラレ高級指揮官ノ意圖ニ乖戾シテ忘リニ戦闘ニ參與シ知ラズ識ラズ一般戦闘ノ端緒ヲ開クニ至ルノ恐レアリ故ニ現今ニ於ケル原則ニ由レハ偵察ノ爲メ威力ヲ用ユルハ我軍企圖スル總攻撃ノ端緒ヲ開クトキニ限ルモノトセリ即ハチ緒戦ノ時機ヲ利用シテ偵察戦ヲナシ其結果ニ由テ直チニ總攻撃ニ移ルナリ

● 候察

敵情ノ候察ハ軍隊運用ノ爲メニ勝利ノ歸スベキ最大要事ナリ然レモ戦時ニ於テ敵情ヲ正確ニ候察スルハ容易ニ爲シ得ヘキ處ニア

ラズ假令ヒ偶々許多ノ狀報ヲ集得スルモ常ニ其一部ハ全ク虚報ニ屬シ其他ノ一部ト雖モ未ダ確正ナルヤ否ヤヲ保信スベカラズ此クノ如ク確實ナラザル處ノ情報ヲ收集シテ前ニ信認セシ處ノ情勢ニ比照シ其信僞ヲ査覆シテ稍々確正ナル狀況ヲ看破スルハ大軍運用中ノ最大難事ナリ

故ニ高等司令部ニ於テハ特ニ諜報勤務ニ專任スルモノヲ置キ諸種ノ情報收集調査ヲナサシムルナリ
諸種ノ情報ハ概ネ左ノ諸件ニ由テ得ラル、モノトス

一、地圖

斥候、其他住民等ヨリ得ル地形ニ關スル情報ハ概ネ地形ノ細部ニ止マルモノトス若シ夫レ地圖ヲ檢スルキハ居ナガラク地形ノ大體ニ通

シ預カシメ万事ノ計畫ヲ立ツルコトヲ得
地圖ノ必要欠ク可ラサルハ上文ノ如キヲ以テ若シ之ヲ有セサルキハ
勉メテ之ヲ得ルノ手段ヲ施サ、ルヘカラス而シテ得ル所ノ地圖ニシ
テ精確ナラザルキハ速ニ之ヲ補完スルヲ緊要トス

二、嚮導

嚮導ノ選擇

自國ニ在ツテハ賞ヲ厚クシテ嚮導ヲ求ムルキハ之ヲ得ルコト難カラス
然レモ敵國ニ於テ之ニ應スル者ナキキハ其地若シクハ豪族ニ向ヒ威
力ヲ以テ嚮導ヲ供セシメサルヘカラズ
嚮導ニ最モ適切ナルモノハ其動作スベキ全地ノ小路、細徑ヲモ暗知ス
ルモノニアリ例ヘハ樵夫、獵師、脚夫等ノ如シ
騎兵隊ノ使用スベキ嚮導ハ成ルベク乘馬シ得ルモノナルヲ要ス

嚮導ノ使用
法

行進スル兵隊唯一人ノ嚮導ヲ有スルキハ或ハ之ヲ前衛司令ノ傍或ハ
直チニ縦隊長ノ傍ニ在テ行進セシム數人ヲ用ユルキハ或ハ縦隊ノ各
部ニ分チ或ハ各嚮導ノ答フル所ヲ照合スル爲メ一所ニ纏メテ行進セ
シム此時ニ在ツテハ各人各個ニ分別シ各嚮導ヲシテ相語ルコトヲ得サ
ラシムヘシ何レノ場合ヲ論セス脅迫シテ我命ニ從ハシメタル嚮導ハ
一人毎ニ兵卒二人ノ間ニ狭ミ且ツ鋭敏ナル下士ヲ附シ絶ヘズ嚮導ノ
顔色ニ注意セシム

嚮導ハ其動作終ル迄同一ノ者ヲ用ユルヲ良トス若シ未タ動作終ラサ
ルニ其嚮導土地ヲ知ラサルノ故ヲ以テ新ニ嚮導ヲ採ルニ至ルモ最初
ノ嚮導ハ常ニ之ヲ伴ヒ我動作終ルニアラサレハ免スヘカラズ
假令ヒ脅迫シテ我命ニ從ハシメタル嚮導ト雖モ之ヲ待スルニ温和ナ
ルヲ要ス然レモ若シ彼レ逃走スルノ意アルヲ察スルキハ之ヲ豫防ス

ルニ須要ノ措置ヲ施サ、ルベカカズ
嚮導若シ我ヲ危険ノ地位ニ陥ラシメントスルキハ之ヲ殺スベシ
嚮導能ク其任務ヲ尽シタルキハ厚ク之ヲ賞シ以テ我軍ノ嚮導ヲ賞ス
ルコトヲ諸民ヘ知ラシムベシ是レ將來人民ノ嚮導タル希望心ヲ引起サ
ン爲メナリ

我訊問法巧ナルキハ道路及ビ地形ニ關スル情報ノ外尙ホ緊要ナル他
ノ情報ヲモ嚮導ニ因テ求メ得ルモノトス

三、 間諜

間諜ノ選擇

間諜トハ常ニ或ハ服裝ヲ變シタル軍人ガ敵地又ハ敵陣ニ潜入シ我軍
ノ爲メニ所要ノ情報ヲ索ムル者ノ總稱ナリ

間諜タルニ最モ適當ノ性質ハ詭計交智ニ富ミ且ツ危キヲ冒ス勇氣ア

ル者ニアリ之ヲ常人ヨリ撰用スルニハ其往復徘徊ヲ敵ニ疑レサル者
ノ中ニ於テスヘシ例ヘハ車夫、僧侶、行商等ノ如シ而シテ之ヲ命スルニ
先チ預メ當人ノ情態及ヒ敵トノ關係ハ細カニ穿索セサルヘカラズ
間諜タラントスル者ノ心意ニハ種々アリ

- 一、 敵國ニ怨ヲ抱ク爲メ自ラ志望シテ之レニ任ズルモノ
- 二、 愛國ノ熱情ヨリ自ラ奮テ之レニ任ズルモノ
- 三、 利慾ノ爲メ恰モ職業トシテ之レニ任ズルモノ
- 四、 双方ヨリ報酬ヲ得ン爲メ彼我二軍ノ間諜タルモノ所謂反間又
ハ復間諜ナルモノナリ
- 五、 土人ヲ恐嚇威迫シテ間諜タラシムルモノ(特別ナリ)

間諜ノ用法ハ實ニ微妙ノ裡ニ存シ論說ノ得テ網羅シ得ヘキモノニア
ラズ以下記スル處ノ如キハ僅ニ一二ノ通則ニ過キズ

間諜ノ用法

間諜ハ脅迫シテ我用ヲ爲サシムルキハ其効少シ又其利慾ヨリ出ツル
 モノニ在ツテハ彼ヲシテ金貨ニ飽カシメサルヘカラス否ラサレハ翻
 テ敵ノ用ヲナスニ至ルモノトス
 復、間諜ハ巧ミニ使用スレバ敵ヲ欺騙スルコトヲ得ベシ
 間諜ヲ用ユルニ先チ初メハ我カ既ニ識ル所ノ事ニ任シ之ヲ試ミ其報
 スル所ニ偽ナケレハ先ニ彼ト結ヒタル約定ヲ速行シ彼ヲシテ我ヲ信
 セシメ而シテ彼カ信實ナルヲ識リ得ルニ從ヒ漸次要ナル勤務ニ任
 スルモノトス
 數、多、ノ、事、件、ヲ、探、求、ス、ベ、キ、キ、ニ、當、リ、速、ニ、確、實、ナ、ル、報、告、ヲ、得、ン、ト、欲、ス、ル
 キ、ハ、任、務、ヲ、分、課、シ、數、人、ノ、間、諜、ヲ、派、遣、ス、ル、ヲ、緊、要、ト、ス、然、ル、直、ニ、我、求、メ
 ン、ト、欲、ス、ル、情、報、ヲ、彼、ニ、秘、ス、ル、爲、メ、ニ、ハ、不、用、ノ、事、柄、ヲ、各、間、諜、ノ、任、務、中
 ニ、加、ヘ、置、ク、ノ、注、意、ハ、最、モ、緊、要、ナ、リ、又、時、ト、ナ、シ、テ、ハ、同、一、ノ、事、ヲ、探、ル、ガ

爲メ數人ノ間諜ヲ差遣スルコトアリ然ルキハ各間諜ノ會遇セサルカ如
 ク差遣ノ時刻及ヒ探ラシムヘキ方向ヲ異ニスヘシ凡ソ數人ノ間諜ヲ
 用ユルキハ彼等ヲシテ間諜タルコトヲ互ヒニ識ラシメサルヲ必要ト
 ス

間諜ヲ巧ニ使用セント欲セハ間諜ノ間諜タルヲ其左右ノ者ニモ秘シ
 得サルベカラズ

間諜ニハ決シテ書記シタル教令ヲ與フルコトナシ之ヲ與フルハ敵ヲ欺
 カント欲スルキ就中複間諜ヲ用ユルキニ限ル

間諜ヲ待ツニハ内心警戒ヲ如ヘ外面ハ温和懇篤ニシテ彼ノ觀心ヲ失
 ハサルヲ要ス若シ夫レ威嚴ノ如キハ間諜ニ對シテ更ニ効ナキモノト
 ス

敵ハ更ニ我間諜ニ因テ探知シ或ハ彼レノ舉動ニ因テ之ヲ發見スルコト

間諜ノ通報

ヲ得
 敵ノ間諜ヲ發見スレハ之ヲ欺ヒテ敵ニ虚報ヲ傳ヘシメ或ハ之ヲ誘フ
 テ反間タラシムルヲ得
 通常ノ送達法ハ間諜自ラ歸テ其見聞シタルコトヲ我ニ報告スルニア
 リ
 然レモ時ノ景況ト間諜ノ能否トニ因リ諸種ノ記號ヲ用ヒ報告スルヲ
 得例ヘハ註軍中ニ在ツテハ預メ約定シタル地點ニ於テ烟ヲ揚グ(晝間)
 火ヲ焚キ(夜間)遠見シ得ヘキ家屋ノ窓牖ヲ開閉シ(晝間)燈火ヲ一點ヨリ
 他點ニ轉シ(夜間)行軍中ニ在テハ路傍ノ見エ易キ木ノ皮ヲ剝キ橋ノ欄
 干ニ繩ヲ結ブ等ノ如シ此等ノ記號ハ最モ簡易ナレモ苟モ約定法巧ナ
 ルキハ敵ノ兵員有無等其欲スル所ヲ報告スルヲ得
 敵地ヨリノ通信ハ局外中立國ヲ經ル所ノ電信ヲ以テスルモノトス

四、補虜降參人戰場遺棄ノ傷者ノ情報

敵ノ前哨線ヲ潜ニ通過シ來ル間諜敵ノ前哨線ヲ通過スルノ際緊要ノ
 信書ヲ秘匿スルノ術ハ輓近大ニ進歩セリ之ヲ衣服中ニ縫ヒ入レ靴底
 ニ狹ミ足指間ニ收メ或ハ卷烟草ノ裏ニ容ル、等ハ已ニ陳腐ニ屬ス輓
 今ハ寫真術ニ依テ信書ヲ微細ニ縮寫シ之ヲ護謨管中ニ收メテ豌豆大
 トナシ之ニ蠟ヲ塗ル然ルキハ頭髮中耳孔等ニ秘匿スルヲ得危急ノ場
 合ニ際會スレハ之ヲ呑ミ其後缺損スナク復ヒ之ヲ糞中ヨリ拾取ス
 ルヲ得ヘシ
 其他隱語ヲ以テ信書ヲ記ス此隱語ハ豫メ約スル處ノ原符ヲ了知スル
 者ニ非ラサレバ讀ム能ハサルモノトス要塞圍繞セラレ、ニ當ツテハ
 通信鳩或ハ輕氣球ヲ以テ充分ニ内外ノ交通ヲ爲スナリ

應答ノ真偽ヲ明察シ其緊要ナルト然ラサルトヲ識別スルノ才能ハ訊問スヘキモノ、有セサルヘカラサル性質ナリ
訊問スベキ要件ハ概ネ左ノ如シ

所屬隊、之レニ連撃スル他ノ部隊、

前夜ノ宿營、最後ニ見タル命令、

彈藥糧食總テノ軍需品ノ多寡、

給養ノ饒否、病傷者ノ多寡、

縦隊ノ編成

高等指揮官ノ姓名、
將來ノ運部ニ就テ
ノ命令或ハ風評、
志氣ノ盛衰、
行進方向、

總テ訊問ハ降參人及ビ捕虜ノ位階兵種ニ困テ其問フ所ヲ異ニセザルベカラズ

捕虜及ビ降參人ヲ糺問スルニハ捕虜ハ其捕縛ニ就キタル時、降參人ハ其來投セシ時ヨリ直ニ之ヲ各別ニ糺問スヘシ然ラサレハ相議シテ偽リ

答フルノ計ヲ爲ス可キナリ凡テ劇戰中ニ捕ヘラレ又タ哨兵線ヲ脱セシガ如キ時ニ於テ懷キシ恐怖ノ心未タ止マサルニ乘スレハ其之ヲ問フニ隨テ答ヘ敢テ秘匿スル所無カルヘシ凡ソ捕虜ハ之ヲ遇スルニ嚴ナレバ以テ答フル所ヲ盡サ、ルニ常ナリ然レモ降參人ヲ待遇スルハ斯ノ如クスルヲ要セス若シ其答フルヲ肯セサルニ有レハ之ヲ威スルニ敵ニ送還スヘキヲ以テスヘシ

五、土人旅客ノ情報

村長、學校教員、僧侶、車夫、馭者其他ノ豪族等ニ就テ訊問スレハ其地ノ近傍ニ駐止スル敵兵ノ多寡、位置、兵種、其地ヲ通過シタル軍隊ノ多寡、兵種、服裝、疲勞ノ程度、其地ニ於テ敵ノ訊問シタル事柄、其地ニ斥候ヲ派遣シタルノ有無等ニ關スル情報ヲ得

又タ旅客ヲ訊問スレハ其通過セシ地ニ軍隊ノ有無、若シ之ヲ見シキハ其多寡、兵種、通過セシ道路ノ景況、左右ノ地形、通過セシ村落、市街ノ人民ト敵兵トノ關係等ニ關スル情報ヲ得
 土人及ビ旅客ハ其職業ニ因テ問フ處ヲ異ニセザルヘカラズ
 訊問スヘキ要件ハ前條(四)ニ示スモノニ準ズ
 總テ訊問スル所ハ盡ク彼等ヨリ他ニ傳送セラル、モノナレバ之ニ因テ生スル利害ヲ熟慮セサルベカラズ、若シ訊問法佳適ナラサルキハ我目的ヲ達シ能ハサルノミナラズ知ラズ識ラズ應答ノ間我ヨリ彼ニ我籌策ヲ漏スニ至ル故ニ訊問スル時ニ方テハ其之ニ任スル者極メテ巧ミニシテ且ツ大ニ審察ヲ加ヘサル可カラズ其敵地ニ於テスル乎或不審ナル人物ヲ審査スル時ニ於テハ殊ニ然リ而シテ其訊問中ハ其人品ト位地及ビ其職業ヲ比較シ此間斷ヘズ其容貌ニ注意シ其肺肝ヲ洞

察スルヲ勉ムベシ

旅客及ビ土民ノ情報ハ精確ノモノニアラズ殊ニ經驗ニヨレバ兵數ノ如キハ實數ヨリ四倍乃至六倍シテ言フモノナリト云フ蓋シ是レ故意ニアラズ各自ノ觀察ガ常ニ過大ニ失スルナリ
 訊問シタル土人或ハ旅客ニシテ我軍ニ利益アルモノト認ムルキハ之ヲ高等司令部ニ送致ス又我訊問シタル事件ノ漏洩ヲ恐ル、時ハ一時其土人或ハ旅客ヲ拘留スルコトアリ

六 書類ノ掠奪

敵國ニ於テ公私ノ書類ヲ奪ヘハ極メテ樞要ナル事ヲ知ルコトナリ故ニ軍隊始メテ住民地ニ入レハ速ニ左記ノ如キモノヲ奪取スベシ
 新聞紙、郵便局、電信局及ヒ公私郵便函ニアル信書、

公廨ノ諸書類、輕氣球、傳書鳩ノ諸書類

之レカ爲メ官廳、税關、鐵道局、郵便局、電信局等ノ如キ公廨ニハ若干ノ兵ヲ派遣シ速ニ之ヲ占領セシメ諸人ノ出入ヲ禁シ茲ニ存スル書類ヲ點檢ス若シ兵員寡少ニシテ上文ノ如ク諸公廨ヲ悉ク占領スル能ハサルキハ其公廨ノ諸入口ニ封印ヲ施シテ土人ニ托シ且ツ之ニ命スルニ凡ベテ破壊ノ事有ラハ其罪逃カルヘカラサルノ禁令ヲ掲ゲ此ノ如クシテ後時ヲ移サズ必要ト認ムル公廨ヨリ漸次ニ其書類ヲ點檢スヘシ

七、徵候

徵候ニ因テ敵ノ計策及ビ虛實ノ大體ヲ推測シ或ハ之ヲ詳悉スルヲ得

- 一、河濱ニ夥多ノ小艇材木等ヲ聚ムルハ渡河ノ徵ナリ
- 二、退軍ニ於テ諸橋梁ヲ破壊スルハ攻勢移轉ノ計畫ナキノ徵ナリ

三、自國ニアリテ土民ノ恐怖ハ敵兵近傍ニアルノ徵ナリ

四、敵地ニアリテ土民ノ不遜ナルハ近傍ニ敵兵アルノ徵ナリ

五、塵烟ノ正シク飛騰スルハ通常行軍縱隊通過ノ徵ナリ其方向、濃淡及ビ高低ハ其兵種及ビ行進ノ方向ヲ察知スルニ足ルモノトス例ヘバ塵煙ノ濃密ニシテ且ツ低キハ歩兵、其淡薄ニシテ且ツ高キハ騎兵、又其最モ稠密ニシテ且ツ間斷アルハ砲兵ノ徵ナル如シ

六、晝間ニアリテ煙焰(炊爨)ノ疎密、夜間ニ在ツテ燎火ノ光輝及ビ其員數ハ又以テ敵ノ景況ヲ察知スベキ徵候トス然レモ敵兵時トシテハ其退軍ヲ秘サンカ爲メ反ツテ其篝火ヲ増ス等ノコトアリ宜シク注意スヘシ

七、車輛ノ轟聲、兵器ノ光、馬匹ノ嘶鳴及ビ狗犬ノ連吠等ハ通常軍隊通過ヲ知り得ルノ徵候トナル

八、人跡、蹄跟、車徹ハ敵ノ兵力編組及ビ行進方向ヲ概知スルノ徵候タ
リ

九、敵兵旦タニ攻撃シ來ルハ其舉全軍ニ亘リタヘニ攻撃シ來ルハ其
舉一部ニ止マルベシ

右ノ外枚舉ニ違アラズ宜シク事ニ觸レ物ニ當リテ適當ニ徵候ヲ判斷
セザルヘカラズ蓋シ銳敏熟練ノ者ノ徵候ニ由テ敵情ヲ察シ得ルハ恰
モ敵ガ我ノ探索セントスルヲ通報セシニ均シキモノトス然レモ徵
候ハ其自然ニ發生スル者ト敵兵我ヲ欺ク爲メ故ラニ之ヲ爲ス者トヲ
區別シ以テ深く考察スルヲ要ス

●警戒第一線部隊ノ動作

其一 歩兵尖兵

歩兵尖兵ハ行軍縱隊ノ嚮導トモ云フベク耳目トモ謂フベク最外敵方
ニアリテ警戒搜索ニ任シ其動作ハ他ノ警戒隊ニ比シ比較的困難ナリ
尖兵ノ長ハ成ルベク將校ヲ以テスルモ必竟是等ノ關係ニ基因スルモ
ノナリ

尖兵ハ縱隊ノ進路及ビ其左右近傍ノ地ヲ搜索シ敵ヲ發見シ其見聞シ
タル事件ヲ報告スルヲ以テ其任トナス乃ハチ此目的ニ從ヒ行進法ヲ
規定セサルヘカラス

尖兵ハ通常士官ノ指揮ニ屬スル一分隊ヲ以テス然レトモ小部隊ニ在
ツテハ之レヨリ寡少ノ兵ヲ下士ノ指揮ニ屬シ尖兵トナスコトアリ

尖兵長ハ行進發起ニ當リ左ノ處置ヲナス

- 一、敵狀及ヒ我目的ノ大要ヲ部下ニ教示ス
- 二、記號ノ約束
- 三、斥候ノ區分
- 四、最外尖兵ニ行進方向ヲ指示シ差遣ス
- 五、背後連絡ノ爲メ交通兵ノ指定
- 六、運動發起

尖兵ノ行進ハ正面左右ニ斥候ヲ派シテ恰モ散開セル如キ隊勢ヲ以テシ其正面道路上ニ於ケル斥候(兵一名最外尖)ハ幹部ノ指揮ニ屬スル三名ノ兵卒ヲ以テシ而シテ普通ノ場合ニ於テ其二名ハ道路ノ兩側齊頭面ニ在テ行進シ他ノ一名ハ後方若干距離ニ在ツテ尖兵トノ連絡ヲ保チ幹部ハ此三名ノ中間ニ在リ而シテ殘餘ノ尖兵ハ後方若干距離ニ在ツ

尖兵ヨリ連絡兵ヲ後方ニ出ス理由

テ行進シ通常二名ノ兵卒ヲ以テ前兵ト連絡ヲ取ラシム

凡ソ軍隊ハ後方ノモノヨリ前方ノモノニ連絡スルヲ通則トス尖兵ハ獨リ然ラズ則チ前方ヨリ後方ニ連絡ス

尖兵ヨリ連絡兵ヲ後方ニ出スノ理由ニ説アリ曰ク尖兵ハ軍隊ノ前方ニ先行スル斥候ト看做スヲ得ベシ故ニ斥候一般ノ原則ニ從ヒ尖兵ヨリ後方ノ部隊ニ連絡兵ヲ出スト又曰ク凡ソ軍隊ハ兵力ヲ分割セザルヲ貴ブ尖兵ノ如キハ素ヨリ隊ヲ爲ザル兵力ニシテ恰モ散兵ノ如キモノナレバ假令ヒ之ヲ分割スルモ妨ゲナシ故ニ後方ニ連絡兵ヲ出スト

土地開濶ナレハ尖兵ハ稍々密集シテ行進路上若クハ路傍ヨリ進ム然レモ遮斷ノ地ニ在テハ左右ニ擴張シテ進ミ或ハ各伍ヲ側方ノ地區ニ差遣シテ搜索ス

尖兵ハ勉メテ早く敵ヲ發見シ且ツ報告スベキモノトス故ニ展望自在ノ地アレバ之ヲ利用シテ諸方ヲ注視スルヲ要ス而シテ尖兵ニ任ズル各兵ハ此ノ如キ地ヲ通行スル時ハ躬ラ諸方ヲ注視シ或ハ其長ニ於テ一名若クハ二名ヲ其地ニ差遣ス

後衛ハ尖兵ハ特ニ精勵以テ後方ヲ注意スルヲ要ス故ニ高地ニ至レバ暫ラク駐止スルヲ許ス是レ暫ラク後方ノ地ニ注意シ且ツ其後方若クハ側方ヨリ敵ノ近接シ來ルモノアルヤ否ヤヲ視ンガ爲メナリ此時ニ當リ連絡兵ハ能ク注意ヲ加エテ後兵ノ踪跡ヲ失フベカラズ若シ踪跡ヲ失ヒ且ツ再ビ發見スルコト能ハザル時ハ速カニ之ヲ尖兵長ニ報告スベシ

近傍ノ地ニ到テ敵ヲ發見シ之レガ報告ヲ呈スルニ當リ遅キニ失スルノ憂アル者ハ先ツ速ニ數發ノ射撃ヲナシテ最初ノ報告ニ代ヘ然ル後

其目撃セシ所ヲ報告ス

尖兵不意ニ敵ノ射撃ヲ受ケタル場合ニ際シテハ唯ダ速カニ掩蔽シテ敵ヲ凝視スルヲ以テ足レリトス蓋シ尖兵ニ跟随シテ行軍スル部隊ハ既ニ銃聲ヲ聞キシヲ以テ尖兵ノ一人故サラニ歸來シテ之レヲ報告スルノ必要ナシ部隊指揮官ハ自ラ前方ニ於テ事ノ發セシヲ知リ且ツ之ヲ視察シ得ルト又尖兵ハ猶ホ當該ノ敵ノ兵力ヲ詳知セザルカ故ニ指揮官ヲ益スルノ報告ハ未タ一モ得サルヲ以テナリ

尖兵カ敵ニ遭遇セハ勉メテ敵ニ近接シテ敵狀ヲ搜索スルコトヲ計ルヘシ之ヲ行フニハ每兵ノ躍進法ヲ以テス而シテ側方ニアル兵卒ハ敵ノ射撃ヲ受ケザル限リハ迅カニ敵ノ占有スル地點ニ對シテ行進スルヲ勉ムベシ

尖兵ハ敵ニ近接シ而シテ其位置兵力ヲ觀察スルヲ得ハ即チ之ヲ後方

ニ報告スヘシ例令ヘバ敵ノ人員ハ概ネ幾許ニシテ何レノ地點ニアリ云々ト云フ如シ然レドモ亦タ唯ダ記號ヲ以テ敵ノ現在ヲ速ニ後方ニ示スヲ以テ足レリトスルコト屢々之レアリ例ヘハ優勢ナル敵ノ部隊ノ現在スルヲ報スルニ銃ヲ舉ゲ之ヲ左右ニシ或ハ寡少ナル敵ニハ手ヲ舉ゲ之ヲ回ハス等ノ如シ是レ敵ノ強弱ヲ報スルコト最モ必要ナレハナリ凡ソ敵ノ兵力ヲ報告スルニ口頭或ハ筆記ヲ以テスルトキハ成ヘク員數ヲ以テシ己ムヲ得ザル時ニアラザレバ優勢或ハ劣勢等ノ語ヲ用ヒザルヲ可トス蓋シ此語ハ其意義廣ク確然タラザルヲ以テナリ敵カ我ヲ見ルコト能ハズ且ツ我ニ害ヲ加フルコト能ハザルガ如キ遠距離ノ地ニアリテ忽然騷擾スル如キハ智者ノ所爲ニアラザル可シ此場合ニ於テハ一名ノ兵卒ハ潜ニ歸リテ之ヲ報ズベシ他ノ兵卒ハ潜匿シテ敵ノ踪跡ヲ失ハザランコトヲ要ス斯クノ如キ場合ニ在テ我司

村落ノ搜索

令官ハ我ニ利アリト思惟スル所ノモノヲ實行スルノ便アルモノトス例ヘハ伏兵ヲ置キ或ハ不意ニ敵ヲ襲ヒ或ハ敵兵優勢ナレハ潜カニ逃ル、ガ如シ

尖兵村落ヲ搜索スルニハ遠方ヨリ先ツ望遠鏡ヲ用ヒテ之レヲ視察シ敵ガ其周圍ヲ守備セシヤ否ヤヲ見ルヘシ是レ敵兵斯ノ如キ地區ヲ守備セシトキ之レヲ探知スルコト遅キニ失シ爲メニ我ガ稠密部隊ノ害ヲ受ケタルコト往々其例アルヲ以テナリ

尖兵ハ該周圍若クハ其前方ニ於テ一ツモ敵狀ニ係ルモノヲ見ザレハ廣キ隊形ヲ取テ村落ニ近接シ最近ノ家屋ニ就テ住民ヲ捕ヘ敵ノ所在ヲ問ヒ且ツ成ルヘク數人ニ就テ其陳述ヲ比較スヘシ而シテ街道ニハ各兵ヲ配置シ以テ伏兵ヲ備フルナラント推察スルノ地假令ヘバ寺院學校、村落、鐵道停車場等ハ注意シテ搜索スヘシ又二三ノ兵ヲシテ村落

隘路ノ通過

ノ周達ヲ巡行搜索セシム
 尖兵ガ隘路ニ遭遇シタル時ハ縦隊ノ隘路ニ至ルニ先ンシ成ルヘク速ク前方ノ地區ヲ搜索シ安全ニ後方部隊ヲシテ隘路ヲ通過セシムヘシ方今微烟火藥採用以來尖兵ハ殊ニ注意周到ナルヲ要ス敵ハ我ノ知ル所トナラサランガ爲メ勉メテ潜匿シ之レニ依リテ無烟火藥ノ利ヲシテ一層大ナラシム故ニ尖兵ハ譬ヒ射撃ヲ受クルモ射撃何レノ地ヨリ來ルヲ目撃スルコト難ク須ラク眼力ヲ廣大ニシテ最近ノ地ノミニ放タスシテ遠距離ノ地ニモ及ボサ、ル可カラス

防禦陣地ニ衝突

防禦陣地ニ在テ我ヲ待ツ所ノ敵ハ命中確實ニシテ遠隔ノ地ニ達スヘキ小口徑微烟ノ銃ヲ用ユレハ我ヲシテ容易ニ其所在ヲ知ラシメス是ヲ以テ現今ニ於ケル開戦ノ端緒ハ動モスレハ從前ヨリ永キコトアリ是レ不意ニ射撃ヲ受クルノ地ニ入ルモ尙ホ舊ニ倍シ注意ヲ要スルノ

ミナラス銃彈ハ遠距離ニ達スルヲ以テ開戦ハ遠距離ノ地ニ於テシ且ツ展開ノ爲メ許多ノ時間ヲ要スレバナリ
 乃チ敵ガ此ノ如ク我ニ所在ヲ知ラシメス微烟ノ射撃ヲ以テスルトキハ我が之レヲ發見スルハ地形ヲ利用シ潜進之レヲ搜索スルノ外ナシ此潜進ハ目標大ナル騎兵ヨリハ目標ト爲ラサル歩兵ノ小斥候ヲ勝レリトス故ニ將來敵ト遭遇スルニ當リ歩兵ノ搜索斥候ハ甚ダ緊要ナルニ至レリ

其二 騎兵尖兵

騎兵尖兵ノ動作ハ前陳歩兵尖兵ト大差ナシ但シ騎兵ノ歩度ハ迅速ナリ從ツテ其動作ニ多少ノ差異ハ免レズ且ツ騎兵ハ概ネ戰鬥ヲ以テ主トセス運動ニ由テ搜索スルヲ主トス是等ノ爲メ今若干左ニ其差異ヲ

述フル所アラントス

騎兵ノ尖兵ハ四騎乃至六騎ヲ士官ノ指揮ニ屬シ其他通常一騎若クハ二騎ヲ後方道路上ニ置キ背後ノ連絡ヲ保持セシム

尖兵ハ二名或ハ三名ヲ先行セシメ(最外尖兵)又左右兩側ノ斥候ヲ差遣スルコト歩兵ニ就テ説キシト同要領ナリ唯ダ其各斥候ノ距離間隔並ニ搜索面ハ歩兵ニ比シ廣大ナルヲ得ル是レ歩度ノ迅速ニ由テ交通聯絡容易ナレバナリ

尖兵及ビ斥候ガ敵ト相會スルニ至レハ之レヲ見失フコトナク敵退ケハ我之ニ從ヒ敵進メハ我退キ絶ヘス敵ヲ我眼中ニ失フヘカラス然レドモ著シク其所定ノ線路ヲ離ルヘカラス然ラサレハ忽チ搜索線ヲ亂シ途ニ線中巨大ノ空隙ヲ生スルニ至ル若シ止ムヲ得ス一時最初ノ方向ヲ隔ツルコトアルモ其所要ノ經過スルヲ俟チ勉メテ速ニ最初ノ方

向ニ復歸スベシ

尖兵ハ敵軍觀察上若クハ其目撃ヲ避ケント欲シ其事ノ尤モ便多カラシメニハ萬般ノ偽計ヲ尤モ良策トナス者ナリ又其敵軍觀察ノ爲メニ概シテ尖兵長ハ其兵ヲシテ塔閣ニ登ラシムルカ或ハ高地ヲ攀テ近傍ヲ偵視セシムル等ヲ以テ尤モ便ナリトス然ル後疾歩ヲ以テ前進シ以テ其駐止ノ爲メニ生シタル遲滯ヲ恢復スヘシ然レドモ我既ニ敵軍ヲ發見シ又猶ホ之ニ接近シテ以テ精密ニ其狀ヲ監察セント欲セハ尖兵長ハ唯ダ登塔攀丘セシムルノミナラス亦更ニ凡百ノ計策ヲ爲スヘキナリ

是ノ接近觀察ノ際ニ在テハ乘馬ハ甚ダ不利ナル者ナリ要スレハ徒歩シテ蔭蔽地ヲ利用シ以テ搜索スルヲ良トス

或ハ尖兵ガ敵軍ニ遭遇スルコトアルモ直ニ我軍ノ敵軍ト其鋒ヲ交ヘ

始メシト云フヘキ者ニ非ラス蓋シ此ノ尖兵ノ衝突セシ所ノ者ハ亦タ或ハ敵軍ヨリ無援孤立ノ斥候ヲシテ過大ニ派遣セシ者ナランモ未ダ知ルヘカラズ而シテ若シ此際ニ在テ我尖兵ガ其遭遇スル所ノ敵ノ騎兵ヨリ多數ナル時ハ宜シク此敵ヲ急襲シ以テ囚虜ト爲サンコトヲ試ムヘシ是際ニ當ツテハ尖兵長ハ預メ自ラ慮リ敵ニ衝突スルヲ以テ利アリト爲サバ果然之レヲ實行スベシ抑々騎兵ニ於テ不決心ノ處置ハ尤モ忌ムヘキ所ナリ

凡ソ尖兵ノ休憩ハ概シテ甚ダシク重要ナラザルノ蔭蔽地ニ於テスヘシ是ノ如キ地ハ概ネ小林叢樹林孤立ノ牧園等ナリ又人家密集ノ地等稀レニ使用スヘキ者ナリ然レドモ其内部ニ入ルハ不可ナルモノニシテ何時タリトモ退却シ得ル如ク外縁ニアルヲ要ス殊ニ人家ノ近傍ニテハ其地人民ノ信用アル時ニ限ルヘシ之ヲ要スルニ尖兵ノ休憩ハ必

ラスシモ完全自ラ警護シ得ベキコト尤モ難キ者ナリ故ニ敵ニ蔭蔽シテ休憩シ若シ發見セラレバ速ニ逃避スル者トス抑モ騎兵ノ任タル搜索ニ在ツテ戦闘ニアラズト雖其任務ヲ盡スニ他ノ手段ナキトキハ戦闘ヲナスノ止ムヲ得ザルニ至ルヘシ而シテ騎兵ノ戦闘ニ於テ志氣ノ勇否ハ其最大部分ヲ占ムル者ニシテ指揮克ク至リ士卒勇猛ニシテ果敢ナルモノ竟ニ勝利ヲ得一旦勢利ヲ得タル騎兵ハ倍々恃頼心ヲ生ジ克ク遠距離ノ搜索ヲナシ縦隊長ヲシテ所要ノ情報ヲ得セシムルニ至ルナリ此他歩兵尖兵ニ就テ説述セシ要領ハ概ネ騎兵ニモ亦適用ス

其三 歩兵小哨ノ戦闘動作

敵兵近邇スルヤ歩哨ハ直ニ之ヲ小哨ニ報知シ且ツ射撃ヲ以テ敵ニ抗

シ其行進ヲ遲滯ナラシムルヲ計ルヘシ未タ小哨ノ應援ヲ得ザルニ先チ敵兵倍々近迫シ勢ヒ退却セザルヲ得ザルニ至ラバ且ツ戦ヒ且ツ退キ要スレバ迂路ヲ經テ以テ直チニ小哨ニ退カズ成ルベク小哨戰鬪ノ準備ヲ取ルノ時間ヲ與フベシ

歩哨又ハ比隣小哨ニ於テ銃聲起ルカ或ハ歩哨ヨリ敵兵近邇ノ報アレバ小哨長ハ直チニ下士ノ指揮ニ屬スル人員稍多キ斥候ヲ其地ニ差遣ス是レ一ツニハ哨兵ノ危急ヲ援助シ一ツニハ事實ヲ探究シ又一ツニハ侵入スル敵ヲ拒支シテ小哨ニ戰備ヲ整フルノ猶豫ヲ與ヘンガ爲メナリ

小哨長ハ之レヲ爲シ得レバ小哨戰備ヲ爲スノ間ニ於テ自ラ速ニ事狀ヲ實檢センコトヲ勉ムベシ

敵兵寡少ナル時ハ小哨ノ兵力ヲ以テ擊退シ直チニ之ヲ報告スベシ是

レ前哨中隊及ビ前哨本隊ヲシテ無益ノ戰備ヲ爲サシメザルガ爲メナリ敵兵退却スルキハ斥候ヲ出シテ追躡シ以テ其後ノ敵狀ヲ認定スルヲ要ス

敵兵優勢ナルキハ其小哨ノ兵ヲ步哨線ニ増加シテ抵抗ン前哨中隊ノ來援ヲ俟ツカ若シクハ其小哨ノ位置ニ於テ抵抗シ若クハ戰鬪ヲ交ヘツ、前哨中隊ニ向ツテ退却ス

唯タ展望ノ爲ニノミ設置シタル小哨ニ在テハ己ヨリ衆多ノ敵ニ對シテ長ク抗戰ヲ爲スヲ要セズ一時劇烈ナル火戰ヲナシ敵ヲシテ展開セサルヲ得サラシメ然ル后前哨中隊ニ退却ス敵ノ襲撃最モ意表ニ出テ而シテ必ラズ前哨中隊ニ戰備ヲナスノ猶豫ヲ與フルコト必要ナル片ニ於テノミ頑然抗戰スベシ夜間ニ在ツテハ射撃ヲ以テ彼レニ當ランヨリハ寧ロ機ニ先ンジテ銃劍突撃ヲ行フヲ利アリトス若シ報告ノ通達

時機ニ後ル、ノ恐レアルキハ猛烈射撃ヲ以テ警報スベシ
小哨若シ其哨所ノ防禦ヲ任トスルキハ形勢ノ如何ニ係ハラズ其地ヲ
固守シテ前哨中隊ノ來援ヲ俟ツベシ

其四 騎兵小哨ノ戦闘動作

控兵ノ前方遠距離ニ獨立部隊ノ在ルヲ必要トスルキハ騎兵小哨ヲ設
置スルヲ常トス

小哨ノ兵員ハ大約一小隊ヨリ成リ將校ヲ以テ之レカ長トス

若シ控兵ヲ距ルコト遠カラズ且ツ數多ノ騎哨ヲ備フルヲ要セサル場合
ニ於テハ之レニ代ユルニ獨立下士哨ヲ以テスルヲ得ベシ

小哨ノ指揮ハ將校ニ任ズルヲ制規トスルコト前項ノ如シト雖例外ノ場
合ニ於テ下士ヲ代用シ得ルコト猶歩兵小哨ニ於ケルカ如シ

小哨ハ一個若クハ數個ノ下士哨或ハ騎哨ヲ配置シ或ハ此兩哨ヲ併用
ス小哨ハ襲撃ニ便利ナル地ニシテ且ツ我ニ優ルノ敵ニ對シテハ徒歩
戰ヲ用ヒ其進來ヲ防遏シ得ル如キ地ヲ撰定スベシ

小哨ハ急襲ヲ豫防シ且ツ成ルベク久シク其位置ニ在テ敵ニ抵抗シ得
ル爲メ所要ノ工事ヲ施スコトアリ

騎兵小哨ハ決シテ閉塞場所内ニ位置スヘカラズ是レ騎兵ノ運動ヲ妨
害スレバナリ其自ラ衛ル爲メニハ銃前哨(單騎哨)ヲ備フヘシ

小哨兵ハ常ニ斥候ヲシテ直チニ出發シ得ルカ如ク準備セシメ且ツ部
下ニ方位ヲ示ス等ニ注意スベシ

小哨ノ馬匹ハ常ニ鞍ヲ置キ水ヲ飲マシメ糲ヲ與フルキニアラサレ
バ大勒ヲ脱セズ又同時ニ現馬ノ半數或ハ三分ノ一ニアラザレバ糲
ヲ與フルコトナシ

小哨ハ常ニ敵襲ニ對シ戰備ヲ欠カズ且ツ敵襲ノ時迅速ニ報告シ背後ノ歩兵ヲシテ之レニ應ズル余裕ヲ得セシムルニ就テハ小哨長ハ身ヲ以テ其責ニ任スル者トス

夫レ前哨ニ於テ敵ノ騎兵モ亦我ト同ジク遠ク出テ、搜索ス故ニ騎兵ハ敵ノ歩兵ノ急襲ハ深ク之ヲ慮ルニ足ラサルモ敵騎ノ襲撃ハ豫メ之ヲ期セザルベカラズ其之ヲ防クニ我レ亦襲撃ヲ以テスベカラザルハ宜シク道路ヲ梗塞スベシ其梗塞ノ結構縱令ヒ簡單ナルモ所要ニ應ジテ之ヲ前後ニ梯置シ騎銃ヲ以テ之ヲ防禦セハ敵騎縱令ヒ優勢ナルモ我能ク永ク之ヲ拒支スルヲ得ヘシ但シ其梗塞ハ我通過ニハ妨ケナキ如クスベシ

又斥候ノ如キ寡弱ノ敵兵近邁スルハ騎哨及ビ下士哨ハ固ヨリ之ヲ區逐セサル可カラズ然レモ其來襲スル敵ノ兵員強大ニシテ到底其哨

所ヲ保ツト能ハサルヲ察スルハ敵ノ兵員行進ノ方向等ヲ後方及ヒ隣哨ニ報シ敵ヲ監視シツ、小哨ニ投合ス而シテ小哨ハ之ヲ收容シ敵ヲ防禦スルニ騎銃ヲ以テスルカ或ハ襲撃ヲ以テスルカ其時ノ形勢ニ從フモノトス

抑々騎兵ハ歩兵ノ如ク抵抗力ヲ有スル者ニアラス故ニ警戒ハ搜索ノ廣ク到レルヲ以テスルニ依頼スルヲ主要トスルヲ忘ルベカラズ乃チ騎兵小哨ハ斥候ノ搜索其重キニアルヲ知ルベシ
右ニ記載スル所ノ外ハ概ネ歩兵小哨ニ於ケル要領ニ從フモノトス

●砲兵中隊ノ四門編成ト六門編成トノ論
説摘要

砲兵中隊ノ砲門數ニ就テハ種々議論アリ歐洲諸國中或ハ八門編成アリ或ハ六門編成アリ或ハ四門編成アリ是等ノ内目今八門編成ノ不可ナルハ概ネ一般ノ認ムル所ナレトモ四門ト六門トノ如何ニ關シテハ今尙ホ若干ノ議論アリ然レトモ遂ニ四門說ハ到底六門說ヲ壓倒シ能ハサルナリ左ニ歐洲諸論家ノ此二說ヲ摘載シ參考ニ資セントス

四門編成論說 四門編成論者ハ曰ク射撃ハ右翼ノ砲ヨリ始メテ再ヒ右翼ニ戻ル時恰モ右翼ノ砲ガ既ニ射撃ノ準備ヲ爲シアレハ可ナリ則チ今日或ル一二ノ國ニ採用スル如キ八門編成ハ多キニ過ク蓋シ各砲順次ニ發射スルトキ徒ラニ手ヲ空フシテ順次ノ來ルヲ待ツヲ要スルノ嫌アレハナリ殊ニ今日ノ速射砲ハ一分間ニ四發ハ發射シ得ル故砲數ヲ四門ニ減スルモ發射彈數ハ從前ノ六門ト同一ナリ又四門ナレハ縱隊ノ長サヲ減シ一軍團ニテ七百米突ヲ減ス又戰鬪正

面ヲモ減スルヲ得夫レ軍團ノ正面ヲ四千米突トスル時ハ其内砲兵ノ正面ハ二千米突ニシテ即チ砲兵ハ其半ヲ占ム此長キ正面ニテハ屢々展望充分ナラス現ニ此弊ヲ感シタルハ千八百七十年普佛戰ニテ屢々實驗スル所ナリ今四門トセハ其正面ハ千四百米突ニテ足レリ故ニ障礙ニ遭遇スルコトモ少ナク砲數モ少ナキ故從ツテ損害少ナク又指揮容易ナリ且ツ平時ニ於テハ四門編成ハ人員ヲ減セス砲數ヲ減スル故演習ニモ便ナリト

六門編成者ノ論 ハ抑モ速射砲ノ主意ハ危急ノ場合ニ最大ノ急射撃ヲ爲スニアリ然ルニ四門說ニテハ此威力ヲ減スル譯ナリ又四門論者ハ縱令六門ヲ備フルモ觀測ノ爲メ間斷ナク射撃スルコト能ハスシテ其内若干門ハ徒ラニ發射順次ヲ待テ逐ニ四門ト効力ハ同シキニ至ルト主唱スルモ凡ソ觀測ハ逐一之ヲナス者ニアラス表尺決定セハ

連續射撃モナシ得ヘシ故ニ六門ノ威力ヲ顯シ得ルナリ又四門ナレハ其内一二門敗壞セハ實ニ微力トナル

又四門論者ハ行軍縱隊ノ長サヲ減スルト雖モ一軍團カ一道路ヲ取ルトキハ然ランナレトモ數道ヲ取ルトキハ其利益大ニ減スヘシ即チ此僅ニ若干ノ長徑ヲ減スルノ小利益ト軍團ニ於テ四十門ヲ減シタル爲メ砲ノ威力ヲ消滅スル大損トヲ比較セハ果シテ如何

又戰鬪正面ヲ減スルト云フ點ニ至ツテハ或ル少數ノ場合ニハ如何ニモ正面廣大ノ爲メ若干ノ困難アラン然レトモ常ニ然ルヘキ者ニ非ラズ且ツ無烟火藥ヲ用ヒ信管ヲ改良セハ歩兵ノ頭上ヲ超ヘテ隨意ニ射撃シ得ル故砲兵ハ歩兵ノ後方ニ置クコト自由ナリ從ツテ自然ニ正面ハ減シ得ルナリ加之砲數ヲ増シ砲兵ノ威力ヲ増セハ之レカ護衛兵ハ自然大ニ節約スルヲ得テ戰線ニ多クノ歩兵ヲ用ヒ得ルノ利アリ乃ハ

チ中隊ヲ四門編成ニスルモ全體ノ砲數ヲ減セスシテ中隊ノ數ヲ増スナレハ或ハ稍可ナレトモ是レ亦六門編成ニ若カサル點アリ蓋シ射撃修正ノ爲メ彈丸ノ費消多ケレハナリ今一步ヲ四門論者ニ譲リ四門編成トスルトキ敵ガ從前ノ如キ材料ヲ用キルナレハ四門ニテモ威力匹敵セン然レトモ敵モ亦速射砲ヲ用ユルナラン然ラハ我砲數ヲ減セハ減スル程敵ヨリ威力ヲ損スルコト明ナリ

●野戰ニ於テ曲射砲ノ必要

近時彈丸ノ内部ニ改良ヲ加ヘ其威力ノ増進亦大ニ見ルヘキモノアルモ時トシテ其効力ヲシテ殆ント皆無ニ歸セシムルコトアリ即チ彼

ノ堡壘ニ據ル守兵ニ對スル場合はレナリ
實ニ一陣地ヲ守備スルニ當リ砲彈ノ危害ヲ避クルノ法ハ堅固ナル堆
土ノ遮蔽ニ依ルノ外他ニ良手段ナキナリ嘗テ將官トバルベン氏ノ報
告ニ依レハ「ブレヅナ」ノ役露國砲兵ハ土國ノ設堡陣地ニ向ヒ終日發射
ヲ行ヒシニ敵ノ死傷僅ニ一人ヲ生スルニ過キサリシハ是レ尤モ注意
スヘキの例ナリ

露兵ノ斯ク不良ノ結果ヲ生シタル原因ヲ探究スルニ全ク野砲彈道ノ
低伸ニ歸セサルヲ得ス抑、胸墻ノ内斜面ニ倚リタル守兵ヲ射撃セント
欲セハ其断面ノ強弱ニ應ジ 21° 乃至 48° ノ至大落角ヲ有スルヲ必要トス
然ルニ現今野砲ニ在テハ四千米突以上ノ距離ニ達セサレハ少クモ 20°
以上ノ落角ヲ與フル克ハス此遠大ノ距離ニ在ツテ右ノ目標ニ對セン
トスルハ野砲彈丸ノ威力ヲ減殺スルモノト云フモ敢テ理ナキニアラ

ス然ラハ東麓角ノ開大ヲ利用センカ是亦タ二千七百米突以外ニ在ラ
サレハ所望ノ角度ヲ得ル能ハス

人或ハ云フ現今野砲ヲシテ斯ノ如ク無効ニ歸セシムルハ戰役間稀有
ノ場合ニ過キス深ク憂慮スルニ足ラスト是レ誤想ノ甚タシキモノナ
リ必スヤ將來ニ於テハ屢、斯ノ如キ時機ニ遭遇スルハ預期セザルヘカ
ラス

何トナレハ野戰ト雖モ一陣地ヲ占守スルニ當ツテハ益々築城應用ノ
必用ヲ感スルハ今日戰術上爭フ可カラサルノ事實ニ非ラスヤ野砲ニ
存スル此等ノ弊害ヲ醫センカ爲メ露國ハ諸外國ニ率先シ野戰砲兵ニ
白砲ヲ編入シ平射砲ノ欠點ヲ補ヒ守者ノ恃ンテ以テ第一ノ要具トセ
ル遮蔽物ヲシテ無効ナラシメント欲セリ

然レトモ野戰ノ性質上ヨリ觀察ヲ下ストキハ可成的ハ其兵器材料ノ

單筒等齊ヲ旨トスルト口径及彈丸ヲ同一ナラシメント欲スルハ古來各國砲兵科ノ唱道スル所ナリ今ヤ露國ハ其口径彈丸ニ特種ノモノヲ採用スルノミナラス其制式及射法ノ如キ全ク從來ノ野戰砲ト趣ヲ異ニス諸外國亦タ平射砲ノ時ニ臨ンテ不利ノ點アルヲ知ラサルニ非ラスト雖モ遠ニ露國ノ例ニ倣ヒ其材料制式ヲ一變スルヲ好マス專ハラ彈丸ニ改良ヲ加ヘ以テ目的ヲ達セントスルノ企圖ヲ有セリ於是乎類リニ各種彈丸ノ發明アリ就中最モ世人ハ注目ヲ促シタルハ彼ノ爆裂榴彈ト稱スルモノ是レナリ此彈丸タル特ニ猛烈ノ性能ヲ有スル炸藥ヲ填實スルト雖モ此措置ヲ以テ必スシモ胸墻內部ニ夥多ノ破片ヲ飛散セシムルニ適當ナルモノト斷言スヘカラス然レトモ東麓角ノ大ナルカ爲メ若シ適宜ノ位置ニ破裂セシムレハ或ハ十分ノ遮蔽モ亦タ特ムニ足ラサルコトアルヘシ其東麓角ノ如キ凡ソ 140° ニシテ之ヲ從來ノ

環層榴散彈ニ比スレハ殆ント二倍ニ達シ其炸藥ノ爲メニハ「ビクリツク」酸ヲ使用シ之ニ由テ生スル効力ノ如キ亦業ニ已ニ世人ノ熟知スル所ナリ而シテ之レニ採用スヘキ信管ハ最モ曳火信管ヲ以テスルヲ適當トス是レ彈丸目標上ヲ通過スル時機ニ於テ破裂セシムルコトヲ得レハナリ然レトモ從來慣用セル燃燒裝置ノ信管ニシテ其燃燒公算躲避五十米突ヲ有スルモノニ在ツテハ所望ノ時機ニ確實ノ破裂作用ヲ求ムルハ恐ラク得テ望ム可カラス此等ノ理由アルニ依リ各國亦タ其製造及用法ニ關シ各其目的ヲ異ニス

例ヘハ獨國ノ如キ此彈丸使用ノ目的ハ障害物ノ毀損ニ非ラヌシテ寧ロ人員ノ殺傷ニ在リ故ニ其炸藥ノ如キ適宜ノ破片ヲ生スルト活力ヲ減スルヲ以テ限リトス此場合ニ於テ其作用ヲ有効ナラシメント欲セハ着發射擊ヨリ寧ロ曳火射擊ニ依ルヲ適當トス

佛國ハ之ト反對ノ意見ヲ有シ着發射擊ヲ採用スルモノ、如シ今其理由トスル所ヲ推究スルニ蓋シ爆發榴彈ノ危害半徑ハ僅ニ十米突ニ過キス加フルニ火道燃燒ノ不齊ナルヨリ其結果ハ彼ノ危險界ノ伸長ナル尋常ノ榴霰彈ニ及ハサル遠シ若シ強ヒテ此射擊ヲシテ有効ナラシメント欲セハ機械信管ヲ用ユルカ若シクハ尙ホ一層巧妙ノ裝置ニ依ルニ非ラサレハ其目的ヲ達スル能ハサルナリ今日ニ在ツテ此巧妙ナル裝置ノ信管ヲ未タ發見セサル以上ハ到底曳火射擊ノ命中ハ着發射擊ニ及ハサルモノナレハ曳火彈ヲ以テ遮蔽ヲ制スルノ意向ハ暫ク之ヲ度外ニ措キ專ハラ目標ヲ障害物ニ採リ爆發ノ威力ヲ藉リ着發射擊ニ依リ掩覆堆土ヲ毀壞スルノ方針ヲ以テ研究ヲナスニアリ故ニ獨國ハ僅ニ七十五瓦ノ炸藥ヲ用ユルモ佛國ハ一吉七百瓦ノ「メリニツト」ヲ填實シ彈丸ヲシテ直ニ地雷ノ作用ヲ賦與シ胸牆内ニ於テ爆發スルノ

外或ハ躍飛ノ後破裂スルモ共ニ多少ノ危害ヲ守兵ニ加フルコトヲ得ルモノトセリ

今ヤ兩國意匠ノ可否ハ暫ラク措キ凡ソ胸牆ニ依ル敵兵ヲ驅逐シ其目的ヲ達セント欲セハ先ツ攻守ノ戰術ニ鑒ミ然ル後考案ヲ下スヲ至當トス想フニ攻撃ニ任スル砲兵ノ要務ハ單ニ遮蔽物ノ後方ヲ能ク射擊スルヲ以テ満足ス可カラス歩兵ト共ニ近距離ニ進ミ結局ニ至ル迄火力ヲ熾ニシ歩兵ヲ援助シ決勝ヲ圖ラサルヘカラス然ルニ若シ今日ノ如ク平射砲ノミヲ以テ攻撃センカ射擊ノ種類及發射速度ノ如何ヲ問ハス兩軍相近接スルニ至ラハ友軍ノ背後ヨリ射擊ヲ行フ能ハス一時不得止砲火ヲ中止セサルヲ得ス否中止傍觀ノ時機ニ非ラス益々砲火ノ熾盛ヲ要スルノ時機ナリ然レトモ平射砲ニ在テハ到底此砲火中止ヲ免ル、能ハス是レ平射砲ニ避クヘカラサル弊害ハ落角ノ大ナル曲射

砲ヲ用ユルニ非ラスンハ焉ソ之ヲ矯正スルコトヲ得ヘケンヤ且ツ
 又火砲命中ノ精粗ヨリ論スルモ平射砲ヲ用ユル以上ハ信管ノ種類如
 何ヲ問ハス決シテ胸墻背後ノ守兵ヲ驅逐スル能ハサルナリ夫レ二千
 米突ノ距離ハ野戰砲兵ノ爲メ良距離ナリ高サ六十珊ヲ有スル肩墻ニ
 對スルトキ其彈達公算ナルコトヲ知レリ佛國ノ如ク若發射擊ヲ
 用ユルモ尙ホ且ツ數多ノ彈丸ヲ費サ、ルヲ得ス以上ノ理由ニ因テ見
 レハ方今野戰砲兵ニ曲射砲ヲ採用スルハ戰術上並ニ技術上共ニ良結
 果ヲ得ヘキモノナラン

● 獨斷專行ニ關スル例證論說

千八百七十年八月十八日
 戰闘ニ於ケル獨乙軍
 統帥ニ就テ
 論ス
 第一軍過早
 攻撃

第九軍團ノ
 過早ノ攻撃
 第二軍司令
 官ノ適當ノ
 獨斷

千八百七十年八月十八日サンブリバー (Saint Privat) ノ戰闘ニ於ケル獨
 乙軍ノ統帥ヲ引例シテ之レヲ論ゼンニ夫レ八月十八日ニ於ケル獨乙
 軍ノ統帥ハ最初ノ間ハ概シテ不統一ナリシ之レヲ例言セハ第一軍司
 令官ハ左翼ノ方ニ當リテ砲擊ヲ聞ク直チニ總攻撃ノ始マリシ者ト
 思ヒ直チニ右翼ニ於ケル第一軍ヲ以テ過早ノ攻撃ヲ始メ遂ニ佛軍ノ
 逆襲ニ遇ヒ非常ノ損害ヲ受ケテ其目的ヲ達セス漸ク獨ノ第二軍團ノ
 到着シタル爲メ其戰線ヲ維持スルヲ得タリ若シ此時佛軍ガ首力ヲ以
 テ大攻撃ニ轉ゼバ脆クモ獨軍ノ右翼ハ擊破セラレシナラン又左翼ノ
 方ニ於テ第九軍團ハ敵ノ前進哨ニ對シ未ダ後方軍團ノ開進セサルニ
 當リ過早ノ眞面目攻撃ヲ始メシカ漸ク爰ニ第二軍司令官ガ到着シタ
 ル爲メ第九軍團ヲ援助シテ持久戰ヲナサシメ以テ此間ニ第十二軍團
 近衛軍團ヲ適當ニ攻撃方向ニ導キタリ若シ第二軍司令官ガ此クノ如

搜索ノ不充
分

防禦陣地ニ
アル敵ヲ攻
撃スルノ緊

ク時機ニ後レス適當ノ處置ヲナシ以テ各軍團ヲ統帥スルコトナカリ
シナラハ恐ラク獨乙軍ノ左翼ニ於ケル攻撃區署ハ目的ノ如ク戰鬪ヲ
指導スル能ハサリシナラン
要スルニ此ノ如ク最初ノ時機ニ於テ各軍團ノ動作不統一ナリシハ搜
索ノ不充分ナリシニ原因スモルトケ將軍ハ佛軍ノ左翼ハアマンビレ
附近ニアル者ト判斷シ情況甚ダ不明ナル爲メ十八日午前ニ於テ其
區署ヲ命スルニモ亦タ不確實ノ命令ナリシ故ニ下級指揮官ノ獨斷專
行モ亦已ムヲ得サル所ニシテ若シモルトケ將軍カ速ニ敵ノ右翼ハサ
ンブリバー、ロンクール附近ニアルコトヲ知リシナラハ統一ノ指揮ヲ
爲シ得タルナラン

要スルニ元來戰鬪ヲ統帥スルニハ攻撃ノ地點ト其時機ヲ示スコト緊
要ニシテ且ツ防禦陣地ニ據レル敵ヲ攻撃スルニハ能ク其陣地ノ兩翼

要事

關涉ト獨斷
專行

ヲ偵察シ統一ノ計畫ヲ以テ協同攻撃ニ從事スルノ原則ヲ感銘セザル
可ラス

以上ノ如ク十八日ノ戰鬪ハ最初不統一ノ指揮ナリシニモ拘ハラズ終
リノ時機ニハ稍々計畫的ニ指導セラレシハ各官ノ獨斷ト殊ニ第二軍
司令官ガ時機ニ後レス干涉指揮ヲナセシニ因ルナリ夫レ獨斷ハ十八
日戰鬪ノ如キ情況不明ニ於テ遭遇スル變化ニ應ズル爲メニハ實ニ必
要ナリ然レモ戰鬪ニ於テ下級指揮官ガ一局部ニ於ケル戰術上ノ利益
或ハ地形ノ利ナル爲メ動モスレハ一局面ノ獨斷ヲ縱ニシ全般ノ運命
ヲ誤ルコトアリ(左翼ニ於ケル第九軍團、右翼ニ於ケル第一軍ノ過早攻
撃ノ如シ)爰ニ於テ獨斷ト干涉ノ二點ニ就テハ余輩ハ其折中適宜ニ利
用スルコトヲ深ク顧慮セサルヘカラスト信ズルモノナリ實ニ適宜ノ
獨斷、適宜ノ干涉ハ最良ナルコト勿論ナレモ實際ニ於テハ甚タ困難ナ

ル處アリ夫レ獨斷專行ハ一方ヨリ考フルトキハ甚ダ有利ナルカ如シト雖トモ又他ノ點ヨリ之ヲ見ルトキハ甚ダ危險ナリトス其最モ嘉ミス可キ意志ヲ以テ企圖セル動作モ時アツテハ失敗ニ歸スルコトアリ之ニ反シ最モ拙劣ナル企圖モ時アツテハ大功ヲ奏スルコトアリ所謂極論スレバ獨斷專行ハ僥倖ト云ヘル運命ニ重點ヲ置クモノト云フヲ得ヘシ

故ニ下級指揮官ハ假令ヒ如何程嘉ニスヘキ意志ヲ以テスルモ(自己ノ功名ヲ爲サンガ爲メノ行動ハ其意志固ヨリ不良ナルヲ以テ論外トス)其獨斷專行ハ萬止ムヲ得サルノ場合ニアラザレハ決シテ之ヲ恕スヘカラス萬事ヲ一々先見スルコト困難ナルノ際ニ於テ部下ニ許スニ獨斷專行ノ權ヲ以テスルハ甚ダ善シ然レトモ此場合ニ在テモ我が達スヘキ目的以外ニ於テハ決シテ此權ヲ弄セシムヘカラス而シテ已ムヲ

獨斷ヲナシタルトキハ之レヲ上官ニ報告スルコト必要ナリ

獨斷ト責任

得サル場合ニ於テ獨斷專行ヲ爲シタルトキハ速ニ其理由ヲ上官ニ報告セサルヘカラス是レ上官ハ之レニ由テ更ニ其意志ヲ決定スル所アルヘキヲ以テナリ

若シ夫レ其度ヲ測ラヌシテ猥リニ獨斷專行ヲ弄スルカ如キハ徒ラニ我兵力ヲ散亂セシムルニ至ルヘシ假令ヒ之レカ爲メニ若干ノ小功ヲ奏スルコトアルモ之ヲ以テ決シテ全體ノ損害ヲ償フニ足ラサルヘシ

獨斷專行ト責任トハ互ニ相須ツテ離ルヘカラス一旦此權ヲ使用シタルモノハ後日自ラ之レガ責ニ任セサルヘカラス凡ベテ軍事上ニ於テハ其意思ハ如何ニ嘉ミスヘキモ其結果ニシテ命令ノ趣旨ト符合セサレハ斷シテ不可ナリトス
獨斷專行ハ豫メ期スヘカラサル場合ニ處スルガ爲メ及ビ戰闘中不意

獨斷專行ハ
獨立獨行ニ
アラス

協同一致ノ
必要

ニ生ズル處ノ好機ニ乘スルカ爲メニ之ヲ用ユヘキモノナレハ決シテ之ヲ獨立獨行ト混同スヘカラス
軍中ニ在ツテ各自獨立ノ動作ヲ爲サントスルハ大ナル過失トス何トナレハ軍ヲ組織スル最大眼目ハ各人ノ盡力ト其思想トヲ全ク同一ニ出デシムルニ在レハナリ故ニ下級指揮官ハ如何ナル卓見ヲ持スルモ狂ゲテ上官ノ意志ニ服従スルヲ要ス是レ軍紀ノ嚴ニ命スル所ナリ凡ヘテ戰爭ニ於テハ假令如何程劣等ナル計畫ニテモ各人ノ協同一致ニ依リテハ隨分大功ヲ奏スルコト尠シトセス
下級指揮官ハ戰術上ニ關スル手段ニ限り隨意ニ之ヲ擇フヲ得故ニ此點ニ於テ充分其手腕ヲ振フヘキ餘地ヲ存スルモノトス
然レトモ一旦上官ヨリ命令ヲ受ケタルトキハ寸毫モ躊躇スルコトナク之ニ服従セサルヘカラス何トナレハ其命令ヲ下シタル長官ハ其部

下ノ各指揮官カ必ズ之ヲ實行スルモノト信ズレバナリ若シ此場合ニ於テ其部下ノ一指揮官カ命令ニ背キ他點ニ向ヒタリトセン乎之レト相隣レル諸指揮官ハ長官ノ命令ヲ待タズシテ必要上其欠ヲ補ハサルヘカラス然ルニ最初命令ヲ下シタル長官ハ此等ノ諸指揮官ニハ別ニ他ノ任務ヲ授ケントスルノ心算アリシトキハ果シテ如何蓋シ該長官ノ胸中ニハ之ガ爲メ大ナル錯誤ヲ生スルニ至ルヘシ此睹易キ一例ニ依リテ考ルモ部下ノ獨斷專行ハ如何ニ上官ノ權利ヲ侵害スルヤヲ知ルニ足ルヘシ
世人ハ上官ガ意旨並ニ時機ニ適合セサリシ獨斷專行ヲ制止スルヲ以テ干涉ナリトシ不快ノ感ヲ抱クアリ夫レ上官ガ己レノ意旨ニ導キ時機ニ適合セシメン爲メニ干涉スルハ指揮ノ統一ヲ全フスル最大要件ナリ獨斷ハ或ル範圍内ニ於テ許サルナリ上官ハ意旨ニ反スル獨斷ハ

決シテ許サレサルナリ必要ニ際シ上官干涉スルハ固ヨリ善シ然レトモ上官此干涉ヲ爲スニモ亦願慮スルヲ要ス徒ラニ部下權限ノ範圍内ニ立チ入り其智能ヲ箝束シ其活動ヲ妨グ又彼レヲシテ每事ニ不快ノ感ヲ懷カシメ熱心ヲ萎靡セシメ遂ニ無能無爲ノ人トナリ上官ノ指揮ヲ待ツニ非ラサレハ何事モ快行スル能ハサルニ至ルヘシ又一方ヨリ言ヘバ命令者ハ方今ノ如ク軍事ノ複雑多般ナルニ至リテハ如何ニ睿智ノ人ト雖トモ到底其部下軍隊ノ遭遇スヘキ種々ノ困難ト時々刻々ニ現出スヘキ故障ト一々前知シテ細件ニ至ルマデ干涉スルハ得テ望ムヘカラサルナリ故ニ命令者ハ目的ヲ確實ニ示シ或ル權内ニ於テハ受令者ノ智識ヲ活用セシメ其命令ノ實行ヲ監視シ若シ其執ル所ノ手段ニシテ目的ニ適ハザルカ或ハ實行者ノ過誤失策ヲ發見スルトキハ直チニ干涉シ之レヲ矯正スヘキナリ

結論

獨斷等行ハ銳利ナル刀ト等シク其使用ノ如何ニヨリテハ至大ノ危険ヲ生ズルモノナリ故ニ最モ沈重ヲ加ヘ且ツ巧ミニ之ヲ使用スルヲ要ス
凡ベテ戰爭ニ於テハ自己ノ利益ヲ捨テ、協同一致ノ精神ヲ保ツコト極メテ肝要トス若シ夫レ此精神ニ背キ獨立シテ事ヲ爲サントスルハ通常失敗ニ歸ス

● 諸計畫

其一 鐵道輸送計畫

夫レ鐵道ハ方今軍ノ行動上必要無二ノ機關ニシテ實ニ一國兵力ノ首

要ナル素質ナリ

作戰上ニ於ケル鐵道ノ効用ハ左ノ如シ

- 一 在郷兵ノ召集ヲ迅速ナラシム即ハチ動員ヲ速カナラシム
- 二 軍ノ集中ヲ迅速ナラシム
- 三 作戰地ニ向ツテ軍ノ前進ヲ迅速ナラシム
- 四 軍ノ作戰地ヲ轉スルコト容易ナリ
- 五 捕虜ノ後送ニ多數ノ護衛兵ヲ要セス
- 六 患者ノ後送安穩ニシテ輸送中ト雖トモ治療ヲ施スヲ得
- 七 普通ノ行軍ニ比スレハ人馬疲勞セス武器、裝具、材料ハ破損スルコトナシ
- 八 總テ輸送ハ發着ノ時刻ヲ誤ラス確實ニ且ツ迅速ニナシ得
- 九 輸送ノ統一ヲ維持スルヲ得指揮監督容易ナリ

鐵道ノ効用大ナル夫レ此ノ如シ而シテ戰時ニ於ケル鐵道ノ價值ハ左ノ素質ニ由テ高低アリ

- 一、 戰畧上ノ位置ノ良否
- 二、 線路ノ經始ハ軍用ニ適スルヤ否ヤ
- 三、 軌道ノ數及ビ幅員ハ輸送力ヲ至大ナラシムルニ適スヘキヤ否ヤ
- 四、 運行速度ノ遲速
- 五、 積載量ノ多寡

抑々鐵道機關タルヤ實ニ英敏ナル丈ケ夫レ丈ケ誤差失策ノ生スルコトモ亦大ニシテ之レカ輸送計畫ヲナスニ當ツテ須ラク細心微細ノ注意ヲナサ、レハ完全ニ此機關ノ効力ヲ發揚セシメ能ハサルノミナラス反ツテ紛亂錯誤ヲ生スルコト多カルヘシ

單軌道ハ鐵道中ノ不具者ナリ夫レ普通陸路ヲ築設セントスルニ際シ
 テモ互ニ對行スルニ車輛ガ停止スルコトナク相併行シテ通過シ得ル
 ヲ基トナシテ路幅ヲ決定スルニアラズヤ鐵道ニ於テモ亦タ同ジク交
 通ノ原則トシテ此クノ如クナラザルベカラズ然ルニ單軌道ニ在ツテ
 ハ相對向スル二列車ハ停車場ニアラサレバ通過スルヲ得ズ故ニ豫期
 スル停車場ニ於テ他ノ列車到着ヲ待タサルベカラズ斯クノ如キ鐵道
 ハ軍事通過ヲ完全ニスル能ハズ唯ダニ補助トシテ使用シ得ルニ過ギ
 ザルナリ

已ムヲ得ズ單軌道ヲ布設スル場合ニ於テモ墜道、橋梁等ノ如キハ後來
 復軌道ト爲スノ準備ヲ爲シテ構築スルヲ要ス

戰地ニ於テ新設スルノ鐵道ハ元ヨリ急造ナルヲ以テ橋梁、墜道ノ如キ
 技術的建築ノ工事ハ完全ニ爲ス者ニアラズ彼ノ未開國ニ於テ數々見

ル所ノ極メテ粗造ナル者ヲ以テ満足セザル可カラズ此ノ如キ者ト雖
 能ク時機ニ適シテ其需用ヲ充タサンニハ平時ヨリ鐵道隊ヲ設置シ且
 ツ之レニ要スル費用ノ豊多ナルニアラサレハ能ハサルナリ

軍ノ前進スルニ從ヒ鐵道運行ノ距離ヲ延伸シ得ハ甚タ便利ナリト雖
 凡戰時ニ在ツテハ線路ノ破壞又ハ人員材料ノ不足ニ原因シテ充分之
 レヲ使用スルコト能ハサルコトアリ之レガ爲メ平時ヨリ鐵道ニ關スル万
 般ノ準備ヲ爲シ且ツ鐵道隊ヲ設置シ事ニ臨テ線路ノ修繕並ニ新設ヲ
 爲シ得ル如ク設備シアルヲ要ス又タ運行材料等ハ必要ニ際シ或ル要
 點ニ集合セントセハ例令他ノ線路ニ在ル者モ一令ノ下ニ直ニ集合シ
 得サル可カラズ

敵國ノ鐵道ニ在ツテハ要塞ノ爲メニ閉塞サレ其前後ノ線路ヲ使用シ
 能ハサルコト多シ此ノ如キ場合ニハ其點ヲ迂回シテ野戰鐵道ヲ新設シ

以テ其前後ノ連接ヲ爲スヲ要ス然レモ野戰鐵道ヲ新設スルニハ平坦ニシテ工事ニ便ナル地方タラサル可カラズ日本ノ如キ山地ニ於テハ容易ニ布設スル能ハサルナリ又々橋梁、隧道等ノ如キ技術的ノ建築物ノ大破壊ニ逢フキハ假令野戰鐵道隊ノ現存スルモ其修繕容易ナラサルヲ以テ其點ノ前後ニハ依然運行ヲ繼續シツ、長時日ヲ費ヤシテ損所ノ修繕ヲ爲スヲ要スルヲ多シ

輸送計畫ヲナスニ當リ其要素トナルヘキモノヲ列記スレハ概ネ左ノ如シ

(一) 平時ニ於テ豫メ於テ調査研究スヘキモノ左ノ如シ

軌道

單線ナルヤ複線ナルヤ、廣軌道ナルヤ狹軌道ナルヤ、軌道ノ傾斜、曲形、路盤強弱ノ度、隧道橋梁等ノ如キ術工物ノ狀態等

停車場

發車停車場、下車停車場、乗換停車場、用便車停車場、補給停

車場、獨立停車場、給養停車場、轉運停車場等ニ適スルヤ否ヤ要スレハ戰時ニ於テ新設スヘキ停車場位置ノ撰定、各停車場相互ノ距離關係如何、卸載ノ便否、停車場近傍ノ地形、停車場ニ至ル道路、近傍ノ人家ハ軍隊ノ宿營ニ適スルヤ否ヤ、給養品ノ多寡、停車場前幾何ノ軍隊ヲ入レ得ルヤ、車馬ハ何レヨリ通行シ得ルヤ、軍隊集合所、繫馬場、用水、飲馬場及ヒ圍圃ノ有無、必要ニ應ジ爲スヘキ諸工事ノ種類人員時間等

停車場内ノ諸術工場

待避線、(少ナクモ最長列車ト同長ナ

ルヲ要ス)列車組立線、交線通信機、節倉庫工場ノ整否、轉線機、運車臺、轉車盤、貯水器、石炭積入臺、量積機、起重機、秤量器、信號機等ノ有無狀態、乘車臺ハ長短廣狹、要スレハ之レヲ急造スル人員時間、

乘車臺ハ殊ニ緊要ナルモノニシテ其高サハ軌道ノ上面ヨリ三、呎、六、吋、(一米突餘)ナルヲ適當トス之レ客車貨車ノ車床ト略ホ同高ナルモノナリ而シテ人員ノ爲メニハ之レヲ二、呎、(階板

ノ稍下方トナスヲ得ルト雖馬匹ノ爲メニハ成ルヘク三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

ノ稍下方トナスヲ得ルト雖馬匹ノ爲メニハ成ルヘク三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

ナルヘシ戰時急造ノ乗車臺ニ在ツテハ屢數、十、米、ノ長サヲ以テシ要スルトキハ逐次列車ノ一部宛テ其側ニ導テ搭卸スルヲ以テ満足セサルヘカラス

乗車臺ノ幅ハ三、米、突、以上ナルヲ要ス然レトモ乗車臺ノ前方ニ沿フテ整列場ヲ有シ且ツ人馬砲車等ノ之レニ登ルコト容易ナルトキ即チ恰モ乗車臺ヲ踏臺ノ如ク使用スル場合ニ在ツテハ歩兵ノ爲メニハ二、米、突、ヲ以テ足ルヘシ乗車臺ノ前方ニ餘地ナキ場合ニ於テ多數ノ馬匹又ハ野砲等ヲ迅速容易ニ乗車セツメンニハ其幅六、米、突、以上ナルヲ長トス

諸材料業務ノ人員 吏員ノ多寡、機關車ノ數、噸數、牽引力、貨車、客車ノ數、枕材、軌鐵等ノ豫備材料ノ多寡、石炭ノ多寡

(二) 列車ノ車輛數

通常軍用ノ一列車ハニ機關車及ヒ緩急車ヲ除キ廣軌道ニ在ツテハ四

十輛狹軌道ニ在ツテハ二十輛トス
各部隊ノ建制ヲ破ラサラント欲セハ右ノ大極限列車數ニテ之レニ過
不及ナク一杯ニ積載スルコト難ク戰術上ノ顧慮大ナルニ從ツテ益々困
難ナリ

(三)人員馬匹材料搭車ノ容積

普通ノ客車及貨車ノ一輛(二軸ノ車輛ナリ、ボ)ヲ以テ軍隊ヲ輸送シ得ル
平均數概ネ左ノ如シ

將校或ハ相當官	二十四名
下士兵卒	四十名 <small>(普通旅客ノ定員ハ比シ武裝テシ 定員トス)</small>
横臥スル患者	六名乃至十名
褥牀スル患者	二十名乃至三十名 <small>(輕傷症者ナレハ健 康兵ノ定員トス)</small>

馬匹	六頭 <small>(看守兵二名若ク ハ三名ヲ含有ス)</small>
野砲材料	<small>(砲車及ビ彈藥車一輛或ハ豫備品車 一輛及ビ砲車若クハ彈藥車二分一)</small> 三十駄分
山砲材料	十六輛分
架橋材料	五十駄若クハ二十五輛分
荷物	三十五輛
輻重車輛(空車)	十六輛
架橋材料(電信材 料用車輛(空車))	十六輛
重量ヲ以テ算スルトキハ五噸(二百六十貫)ト概算ス	

(四)一列車ノ輸送力

列車ノ容積ヲ前記定規ノ如ク使用シ軍用一列車(連絡最大車輛數ハ機
關事緩急車ヲ除キ二十三輛四十六軸)ニ搭載シ得ル概數左ノ如シ

步兵 旅團司令部(若クハ聯隊本部)及ヒ一大隊(二中隊及大行李ヲ除ク)、

二中隊及大隊行李、

騎兵 旅團司令部(若クハ隊聯本部)及二小隊、

一中隊(二小隊ヲ除ク)、

野砲兵 旅團司令部(若クハ聯隊本部又ハ大隊本部)並ニ一中隊ノ第二段列及大行李、

一中隊(第二段列及行李ヲ除ク)、

山砲兵 聯隊本部及大隊本部并ニ三中隊ノ大行李、

一中隊(大行李ヲ除ク)、

工兵 大隊本部及二中隊(一中隊ノ大小行李ヲ除ク)、

一中隊及他一中隊ノ大小行李、

衛生隊 一隊、

架橋縱列 三分ノ一、

學習上ニ於テ戰時一師團ヲ輸送スルニ戰術上ノ顧慮ナキ場合ニ於テ廣軌道ニ在ツテハ約四十二列車、狹軌道ニテハ約八十五列車ヲ要スルモノトシテ研究セントス

(五) 上車、下車、給養並ニ輸送集合等ノ時間

上乗時間 軍用一列車ノ搭車ハ左ノ時間内ニ行ハシムルヲ要ス

徒歩兵ニ在ツテハ一時間

騎兵ニ在ツテハ一時三十分間

砲兵及ヒ輜重ニ在ツテハ二時間

下車時間 通常兵員ノ下車ニ許スヘキ時間ハ下車及ヒ隊列ヲ整フル爲メニ十分乃至十五分ヲ要シ各車同時ニ馬匹ヲ卸下スルニ十分乃至二十分

歸還時間

休憩時間

輸送全時間

車輛ノ各車ニ二十分乃至三十分ヲ要ス而シテ騎兵砲兵及ヒ輜重ニ在ツテハ此他其列ヲ整ヘ或ハ車輛ニ馬ヲ駕シ或ハ物品ヲ馬ニ馱シ以テ停車場ヲ去リ整列場ニ至ルマテニ更ニ十分乃至二十分ヲ要スヘシ

即チ軍用列車ガ到着點ニ於テ凡テノ下車ヲナシ其空列車ガ歸途ニ就クニハ到着時ヨリ約一時間後ト概算ス

列車運行ハ給水石炭積入若クハ機關車交換或ハ往復兩列車行違ヒノ待合セ等ノ爲メ少時間停車スルノミニシテ其他成ルヘク停車セス直行スルヲ可トス而シテ若シ休憩ノ必要アレハ乗換或ハ給養等ノ時期ヲ利用シ約一時間ノ停止ヲナシ此間ニ喫食ヲナシ且ツ大休止ヲナサシム

全隊ハ輸送ニ要スル時間ハ每列車ハ發車間隔ニ最終列車ノ運行時間

軍用列車一時間ノ速力

ヲ加ヘタルモノナリ譬ヘハ一師團ヲ輸送スルニ約九十列車ヲ要スルモノトセンカ其發車間隔ヲ一時間トセハ最初ノ列車ガ出發スル時間ヨリ最終列車ガ出發スル迄ハ九十時間(約四日間)ヲ要スヘシ而シテ其最終列車ノ目的點ニ達スル運行時間ヲ一日トセハ即チ全隊ノ集合終結ハ約五日間ヲ要スル如シ

(六) 速力

軍用列車一時間ノ速力ハ僅少ノ停止時間ヲ算入シ廣軌道ニ在ツテハ十八哩、狹軌道ニ在ツテハ十二哩ヲ少極ト考フルヲ得ヘシ

軍用列車ノ速力ハ過度ニ之レヲ迅速ナラシメントスルハ蓋シ無益ナルヘシ夫レ鐵道輸送ノ主ナル點ハ衆多ノ軍隊ヲ或ル目的地ニ迅速ニ集合スルニアリ而シテ此集合時間ノ計算ハ前陳ノ如ク最先頭ノ輸送ヨリ最後輸送ノ軍隊カ到着スルマテノ時間ナリ故ニ今一師團ヲ輸送

軍事輸送ヲ
迅速ナラシ
ムベキ要素

スルニ當リ其輸送一列車ニハ一定ノ積込ミ制限定量アルヲ以テ全師團ヲ到底一度ニ輸送スルコト能ハス之レヲ數十回ニ積込ミ以テ輸送セサルヘカラス然ルトキハ其積込ミヲナスニ當リ如何ニ列車運行ノ速力ヲ増スモ每列車發車間隔ニハ制限アリ(各停車場間隔及ヒ信號等ノ爲メ)故ニ此制限ニ從ツテ每列車ニ積込ミ込ムトキ全師團ノ爲メニハ四日ヲ要スル者ト假定セン即チ最初ヨリ四日ニシテ全部ノ積込込ミヲ終レリ最終列車ノ運行時刻ヲ一日トセハ全隊集合ニハ五日ヲ要スル譯ナリ(前陣(五)参照)此ニ於テカ如何ニ運轉速力ヲ迅速ナラシムルモ積込込ミ時間ニハ差異ナク必竟最終列車ノ到着時間ヲ若干早クスルノミニテ全隊集合時間上ヨリ云ヘハ敢テ一日以上ノ差異ハ生セサルヘシ乃チ軍事輸送ヲ迅速ナラシメン爲メニハ列車運轉速力ヲ早ムルヨリハ他ニ至大ノ要素アルアリ曰ク乗車下車時間ノ節減、石炭、給水ノ

便、信號區劃ノ整理、機關車、客車、貨車其他材料ノ充足、軌道廣ク複線ニシテ一回ノ列車ニ最大ノ積載ヲナス等ニアリ

(七)發車間隔

逐次ニ發車セシムヘキ列車ノ數ハ兩停車場間(停車場間ニ非ラサルモ各信號機所在地ナレハ此間ヲ一區トスルモ可ナリ)ニ一列車ヨリ多ク在ラシメサルヲ法トス故ニ運搬力ハ停車場間(若クハ兩信號機間)ノ遠近ニ關係ス即チ全線路中ニ停車場間(兩信號機間)ノ距離最大ナルモノヲ採リ列車ノ之レヲ通過スル時間ヲ計リ以テ逐次ニ續發スル列車ノ發車間隔ヲ定ムルモノトス

諸事完全ナル時單線ニテハ一時間一回、複線ニテハ二十分乃至三十分毎ニ一回發車シ得ヘシ然シ此事ハ全線路、材料、乘車臺、役員、信號機等總テカ充分ニ整備シタル時實行シ得ヘキナリ

複線軌道ニ在ツテハ材料充分ナルニ於テハ單線ニ比シ同時間ニ約二倍ノ列車ヲ發シ得ヘシ

(八) 車輛ノ應用

大體ノ規定ハ將校ハ一、二等、下士以下ハ三等室ナレトモ時トシテハ將校ト雖トモ三等室、下士以下ハ有蓋貨車或ハ無蓋貨車ニ乘載シ成シ得レハ腰掛ヲ給ス

將校ハ上長官以上ハ一等車、尉官ハ二等車ト概定スレトモ斯クノ如ク區別スル時ハ客車ノ不足ヲ訴フルノミナラス元來一、二等車ハ其數甚タ寡少ナルヲ以テ軍事輸送ニ於テハ一、二等ヲ區別セス一般ニ將校ハ混乘セシムルモノトス

將校ニシテ若シ三等車ニ乘車セシムルヲ要スルトキハ將校一人ニ付キ兵卒三名乃至四名分ノ座席ヲ與フルモノトス

患者ノ爲メニハ輕症者ナレハ通常列車ニシテ其座席ヲ健康兵ノ定員ニ比シ三分ノ二ヲ以テ定員トシテ乘車セシム

患者衆多ナルトキハ特ニ患者、列車ヲ編成ス

重症患者ノ爲メニハ特ニ病院、列車ヲ編成ス

馬匹ニ用ユル車輛ハ尋常ノ有蓋車ニ六頭及ヒ其乘鞍共積載スルヲ常トス

駄鞍ハ大ナル貨車ニ非ラサレハ容ル、能ハス

馬匹ニハ監視兵二名ヲ附シ之レヲ積載スルニハ環、棧木、胸板ヲ設ケ成シ得レハ窓並ニ尿ヲ流出セシムル孔ヲ設クレハ尤モ可ナリ若シ有蓋貨車缺乏スルトキハ少ナクモ側板高一米二十以上ノ無蓋貨車ヲ用ユヘシ此無蓋貨車モ亦タ無キ時ハ簾ヲ組ミ以テ尋常無蓋貨車ヲ流用スヘシ此簾ヲ設ケタル無蓋貨車ハ横列ニ馬ヲ位置セシム從ツテ多クノ

馬匹ヲ積載シ得ルノ一點ハ利益ナリ
貨物材料ニ用ユル車輛ハ總テノ貨車ヲ應用スルヲ得然レトモ貴重品
並ニ火災危險ノ患アルモノハ有蓋貨車ニ積載スヘシ又積卸困難ナル
者ハ側板開閉シ得ル者ニ載セ大ナルモノニテ二車輛ニ跨ル者ハ側板
ナキ臺車ニ積載スルモノトス

(九) 輸送計畫表

此表ハ鐵道輸送ニ關スル乘車、及ヒ下車、停車場、列車積載ノ部隊區分等
ヲ一目瞭然ナラシムル爲メ調製スルモノナリ
此表ニ記載スヘキモノ概ネ左ノ如シ

- 出發ノ時刻及ヒ停車場
- 目的タル到着點ノ停車場及ヒ到着時刻
- 列車番號

列車組織(客車貨車ノ種類、個數)

各列車ニ乗車スヘキ部隊

各列車ニ積載スヘキ將校下士卒馬匹材料等ノ内譯

(十) 鐵道線路輸送計畫表

此表ハ某線路間ノ運轉列車ニ關シ搭載スヘキ人馬物件並ニ車輛數、列
車發着、給養ノ時刻地點等ヲ規定スル者ニシテ前者(九)ニ比スレハ精細
ナルモノナリ而シテ其記載スヘキ件左ノ如シ

列車番號

搭載スヘキ部隊號

搭載スヘキ將校下士卒馬匹材料ノ數量

車輛數(上中下等車、有蓋貨車、無蓋貨車、其他各種ノ車輛幾許等)

出發停車場及ヒ日時

給養停車場ノ名稱及ヒ給養ヲナスヘキ時刻
 到着停車場及ヒ日時
 諸種ノ備考

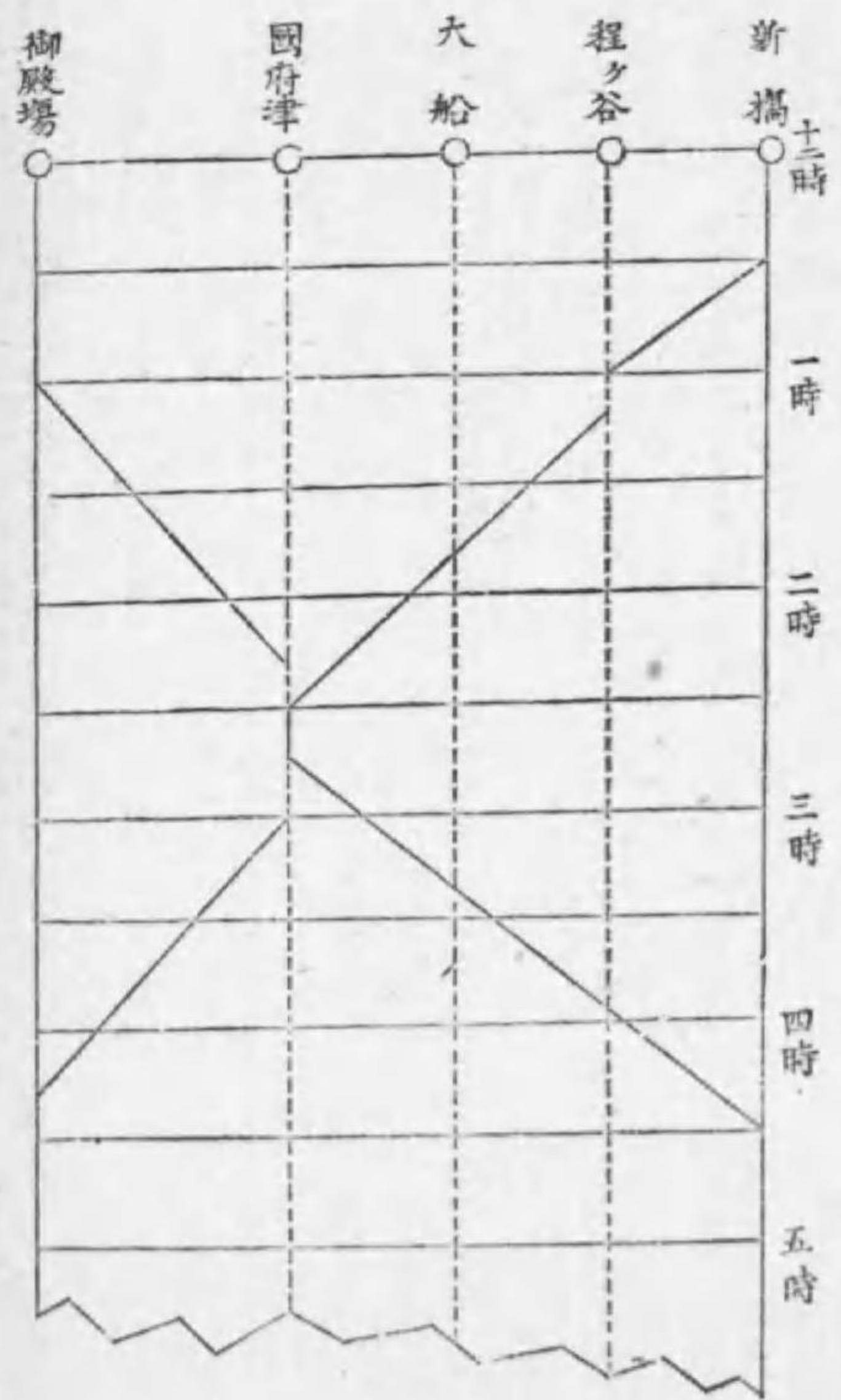
(十一) 列車運轉時刻表

此表ハ名稱ノ如ク各列車ノ運轉時刻ヲ明示スル者ニシテ其記載スヘキ件左ノ如シ

- 停車スヘキ驛名
- 停車セシ各驛ノ發着日及ヒ時刻
- 停止時間
- 各運轉列車ノ番號
- 諸種ノ備考

(十二) 某線路間列車運轉表

此表ハ線路ヲ運行スル旅客列車、貨物列車、軍用列車、不定列車ノ運行ヲ衝突セサル如ク規定セル者ニシテ此表調製ノ要領ハ横線ニ各停車場間ノ距離ヲ取り此線ニ直角ナル縦線ニ時間ノ標線ヲ取り此横縦線ノ



チ三時間ヲ最小限トス但シ是レハ機關車ノ種類ニ從ツテ異同アリ
炭水車附屬ノ機關車ノ如キハ尙ホ長時間補給ヲ要セス爰ニハ唯タ
最少限ヲ示スノミ

(十三) 鐵道輸送ハ大部隊ニ利アルハ其距離遠大ナルトキハミ故ニ距
離遠大ナラサルトキハ速カニ派遣ヲ要スル一部隊ノミ鐵道ニテ出
發セシメ其他ノ諸部隊ハ道路ヲ行進セシムルヲ可トス實際便利ノ
爲メニハ二種ノ行軍法ヲ混用シ歩兵ヲ汽車ニ乘ラシメ砲兵騎兵輜
重兵等ヲシテ道路ヲ取ラシムヘシ又期スル所ノ目的特別ニシテ必
要ノ事情アラハ鐵道行ノ歩兵ニ僅々ノ砲兵及ヒ騎兵ヲ附スヘク或
ハ砲兵及騎兵ニ僅々ノ歩兵ヲ附スヘク又警戒ノ爲メニハ必ラス若
干ノ騎兵ヲ歩行部隊ニ附スヘシ

其二 船舶輸送計畫

本邦ハ四面海ヲ繞ラス故ニ軍ヲ海外ニ行ル必ラス船舶ニ賴ラサルヲ
得ス而シテ軍隊ノ航海ハ稀レニハ海軍所屬ノ運送船ヲ用フルモ是レ
固ヨリ大軍ノ輸送ヲ充足スル程ノ船舶數アルニアラス一朝大輸送ヲ
爲スニ當リテハ徵集シタル船舶ヲ用フル常ナリ然ルニ船舶ハ鐵道機
關ト異ナリ其積載量速力等各区々ニシテ且ツ乗船上陸等モ甚タ困難
ナルモノナリ故ニ之レガ輸送ノ計畫ヲナスモ亦鐵道ヨリハ一層注意
周到研究調査ヲ要スルモフナリ

茲ニ吾人が特別注意スベキコトアリ夫レ船舶ハ鐵道ト異ナリ不時ノ
故障生シ易ク鐵道ハ車輛ニ故障アルモ軌道ニ故障ナケレハ著シク其
計畫ヲ害スルコトナク譬ヘハ汽罐車ニ故障アレハ他ノモノヲ以テ之
レニ代ユヘク客車貨車ノ如キハ猶ホ此事容易ナリ即チ客車ハ車輛數

關係ニ由テ規定セラル、斜線上ニ列車ノ運行ヲ現出スルモノナリ
 假令ハ右表ニ於テ右上ヨリ左下ニ至ル斜線ハ軍用列車ガ十二時三十
 分ニ新橋ヲ發シ一時程ケ谷着、同所ニ十五分停車シ一時五十五分大船
 ヲ通過シテ二時三十分國府津着、同所ニ三十分停車シテ四時十五分御
 殿場ニ着スルヲ示スモノナリ又左上ヨリ右下ニ至ル線ハ一時御殿場
 發ニテ二時三十分國府津ニ於テ下リ列車ト交叉シ四時三十分新橋ニ
 着スルヲ示スモノナリ
 此表ニ於テ斜線ノ傾斜急ナルハ速力ノ早キヲ知リ傾斜緩ナルハ速力
 遅キヲ知リ得ヘシ又上下二列車ノ線ガ各停車場ノ線上ニ於テ交叉ス
 レハ(國府津ノ線ニ於テ二時三十分前後ニ往復列車互ニ通過スル如シ)
 衝突ナケレトモ若シ此線外ニ於テ互ニ交叉スルトキハ衝突スルモノ
 ナルコトヲ知リ得ヘシ

運行表調製
ニ付キ注意

此表ハ唯タ概畧ノ一例ヲ示スモノニシテ實際ハ諸種數多ノ列車往復
 ヲ逐一標記スル者ニシテ其調製ハ實ニ綿密ト勞力トヲ要スルモノナ
 リ唯ダ吾人が計畫ヲ定ムル爲メ運行表ノ調製方ニ付キ知リ置クヲ要
 スルハ左ノ件ナリ
 列車ヲ停止セシムルハ成ルヘク給水停車場ニ於テシ此停止時間ヲ
 利用シテ汽罐ニ要スル水ノ補充ヲナスコト
 復線ニ於テ上下往復ノ列車ヲ交叉セシムルハ停車場ト停車場トノ
 中間ニ於テセシムルヲ勉ムヘキコト
 某停車場ニ於テ列車ヲ發セシムルハ前ノ列車ガ次キノ停車場ニ着
 シ以テ線路開通ノ信號ヲ得タル後ニアラサレハ能ハス而シテ此信
 號ニ要スル時間ハ一分ト概算スレバ適當ナラン
 機關車ニ水ヲ補充スルハ通常一時間ヲ最少限トス石炭ハ此三倍即

チ三時間ヲ最小限トス但シ是レハ機關車ノ種類ニ從ツテ異同アリ
炭水車附屬ノ機關車ノ如キハ尙ホ長時間補給ヲ要セス爰ニハ唯々
最少限ヲ示スノミ

(十三) 鐵道輸送ハ大部隊ニ利アルハ其距離遠大ナルトキハ、ミ故ニ距
難遠大ナラサルトキハ速カニ派遣ヲ要スル一部隊ノミ鐵道ニテ出
發セシメ其他ノ諸部隊ハ道路ヲ行進セシムルヲ可トス實際便利ノ
爲メニハ二種ノ行軍法ヲ混用シ歩兵ヲ汽車ニ乗ラシメ砲兵、騎兵、輜
重兵等ヲシテ道路ヲ取ラシムヘシ又期スル所ノ目的特別ニシテ必
要ノ事情アラハ鐵道行ノ歩兵ニ僅々ノ砲兵及ヒ騎兵ヲ附スヘク或
ハ砲兵及騎兵ニ僅々ノ歩兵ヲ附スヘク又警戒ノ爲メニハ必ラス若
干ノ騎兵ヲ歩行部隊ニ附スヘシ

其二 船舶輸送計畫

本邦ハ四面海ヲ繞ラス故ニ軍ヲ海外ニ行ル必ラス船舶ニ賴ラサルヲ
得ス而シテ軍隊ノ航海ハ稀レニハ海軍所屬ノ運送船ヲ用フルモ是レ
固ヨリ大軍ノ輸送ヲ充足スル程ノ船舶數アルニアラス一朝大輸送ヲ
爲スニ當リテハ徵集シタル船舶ヲ用フル常ナリ然ルニ船舶ハ鐵道機
關ト異ナリ其積載量、速力等各區々ニシテ且ツ乗船、上陸等モ甚々困難
ナルモノナリ故ニ之レガ輸送ノ計畫ヲナスモ亦鐵道ヨリハ一層注意
周到研究調査ヲ要スルモフナリ

茲ニ吾人が特別注意スベキコトアリ夫レ船舶ハ鐵道ト異ナリ不時ノ
故障生シ易ク鐵道ハ車輛ニ故障アルモ軌道ニ故障ナケレハ著シク其
計畫ヲ害スルコトナク譬へハ汽罐車ニ故障アレハ他ノモノヲ以テ之
レニ代ユヘク客車貨車ノ如キハ猶ホ此事容易ナリ即チ客車ハ車輛數

ニ依テ乘込人員一定シアリ貨車ハ多少ノ大小アルモ大ナルノ差異ナク其交換甚タ容易ナリ故ニ軌道ニ故障アレハ之レヲ除去スル間汽車ノ運行ヲ妨クルニ過キス船舶ニ在ツテハ然ラス其構造大小等各船各別ニシテ甲ニ配船シタルモノヲ其儘他ノ船ニ乗組マシムルノ難キコト多シ又船舶ハ天候船員ノ過失殊ニ不案内ノ航路ニ於テニ依リ坐礁スルコトアリ機關其他ニ故障ヲ生スルコトアリ其修繕ニ要スル日數ノ長短ハ素ヨリ一定スル能ハスト雖モ多キハ月餘ニ及フコトアリ又一箇年ニ一度ハ必ラス入渠シテ船底ノ掃除塗替ヲ要スルモノナリ故ニ船舶ノ運用ヲ計畫シ又軍隊ヲ配船スルニ當リテハ此等ノ注意緊要ナルモノナリ

陸軍戰時船舶輸送ハ鐵道輸送ト直接ノ連絡ヲ要スルガ故ニ鐵道ト共ニ同一長官ノ管下ニ屬シ其統轄連繫ヲ便ナラシムルヲ要ス

海運部ヲ設
置スベキ土
地ノ資格

乃ハチ此司令官衙ハ輸送ニ關スル諸般ノ計畫ヲ策シ船舶運行表及ヒ配船豫定表ヲ製シ發船地海運部ニ移シテ實行セシムルモノトス

海運部ハ其與ヘラレタル命令ノ要領ニ從ヒ之レガ實行ヲ期スヘキモノニシテ一部若シクハ小規模ノ輸送等ニ至ツテハ計畫實行二ツナカラ之レニ任スルコトアリ而シテ之レヲ設置スル位置ハ海運ノ基地トナルヘキ點及ヒ此基地ヨリ輸送ノ目標點トスヘキ戰地策源地ナリ

即チ海運部ヲ設置スヘキ地ノ撰定並ニ其配備ノ程度等ハ作戰地ノ方面ト戰時百般ノ現況トニ應シ臨機規定スヘキモノニシテ豫メ之レヲ定ムルコト難シト雖トモ必スヤ左記諸項ノ全部若クハ若干部ノ資格ヲ有スル海港地ナルヲ要ス

- 一 港灣ノ防禦整備シ碇泊場ノ廣潤ニシテ且ツ安全ナルコト
- 二 野戰軍隊ノ上陸點ニ達スル航路ノ短少ニシテ海上交通便利ナ

ルコト

- 三 軍隊軍衙ノ所在地ニ通スル鐵道又ハ道路ノ交通便利ナルコト
 - 四 石炭及ヒ清水ノ供給十分ナルコト
 - 五 廣濶ナル地積ト建築物トニ富ムコト
 - 六 海陸運搬材料ヲ得ルニ容易ナルコト
- 輸送計畫ヲナス爲メ調査準備スヘキ要素並ニ諸般ノ注意左ノ如シ

(一) 船舶ノ調査

所轄廳、船主、製造年月、製造地名
 買入代價、免狀番號、信號符字、檢
 査ノ年月、檢査有功期限、
 航路定限、運航港津、定繫場

是等ハ戰時船舶ヲ徵發スル爲メ船舶所
 有主ノ船舶新舊ノ度、保存期限ノ長短、船舶
 原價ノ高下、堪ヘ得ヘキ航路ノ程度等ヲ
 知ルニ供ス

用方 荷船用ナルカ、客船用ナルカ等ヲ云フ荷船ハ客室、炊器並ニ食餌用
 器具、飲料水ノ貯蓄、圖ノ如キ者少ナキガ故材料貨物積載用ニ供シ
 客船ハ荷物ノ積載少ナク乗客用ノ物件ハ備ル故人員ノ搭載ニ用

ユル如シ

質 堅牢ノ度ヲ知ルニ必要ナリ

尺 度 長サハ量噸甲板ニテ計リ(量噸甲板トハ第二層ノ甲板ヲ云フ)深
 サハ量噸甲板ヨリ船底中央内板ニ至ル迄ヲ計ル唯ダ一層ノ甲板
 チ有スルノミノモニ在ツテハ船體ノ尤モ大ナル部分即チ量噸
 甲板ニ相應スル位置ニ於テ計ル

載貨吃水 貨物ヲ滿載シタル時船ノ水入ヲ云フ通常後部ノ吃水、前部ノ吃水
 ヨリ約一呎深キモノトス時トシテ此差二呎ヲ超ユルモノアリ又
 ハ差ナキモノアリ或ハ前部却テ後部ヨリ深キモノアリ

總噸數 船舶ノ大小ヲ定ムヘキ第一ノ素質ナリ之レヲ計ルニ方式アリト
 雖トモ長、幅、深サノ相乘積ナリト概言スルヲ得ヘシ一噸トハ一英
 尺立方百(百才)ヲ云フ

登簿噸數 總噸數ヨリ機關室、海圖室、船員ノ居室、其他直接營業ニ使用シ能ハ
 サル部分ヲ除去セシモノニシテ其總噸數ト登簿噸數ノ比素ヨリ
 一定ナラスト雖トモ平均約〇、六三ト見テ大差ナシ但シ帆前船ニ
 在ツテハ比〇、九ト見テ大差ナシ

方積噸敷(荷積ノ場所(客室ヲ除ク)ノ容積ヲ云フ此一噸ハ四十才トス)

甲板數 甲板數多キハ人員馬匹ヲ多ク搭載スルニ適シ甲板數少ナキハ荷積多シ

壓艀水槽 船底ノ全部若クハ重要ナル一部ヲ二重トシ以テ船底破損スルモ船ヲ安全ナラシメ兼テ水料ノ貯藏ニ供ス此貯藏水量ノ多寡ハ船艀使用ノ目的ニ從ツテ必要ナル者ナリ

防水區劃 船體ノ一點破損スルモ全體浸水ノ害ヲ防ク爲メニ設クルモノナリ商船ニ在ツテハ通常七乃至八個以下ニ區劃シアリ

橋ノ高サ數 橋數ハ船艀ノ認識ニ便ニシテ橋高ハ他船ヨリ距離ヲ計ルニ必要ナリ其橋ノ長短一定ナラサルモ通常二千噸以上ノ船ニ在ツテハ九〇乃至一〇〇呎、五百噸乃至千噸ノ船ニ在ツテハ五〇乃至七〇呎多シトス

避雷針(二三個ヲ備フルハ必要ナリ)

綱具裝方、機關ノ種類、推進機ノ種類

最大汽壓(磅ヲ以テ示ス)

馬力 五百五十磅ノ重量ヲ一秒ニ一呎ノ高サニ揚クル力ヲ云フ、馬力ニ實馬力ト公稱馬力トノ二種アリ甲ハ實際運轉中ノ實力ヲ云ヒ乙ハシリンドルノ徑ニ依リテ計算上ヨリ出シタル者ナリ公稱馬力ハ殆ント必要ナシ

石炭貯蓄、一晝夜ニ費ス油及脂ノ量

全速力 全速力ハ機關ノ堪ヘ得ヘキ最大速力ナリ又尋常速力一名經濟速力ハ消費石炭ト所要時間トヲ算當シ最モ經濟ニ適スル如ク定メタル速力ナリ通常全速力ノ四分ノ三トス

蒸溜水 船艀ノ多クハ海水ヨリ蒸溜水ヲ取ルノ器機ヲ備フ

飲用水 船艀ノ水槽ニ貯藏スル飲用水ヲ補フ爲メ假製水槽ヲ備附スルヲ其トス水槽ハ鐵或ハ亞鉛製ヲ可トスレトモ之レヲ得サル時ニハ木製水槽ヲ以テス此木製水槽ハ每個ノ容量五噸ヲ超ヘサルヲ其トス蒸溜機械ノ備ナキ船ニ在ツテハ乗船人員一人ニ付一日一ガロントシ少ナクモ二十日間ヲ支ヘ得ル丈ケノ飲用水貯藏ヲ要ス

積荷器械 此器械ハ橋ニ附ケタルアリックト稱スル裝置ニ據ル、通常ノアリックハ五噸乃至三噸ノ重量ヲ揚クルモノトス小蒸汽船、火炮ノ如キ大重量ノ物ヲ揚クルニハ更ニ強力ノアリックヲ要ス

船舶ニ備ヘアル端舟ノ種類及其數、唧筒

舷梯(人員ノ出入ニ關係アリ其幅廣キヲ可トス

客室ノ多寡、兵馬軍需品搭載量

荷積(重量幾何噸、方積幾何噸)

乗組定員(船長、運轉手、機關手、事務掛、水夫、火夫、雜夫、船舶ニ附帶スル乗組員

廁

便所ノ配置ハ乗組人百人ニ付キ一個ツ、ノ割合ヲ以テ之レヲ準備スルヲ要ス英國ノ制ニヨレハ百人ニ付三個ノ割合ナレトモ經驗ニヨレハ最小限百人ニ付一個ノ割合トナスモ差支ヘアルコトナシ、

以上ノ事項ニ就テ各船舶ヲ調査シ其各船舶ニ應シ馬欄、寢棚等ヲ設置スヘキ位置、員數或ハ荷物積載ノ重量、小蒸汽船、舢舨等幾何ヲ載セ得ルヤ等ヲ計リ以テ其用途ヲ定メ各用務ニ配船ス

(二) 港灣ノ調査

1 平常出入スル船舶ノ大小多寡

2 港内ノ淺深海底ノ土質、岩礁ノ有無

軍艦ノ碇泊ニハ十尋(一尋ハ六呎)ヲ最大トス、海底ノ土質ハ堅泥ヲ最良トス次キハ軟泥、礫石、岩等ナリ

3 港灣ノ廣狹收容シ得ヘキ運送船ノ數、投錨地ト陸地トノ距離

港内ニ船舶ヲ繫留スルニ當リ各船ノ間隔ハ二クレーブルヲ存スルヲ要ス蓋シ船舶ノ最大長ヲ七十間トシテ錨纜ハ水深ノ三倍、水深ハ十尋トシテ計算スルモノナリ一クレーブルハ百間ナリ

4 岩礁ノ景況、遠淺、新崖、築立等乗船場ノ廣狹、便否

5 風害ニ對スル安否、一年中ノ氣象及氣象ヨリ起ル感應、乗船揚陸ノ難易

6 暴風ノ際ニ於ケル避難地ハ近傍ニ在リヤ否ヤ

7 内地トノ交通、道路ノ良否、鐵道、電信ノ有無、効程

- 8 近傍ニ宿營セシメ得ヘキ軍隊ノ大小、在來ノ倉庫、之レヲ新築スヘキ場積、乘船前集合地ノ廣狹、出入路ノ便否
- 9 其地ニ於テ徵集スヘキ小蒸汽船、解舟等ノ員數種類或ハ之レヲ求ムヘキ地方波止場、棧橋ノ有無景況之レヲ軍事ニ徵用シ得ルヤ否ヤ
- 10 船用炭水ノ在否、之レヲ供給スヘキ地及其方法
- 11 船舶ノ修繕、船用品及ヒ船用食品等ヲ其地ニテ調辨スルノ便否

(三) 材料ノ調査整備

馬力大ニシテ曳船ニ適シ、且ツ重大ナラスシテ運送船ニ搭載便利ナルヲ良トス從來ノ經驗ニヨレハ總噸數二千五百噸以上ノ船舶ニ在ツテハ本船固有ノテリツクヲ以テ重量約十五噸ノ小蒸汽機關船體等分解スルコトナクシテ甲板上ニ搭載スルコトヲ得ルナリ

解舟、小棧橋材料、馬欄ノ杵其附屬品等ノ整備多寡

寢棚 料用 一坪五人ヲ最大限トス病院船ニアリテハ二人中ヲ適當トス

馬 絡〔搭載スル馬匹數ノ約四分ノ一ヲ備フルヲ要ス

懸 帶〔搭載スベキ馬匹ノ數ト同數ヲ備フルヲ要ス

モッコ
帆布製風取、水槽、氷槽、帆布製布呂槽、船口用階梯及其雨覆、船旗、信號用書類及ヒ器具、客室用燈、船内炊爨用器具、テリツク材料、各種綱、海圖、其他各種船用品等ノ多寡整否

以上備附品ハ船舶徵發ノ際契約ニ因ツテハ船主ノ負擔トナルコトアレトモ急遽ノ際事ニ應シ得ンニハ軍時輸送官衙ニ於テ準備シ置クヲ良トス

(四) 船舶ノ分配

戰時若クハ時變ニ際シ政府ハ何時ニテモ徵發令ニヨリ國籍ニアル船舶ヲ召集使用スルノ權能アリト雖モ元來徵發令ハ國家全體ノ經濟上

甚タ有益ナルモノニアラス人民モ亦タ甚タ之レニ應スルヲ好マサル
モノナルカ故ニ已ムヲ得ザル場合ヲ除クノ外ハ徵發ニヨラスシテ成
ルヘク之レヲ賃傭スルコトトシ相當ノ使用料ヲ給與スルヲ以テ得策
トス

船舶ヲ撰用スルニハ先ツ船舶要目表中ヨリ戰時海運ニ適合スルノ資
格ヲ有スル各種ノ船舶ヲ採撰シ運輸司令官衙ヨリ船主ニ命令シ時日
ヲ期シテ海運部所在ノ港灣ニ回航シ檢定委員ノ検査ヲ受ケシムルモ
ノトス

戰時陸軍ニ要スル運送船ノ用途ニ從ヒ之レヲ區別セ
ハ概ネ左ノ如シ

1 各地交通船、通信船

各方面ニ從ヒ航路ヲ定メ人馬荷物ノ輸送多寡ヲ問ハス勉メテ定期ノ時日

ニ各地ニ發着セシメ以テ連絡ヲ取ラシム
電信ノ連絡ナキ兩地間ノ交通ハ尤モ頻繁ナルヲ要ス
作戰上陸後若干時日間ハ作戰地ト内地トノ通信機能ヲ一層敏活ヲラシム
ル爲メ特ニ若干ノ專務通信船ヲ置キ定期及ヒ臨時ノ航海ヲナサシムルヲ
必要トス
通信船ニハ多量ノ石炭ヲ貯藏シ上陸地ニ於ケル諸般ノ需要ニ應セシムル
トキハ極メテ便利ナリトス之レカ爲メ通信船ハ多量ノ炭水ヲ貯藏スルニ
適スル構造ノ船舶ヲ採用セサルヘカラス
通信船ニハ信號旗並ニ發光信號燈ヲ殆メトシ信號燈及ヒ諸要具ヲ完備シ
艦隊望樓、燈臺等トノ通信ニ差支ヘナカラシメ特ニ海軍將校ヲ乗組マシメ
若干ノ信號兵ヲシテ屬セシムルヲ要ス

2 病院船

軍醫以下衛生員ヲ乗込マシメ衛生材料ヲ備ヘ作戰地附近殊ニ上陸地附近
ニ於テ戰地病院(野戰病院、兵站病院等)ヲ設ケル能ハサル時機ニ在ツテ附近
ノ港灣ニ碇泊シテ患者ヲ收容シ或ハ各地ニ巡回シテ患者ヲ收容治療スル
ヲ目的トス但シ滿員ニ至レハ内地ニ歸リ患者ヲ揚陸ス

病院船ニ採用スヘキ汽船ハ船體成ルヘク大ニシテ風浪ニ對シ極メテ安全ナルヲ要シ且ツ平常旅客専用ニ充ツルモノ、如キ客室多キ汽船ナルヲ要ス

3 患者輸送船

戦地ノ患者ヲ收集シ内地ニ還送スルヲ目的トス而シテ乗組人員材料等病院船ト異ルコトナク實際區別ナキニ至ルコトアリ

4 軍隊輸送船

作戦ノ初期及作戦中ニ在ツテハ間斷ナク軍隊ノ輸送ニ充用ス又戦争終レハ軍隊ノ還送ニ充用ス

5 軍需品運搬船

戦地ノ景況ニ依ルハ勿論ナリト雖モ内地ヨリ輸送スヘキ糧食其他ノ軍需品ハ饒多ナルモノト見做サ、ルヘカラス
軍需品ノ運搬ニハ帆船前船ヲ用ユルヲ得ルト雖モ潮流及ヒ季節ニ於ケル風ノ方向等ニ依リ著シク航海日數ニ長短アリ日數ヲ限ルヘキモノニ在ツテハ蒸汽船ヲシテ曳カシメサルヘカラス

以上ノ如ク舟ノ用途ヲ大別シ得ヘシト雖モ實際ハ彼此混合流用スヘキニ至ル例ヘハ定期交通船ニ後送患者ヲ搭載シテ病院船ヲシテ交通船ヲ兼ネシメ軍需品ヲ軍隊ト同船ニ搭載スル等ナリ

(五) 配船

輸送官衙ハ配船表及ヒ其副表等ヲ調製シ以テ各船ニ搭載スヘキ部隊人員、馬數、軍需品、乗陸用材料等並ニ出帆時日、航路等ヲ明示ス

一 船舶ニ搭載スヘキ人馬及物品ハ船舶ノ大小ニ從ヒ一定スル能ハスト雖モ成ルヘク建制部隊ヲ分割セ、之レニ屬スル諸材料ト共ニ之レヲ一船舶ニ搭載シ航海中軍紀ノ維持、給養ノ便利及揚陸後直チニ從事スヘキ勤務ニ障礙ナカラシムルヲ要ス

上陸ノ際ニ使用スヘキ棧橋材料ノ如キハ其設置ニ任スヘキ部隊例ヘハ工兵隊ト同船ナラシム

馬匹ヲ搭載スル船舶ハ甲板低クシテ重キヲ可トス
 同種ノ品目ハ數船ニ分チテ搭載スルヲ良トス之レ離船ニ逢フモ盡ク
 其種ノ品ヲ夫フコトナカラシムル爲メナリ
 人馬及ヒ物品ノ容積ヲ算定スルニハ概ネ左ノ表ヲ規準トスヘシ

人馬物品容積概算表

區分	尺	度	備考
人ヲ容ルヘキ船室ノ高サ	上下兩甲板ノ高サ船梁迄六尺以上		二週間以内ノ航海ナル時ハ甲板ノ高サ六尺以上ノ船ニ在ツテハ客棚ヲ二段ニ設ケ室内ノ通路ハ其幅二尺以上トナシ兵卒ノ居室ニ充ツルモ妨ケナシ
馬ヲ容ルヘキ船室ノ高サ	上下兩甲板ノ高サ船梁迄七尺以上		馬欄ハ内部ノ幅二尺二寸長サ六尺ヲ要スルヲ以テ外部ノ積ヲ以テ本表ノ如ク測定ス我國ノ馬匹ニ在ツテハ高サヲ六尺四寸ニ減スルモ差支ヘナシ幅三丈三尺以上ノ船ニ在ツテハ兩側ニ一列ツ
船艙ニ通スヘキ艙口ノ幅	方一丈以上		
將校一人ノ船室	縱六尺橫五尺高サ六尺		
同 寢室	縱六尺橫二尺高サ六尺		

下士兵卒一人ノ居室	縱六尺橫二尺高サ六尺	馬欄ヲ設ケ中間一丈、馬欄ト舷側トノ間ニ三丈三尺ノ間隔ヲ存スレハ尤モ可ナレトモ短日ノ航海殊ニ船舶欠乏ノ時ニ於テハ斯ノ如キ餘裕ヲ望ムヘカラス
一馬欄ノ積	縱七尺橫三尺高サ七尺	一容積ノ大ナル物品ハ四十立方尺ヲ以テ一噸ニ算ス
野砲一門(前車共)	縱一丈二尺橫五尺高サ六尺五寸	一重量物ハ一千吉瓦ヲ以テ一噸ニ算シ之レヲ搭載スル時ハ其船舶ノ登簿噸數四分ノ三ニ當ルノ量ヲ以テ極度トス
彈藥車一輛(前車共)	右ニ同シ	
豫備品車一輛	縱一丈五尺橫五尺高サ六尺	
山砲一門	縱六尺橫三尺高サ三尺	

人馬材料搭船比積ノ概算

區分	船舶噸數	備考
兵卒一人	一、二分一乃至一、四分三	一師團ヲ搭載スルニハ大概ノ標準十二萬噸ト見積レハ可ナラン
馬匹一頭	四、二分一	英國ハ四週關ノ糧食彈藥ヲ備ヘタル歩兵一大隊ニ總噸數四千噸ト概算セリ之
野砲車輛一輛	六人ニ當ル	

山砲一門	一人ニ當ル
騎兵一中隊	七百人ニ當ル
砲兵一中隊	七百人ニ當ル
歩兵一大隊	一千八百噸
騎兵一中隊	一千噸
野砲兵一中隊	一千一百噸
山砲兵一中隊	九百噸
工兵一中隊	五百五十噸
衛生隊	一千噸
架橋縱列	一千五百噸

レチ一人ニ計算セハ四噸半ノ比ナリ又
騎兵一中隊ハ四十噸ト算シ馬一頭ニ付
キ十七噸ノ比トセリ
若シ短距離ノ航海ナル時ハ一人ニ一噸
半、馬一頭ニ五噸ヲ算スト云フ(糧食共
ニ合算)
營團ノ義勇艦隊ハ通常八千噸ナリ是レ
二大隊ヲ載スルニ便ナル爲メナラン
輸送距離短少ナル時ハ一人ニ配當スル
噸數ヲ其中ニマテ減ズルヲ得
客積上ヨリ算シ人馬ノ爲メニ要スル平
均ハ
一人ニ付キ 一立米ニ〇
馬一頭ニ付キ 四立米

軍隊ヲ配船スルニ當リ船舶噸數ト人馬材料ノ多寡トノ關係ハ左ノ法

ニ由レハ船舶ニ搭載スヘキ人馬數ノ概畧ヲ單簡ニ知ルヲ得ヘシ
人員 $\times (1.7 \text{ 乃至 } 2.5) + \text{馬數} \times (6 \text{ 乃至 } 7) = \text{船ノ總噸數} \dots\dots\dots \text{餘餘ナキ概數}$
人員 $\times (2.5 \text{ 乃至 } 3) + \text{馬數} \times (9 \text{ 乃至 } 10) = \text{船ノ總噸數} \dots\dots\dots \text{餘餘ナル計算}$
上式ハ素ヨリ概數ニシテ乘船スル人馬數ハ必シモ總噸數ト比例セス
船舷ノ構造ニヨリ同噸數ノ船舶ト雖モ乘船シ得ル人馬數ニ差異アル
モノアリ或ハ人員ノ搭載ニハ適當ナルモ馬數ハ少數ナラサルヲ得サ
ルモノアリ或ハ之レニ反スルモノナリ
軍隊軍需用運送船ハ軍隊ノ大輸送ニ當リテハ何種ノ運送船ヲ問ハス
軍隊ノ人馬材料ヲ滿載セシムヘキコト勿論ナリト雖モ補充用ノ軍需
糧秣若クハ材料等ヲ輸送スルニ當リテハ其船種ニ應シ適當ノ配船ヲ
ナスニアラサレハ雷ニ搭載揚陸ニ關スル不便ヲ來タスノミナラス船
舶ノ進行上非常ノ澁滯ヲ來タスヘキハ言ヲ俟タス而シテ其人員馬匹

ヲ搭載スルトキト糧秣材料等ヲ載搭スルトキトハ船内ノ配備全ク其趣ヲ異ニスルカ爲メ其都度馬欄客棚等ノ新設或ハ解除ヲ要シ時日ト手數トヲ徒費スルヲ免レサルヘシ又糧食品ノ種類ニヨリテハ甚タシキ遺臭ヲ船内ニ留ムル爲メ載貨揚陸ノ後直チニ人員ヲ乗船セシムルコト能ハサル等ノコトアリ要スルニ載貨ノ種類ト使用ノ目的トニ應シテ運送船ヲ撰定配使スヘキモノニシテ是等ノコトタルニ當事者ノ經驗ト才能トニ依ルヘキモノニシテ豫メ一定ノ標準ヲ確示スルコト能ハスト雖モ從來ノ經驗ニ基キ左ニ其概畧ヲ示ス

汽船種類	軍 隊	糧 秣	材 料
旅 客 船	高等司令部其他急行ヲ要スル部隊	酒、煙草、寄贈品嗜好品	被服、衛生材料、至急ヲ要スル材料
旅客及貨物船	歩兵、工兵、徒部隊	米、麥、乾糧品	車輛、砲工兵材料、彈藥類

貨 物 船

砲兵、騎兵、輜重部隊、諸縦列及馬匹多キ部隊

罐詰、樽物類、其他濕糧品

建築材料、錢道材料、石炭、水

濕糧品ノ内樽詰ニセシ漬物、味噌、醬油類及ヒ薦包ニセシ鹽魚、干魚等ノ類ハ載貨揚陸後ト雖モ永ク臭氣ヲ船内ニ留ムルコト甚シキモノナルヲ以テ濫リニ諸船ニ搭載セス成ルヘク毎回同一ノ船ヲシテ之ヲ搭載セシムル如ク配船スルヲ可トス
馬匹ヲ搭載シタル船内ニハ揚陸後若干日間人員ヲ配乗セシメサルヲ要ス之レ馬匹遺臭ノ爲メ衛生ヲ害スレハナリ

(六) 雜件注意

船舶ノ速力行程 ハ一時間二十哩即チ一晝夜ニ二百四十哩ト概算セハ可ナリ

搭、載、速、度、ハ、馬匹ハ一船口ニ於テ一時間ニ三十頭ヲ乗船セシメ得

荷物ハ一日十万才ヲ搭載スルコト難カラス

解、舟、ハ、其種類大小ニ從ヒ一様ナラズト雖モ通常長サ三十尺乃至五十尺ノモノハ平穩ナル天候ニ於テ武装セル兵員ナレハ四十乃至五十人夫ノ如キハ五十乃至七十人馬ハ四頭乃至六頭貨物ハ三百乃至四百貫ヲ載スルニ足ルヘシ

馬、欄、ハ、數ハ成シ得レバ馬百頭毎ニ五個乃至七個ノ豫備馬欄ヲ設ケ以テ掃除ノ便ニ供スルヲ可トス又別ニ百頭毎ニ三乃至四ノ比例ヲ以テ寬廣ナル馬房ヲ設置シ病馬ノ用ニ供スヘシ

凡ソ馬欄ヲ船中ニ設備スルニハ兵隊ノ居室ト隔絶セシムルヲ要ス蓋シ馬ノ臭氣ハ人ノ健康ヲ害スル酷シキヲ以テ殊ニ茲ニ着意スベシ又成ルヘク蒸氣罐ノ近傍ニ設ク可ラス是レ熱氣ノ爲メ馬匹狂亂ノ患ア

レバナリ

糧秣ノ大輸送ニ當リテ其搭載量ヲ増ス爲メ船内ノ馬欄及ヒ客棚ヲ解除スルコトアリト雖モ中甲板以上ノ一部ニ設置シタル馬欄等ニシテ之レヲ解除スルモ實際幾何ノ積載量ニモ關係セサルモノハ成ルヘク其儘ニ存シ置クヲ要ス若シ之レヲ解除シタル時ハ船内餘積ノ許ス限リハ成ルヘク其材料ヲ船内ニ收藏シ置クヲ可トス之レ運送船ノ航海先ニ於テ載貨揚陸ノ後直チニ其地ニ於テ軍隊ヲ搭載スルノ必要ヲ生スルコト屢アレハナリ

庖、厨、ノ、配、備、ハ、其總噸數ノ三噸毎ニ一人ツ、ノ割合ニテ人員ヲ搭載スルコトヲ標準トシ之レカ給養ヲナスニ充分ナル準備ヲ要ス
搭、船、場、ハ、成、ル、ヘ、ク、數、所、ヨ、リ、搭、船、シ、得、ヘ、キ、地、ヲ、擇、ム、ヘ、シ、瀕、岸、廣、潤、ナ、ル、地、ニ、在、ツ、テ、ハ、各、船、舶、ノ、爲、メ、各、自、ノ、揚、船、場、ヲ、定、メ、各、場、ノ、間、隔、ハ、少、ク、モ

二百米突ヲ要ス若シ一ノ船舶ニ數兵種混合シテ搭載スヘキトキハ各兵種ノ間ニ少クモ五十米突ヲ隔ツヘシ凡テ搭船ノ順序ハ最モ先キニ揚陸セシメントスルモノヲ最後ニ搭載スルヲ法トス搭船時刻ハ諸般ノ狀況ニ因ルヘキモノナリト雖モ成ルヘク滿潮ノ時ヲ可トス

船舶輸送ハ内國戰ト外征トニ隨テ大ニ狀況ヲ異ニシ之ニ要求スル程交モ亦差異アリ蓋シ内戰ニ在ツテハ輸送材料其類多ク海運ハ其一部ニ過キス且ツ護衛艦ヲ要セサル處モ亦タ少ナカラス之ニ反シ外征ニ在ツテハ萬般ノ事物本國ヲ離ル、時ヨリ敵地ニ達スル迄悉ク之ニ賴ラサルベカラズ且ツ通常護衛艦ヲ附セサル可カラサルヲ以テ務メテ船舶ヲ集結シ輸送品ヲ一地ニ蒐輯シ需要緩急ヲ量リ同時ニ之ヲ行フ

要ス然シテ海運ニ在ツテハ發船地ヨリ送達地ニ至ル迄其艦船ヲ變換セサルヲ通則トス

○噸數ノ種類ニ付キ參考

世上噸ト稱スル者ニ種々ノ別アリ今之レヲ左ニ掲ク

容積ニ關スル噸數ハオヲ以テ單位トス即チ一呎立方ヲ一オトス

荷積噸ト稱スルモノ、一噸ハ 四十才

方積噸數ト稱スルモノ、一噸ハ 四十才

船舶等ニ於テ總噸數ト稱スルモノ、一噸ハ 百才

登簿噸數ト稱スルモノ、一噸ハ 百才

鐵道ノ容積噸ト稱スルモノ、一噸ハ 百才

軍艦ノ噸數ハ 排水重量

石炭ノ噸數ハ

重量

重量ニ關スル噸數ハ佛、英兩國其單位ヲ異ニス即チ左ノ如シ

佛國ノ一噸、一〇〇〇吉瓦、二六六貫六六六

英國ノ一噸ハ佛ノ一〇一六吉瓦ニ相當ス、二七〇貫九四

ヲ得 注意重量噸數ハ尋常物ニ於テ方積噸數ノ四分ノ三ト概算スル

其三 作戰計畫

作戰計畫ハ或ル一ツノ決心ヲ定メ此決心ヲ實行スル爲メニ取ルヘキ一般ノ方針及ヒ施設ノ計策ニシテ毎日毎時變化スル所ノ情況ニヨリテ翌日若クハ或ル時機ノ爲メニ軍隊ノ運動ヲ畫策スル情況、判斷トハ自ラ大小ノ區別アルモノナリ而シテ作戰計畫ハ戰役ノ初メヨリ終局

作戰計畫トシテ規畫スベキ項目

ニ至ル迄一定不變ナルモノニアラス非常ノ變狀ヲ偶發スルコトアルニ當ツテハ止ムヲ得ス一時計畫ヲ變セサルヲ得スト雖モ凡ソ敵狀ニ從ヒ畧ホ實行シ得ヘキ程度ヲ判斷シ此程度マテ計畫ヲナシ其以上ハ一般ノ方針ニ基テ適宜ニ敵狀、任務、地形ヲ斟酌シテ作戰スルモノトス殊ニ敵ニ近クニ從ヒ情況ハ時々刻々變化スルヲ以テ既ニ此場合ニ至ツテハ到底一定ノ計畫ヲ履行スル能ハス故ニ作戰計畫ニ於テ細部ノ事迄豫定シ置クヘキモノニアラス多クハ徒勞ニ屬スル者ナリ

- 一 作戰計畫ノ方針
- 二 行軍計畫若クハ集中計畫

三 宿營計畫(多クハ集中ニ當リ)

四 上陸軍ナレハ上陸順序及ヒ上陸後ノ處置

右ノ外學習上ニ於テハ作戰地一般ノ地形ヲ論シ且ツ敵狀、任務等ニ關スル判斷ニ基キ作戰計畫方針ノ理由ヲ論スルヲ要ス
乃チ作戰計畫ヲ立案スル爲メニ先ツ大方針ヲ決定セサルヘカラス此ノ方針ニ基キ諸種ノ計畫定マルナリ故ニ此大方針ヲ定ムル爲メニハ情況判斷、地形判斷等種々研究ヲ要スルナリ

其四 集中計畫

集中計畫ハ各地方ニ在ル軍隊ヲ或ル目的地ニ集合スル爲メノ計畫ニシテ其尤モ主トスル所ハ迅速確實ニ集合セシムルニアリ
集中地帯ハ同目的ニ向ツテ動作スベキ諸動員軍隊ヲ集合スル所ノ地

境ニシテ攻撃ノ未然ニ對シテ預メ準備スル爲メ兵力ハ相互ノ支援ヲ用意シ能フベキ方法ヲ以テ集合セラル即チ集中ハ既ニ戰鬥ノ第一順序ナリ

集中運動ヲ迅速ニ實行スル爲メニハ萬般ノ素質ガ既ニ出立ニ用意セラルヤ猶豫ナク動員點ト集合線上ノ到着點トノ間ノ距離ヲ經過スルヲ要スルナリ

集中地帯及ビ策源地ハ諸輻重ヲ軍隊ニ送遣シ又傷者患者捕虜並ニ不用材料ヲ本國ニ送還スル等ノ用務ヲ充足スル者ニシテ此等ヲ完全ナラシメントセバ其撰定甚ダ重大ナリ

戰爭ノ初期ニ於テ策源地ハ變遷ノ基地タリ若シ之ヲ失ヒシナラバ之ヲ變換シ得ルニアラザレバ諸般ノ形勢不利タルベシ
集中地帯ガ充足スベキ主ナル要件次ノ如シ

集中地帯ノ性能

- 一、國境ヨリ若干ノ距離ニアルコト否ラザル場合ニ於テハ障礙物及ビ國境要塞ノ衛兵ヨリ通常配備セラル、所ノ掩護隊ニ由テ充分ノ方法ヲ以テ保護セラル、コト
- 二、補充ニ必要ナル糧食并ニ彈藥ヲ輸送スルニ便利ナル鐵道網ヲ有スルコト
- 三、集中地帯ニ於ケル停車場ハ乘車臺ヲ充分多ク整備シアルコト實行ニ於テ平均少クモ二十四時間ニ八乃至十二列車ヲ乘(下)車セシメ能フヘキ乘車臺ヲ要ス
- 策源地ニ充備スベキ性能左ノ如シ
- 一、兩翼ガ能ク掩護セラル、コト
- 二、正面ハ良好ノ防禦線或ハ堅固ニ構築サレタル築城工事ニ由テ掩蔽セラル、ヲ要ス而シテ急造ノ工事ハ激烈ナル攻撃ニ對シテ充

策源地ノ性能

- 分ナル安全ヲ稀ニ呈スルナリ
- 三、前後方ニ於ケル交通ハ充分ニシテ且ツ良好ナルヲ要ス若シ交通不充分ナルキハ兵力ノ集團ヲ遲緩ナラシメ且ツ敵ヲシテ敵ノ國境ニ於テ豫メ集結シタル軍隊ヲ以テ我レニ先ンジ進出路占領セシムルニ至ルベシ
- 四、一ツノ軍隊ヲ集中スル爲メニ少クモ策源地ハ良ク連絡セラレタル一ツノ複道路線ヲ有スルヲ要ス
- 集中ニ於テ定メラレタル鐵道網ハ狀況ノ要求上次ノ如ク組織セラル、ヲ要ス
- 一、少クモ隣國ト同シ速度ヲ以テ國境ニ軍隊ヲ集中シ得ル爲メ線路ハ充分ナルコト
- 二、獨立線路ナルヲ要ス如何トナレバ若シ然ラザルキニハ何レカノ

鐵道網ノ要

集中上ノ一般ノ注意

- 一部分ニ故障ヲ生ズル時ハ全線ノ運轉ヲ停止スルニ至レバナリ
 - 四、路盤ハ善良ナルヲ
 - 五、軌道ノ幅員ハ全鐵道等齊ナルヲ、否ラザレバ甲ノ線路上ニ用ヒシ材料ヲ乙ノ線路上ニ運轉セシムル能ハズ
 - 六、全線路ニ於テ同信號ヲ用ユルヲ
 - 七、毎日組成スル列車ノ數ニ對シテ材料ノ權衡ヲ得ルヲ及ビ石炭ノ大ナル供給アルヲ
 - 八、戰地ノ兵站主地ヲ軍隊ニ近接セシムル爲メ之レニ要スル數多ノ支線鐵道アルヲ
 - 九、兩停車場ノ距離ガ八吉米ヲ超ユル毎ニ信號停車場アルヲ
 - 十、單稱ニ在ツテハ數多ノ避退線アルヲ
- 輸送手段ノ準備不完全ナル國ハ攻撃セラル、以前ニ其兵力ヲ集團シ

得ルコトヲ要ス必竟我策源地ハ嚴重ナル障礙ニ由テ保護セラレ或ハ又戰畧上ノ輸送實施中彼我ノ差異ヲ償フ爲メ敵ノ根據地ヨリ適宜ニ離隔スルヲ要スル所以ノ者ハ之レガ爲メナリ例令バ某國ガ軍隊ノ集中ヲ爲ス爲メニ隣國ヨリハ八日間多クノ日數ヲ要スルナラバ其策源地ハ一日行程ヲ二十吉米ト假定シ隣國ノ策源地ヨリ百六十吉米ノ距離ニアルヲ要スルナリ

乍併此計畫ハ戰爭ノ初端ニ於テ敵ノ策源地ガ國境ニ接近スルニ從ヒテ深キ地帯ヲ開放シ置クヲ大弊害アルナリ之レガ爲メ侵入者ノ近接ニ於テ侵入サレタル國ハ住民逃亡ノ歎ズベキ出來事ニ依テ尙ホ志氣ノ沮喪ヲ増加スルナリ

凡ソ集中計畫ヲ爲スニ當リ作戰上ノ顧慮ハ勿論行軍路、鐵道、船舶ノ便否、沿道給養ノ如何等苟モ軍ノ生存行動ニ關スルモノハ微細ニ研究シ

集中計畫ノ
攻目

之レカ畫策ヲナサ、ルヘカラス

(一) 集中豫定概畧表

此表ハ徒步行軍或ハ船舶鐵道等ノ輸送ニ由ルノ如何ニ關セス各兵團ハ如何ナル經路ヲ取り何日マテニ何レノ點ニ集中スルヤヲ一目瞭然タラシムルニ供ス

(二) 鐵道(船舶)輸送計畫表

此表ハ鐵道(船舶)ニ由テ輸送セラレヘキ兵團ノ輸送方法計畫ヲ表示スルモノナリ其計畫要領ハ前陳其一、其二ノ如シ

(三) 行軍宿泊計畫表

此表ハ徒步行軍部隊ノ爲メニ日々ノ宿營地ヲ指示スル者ニシテ此計畫ヲナスニハ成ルヘク同所ニ毎日逐次各部隊ガ到着宿營セサル如クセサルヘカラス是レ集中行軍ニ當リテハ多クハ宿舍給養ノ便ニ據ル

ヲ要スルヲ以テ同地ニ連續軍隊カ宿營スルトキハ其地ノ供給力ヲ堪ヘ得サラシムル恐レアリ故ニ成ヘク供給ヲ平等ニ各地ニ仰ク爲メ宿營地ヲ平等一般ニ配布スル如ク計畫セサルヘカラス

又取ルヘキ道路ハ兵種ニ由テ願慮セサルヘカラス假令ハ歩兵ハ多少道路粗惡ナルモ近距離ナルヲ主トシ騎兵ハ多少迂路ナルモ馬蹄ヲ損セサル爲メ柔軟ナル路盤ノ道路ヲ採用シ野砲兵ハ砲車通過ニ支障ナキ良路ヲ取ラシムル如シ宿營ノ廣狹ニ關シテハ成ルヘク給養ノ便ヲ主トスルヲ可トス

(四) 集中地宿營計畫表

目的地ニ集中シタル數多ノ部隊ヲ宿營セシムル爲メニハ各部隊ノ集中地ニ到着スル順次ト作戰運動ヲ發起スルニ當リ使用ノ順序及ヒ便宜トヲ願慮シ且ツ命令ノ連繫指揮監視ノ統一ナル如ク宿營地ヲ撰定

セナルヘカラス此集中地ニ於ケル宿營ハ數多ノ兵力集合スルコトナ
 レハ自然狹舍營ナルハ免レサル所ナリ
 此計畫ハ或ハ略圖ヲ以テ示スヲ便宜トスルコトアリ假令一表ニ製ス
 ルモ各部隊ノ爲メニハ其宿營區域ヲ判然タラシムル爲メ略圖ヲ製シ
 テ付與スルヲ可トス

(五)給養計畫表

此表ハ集中途次及ヒ集中地ニ於ケル給養ノ方法ヲ規定スルモノニシ
 テ集中地ハ大軍ナルトキハ到底該地ノ供給力ノミヲ以テ軍隊ヲ給養
 スル能ハス殊ニ永ク滞在スル時ニ於テ然リ此時ハ倉庫ヲ設置シ或ハ
 又集中途次ト雖モ通過ノ地方寒村僻地ナルトキハ宿舍給養ノ便ニ依
 賴スル能ハズ故ニ以前ヨリ地方吏ニ命ジ各宿營地ニ糧秣ヲ準備セシ
 ムル等ノ處置ヲナサ、ルヘカラズ乃チ此給養計畫ヲ以テ地方ノ準備、

何師團行軍計畫表

行軍計畫表ノ例(本例ハ學習上ノ概例ニ過ギズ實際ニ於テハ當局者適宜ニ尤モ
 便利且ツ明瞭ナリト思考セル適宜ノ表ヲ調製スルモノトス)

部		何月	一日	二日	三日	四日	五日	摘要
師團司令部	第一聯隊	某地	某地附近	某地				
	第二聯隊	、、、	、、、	、、、	、、、	、、、		
			某地	某地	某地			
第一聯隊								
第二聯隊								


騎兵何聯隊		何中隊
、	、	、
、	、	、
、	、	、
、	、	、
某附近地		
某方進		
某地向轉		

輜重第一梯隊			
架橋縱列	野戰病院何個	、	、
、	、	、	、
、	、	、	、
、	、	、	、
、	、	、	、
某地	ヨリ	某地	ノ間

備考

集中豫定概畧表ノ例
〔本例ハ學習上ノ概例ニ過ギズ實際ニ於テハ當局者適宜ニ便
 利且ツ明瞭ナリト思考スル便宜ノ表ヲ調製スルモノトス〕

第何軍集中豫定概略表



 ハ陸路行軍
 ハ汽車輸送
 ハ船舶輸送

部 隊 日 次						何 月 日	何 日	何 日	何 日	何 日	摘 要	
、	、	何 隊	、	、	何 隊	、 、 、 、 、 、 、	何 地	、 、 、 、 、 、 、	何 地			
乘車 日 何 地						近附地何		近附地何				
近附地何						車下地何		船乗地何				
近附地何						近附地何		陸上地何				
合 集 地 何						何 日		何 日				

考 備

鐵道輸送計畫表ノ例
〔本例ハ學習上ノ概例ニ過キズ實際ニ於テハ當局者適宜ニ尤モ便利且ツ明瞭ナリト思考スル便宜ノ表ヲ調整スルモノトス〕

第何師團鐵道輸送計畫表

地					某					場車停		出發
日何月何		日何月何		日何月何		日何月何		日何月何		日何月何		
時何後		時何後		時何前		時何後		時何前		分時		
驛		某		驛		某		場車停		到著		
日何月何		日何月何		日何月何		日何月何		日何月何		日何月何		
時何後		時何前		分何時何後		分何時何前		分何時何後		分時		
5		4		3		2		1		號番車列		
										車客等二一		
										車客等三		
										車貨蓋有		
										車貨蓋無		
										計合		
								何隊 、、 、、 、、		部 隊 號		
										校將		
										卒兵士下		
										匹馬		
										物貨		
										積載數量		

考 備

倉庫ノ設置必要ナレバ倉庫縦列ノ編成徵發方法地方等ヲ規定シ以テ
何日何隊ハ如何ナル給養ニ據ルト云フコトヲ明示スルナリ
右ニ説ク外道路橋梁ノ改策、集中地ニ於ケル諸設備、兵器材料ノ補給
並ニ衛生經理等諸種ノ計畫準備ヲ要シ苟モ集中ナルモノハ作戰ノ
大命脈ノ關スル所ナレバ注意周到遺算ナキヲ要ス

其五 上陸計畫

上陸ニ關スルコトハ既ニ第六篇上陸作戰ノ部ニ於テ説述シタル如ク其
事業ノ困難ナル丈ケ計畫モ亦細密違算ナキヲ要ス

上陸ニ關スル計畫ハ大別シテ三種トナス

第一項 上陸地ニ軍隊ヲ輸送到着セシムルマデノ計畫

第二項 上陸地ニ到着後上陸動作ニ關スル計畫

第一項ニ關スル計畫

第二項ニ關スル計畫

第三項 上陸後集合給養等ニ關スル計畫

第一項ニ關スル計畫ハ上陸點ノ撰定、上陸點ノ偵察、航海投錨線ノ票示、海上防禦物ノ撤去、運送船護送方等ノ順序處置ヲ陸海軍交渉共同シテ計畫スルモノナリ其原則ハ概ネ既ニ説キタル所ノ如シ

第二項ニ關スル計畫ハ大別スレバ各團隊上陸順序、上陸ニ關スル警戒、其地諸般ノ任務規定等ナリ

即ハチ其計畫ニ要スル注意左ノ如シ

一、上陸掩護隊ノ編成

上陸掩護隊ノ兵力并ニ編組ハ敵狀ノ如何ニ由ツテ定メザルベカラズ且ツ又配船ノ關係上成ルベク數船ヨリ所要部隊ヲ出スナク一船ニ纏リアル部隊ヲ使用スベシ假令ヘバ甲乙丙丁等ノ運送船ヨリ各部隊ヲ若干宛上陸セシメテ以テ掩護隊ヲ編成スルナ

ク丁或ハ戊等何レカ所要部隊ヲ纏メテ搭船セシメアルモノヨリ掩護隊ヲ編成ス是レ萬事便利ニシテ且ツ上陸モ迅速ニ施行セシメ得レバナリ

二、各團隊上陸順序

上陸順序ノ區分ハ上陸地濱岸ノ度狹運送船碇泊場ノ遠近、解舟ノ多寡等ヲ顧慮シテ定メザルベカラズ要スルニ混雜ヲ避クルト必要ナルモノヲ先キニ上陸セシムルトハ一般ノ原則ナリ

各次ノ上陸團隊ノ限界ニハ約一時間ヲ豫算スルヲ可トス是レ上陸ヲ終リタル船舶ハ退去シ將サニ續テ上陸セントスル船舶更ニ進ンデ上陸繫留點ニ進ム等ニ費ス時間ナリ

上陸順序區分表ノ一例ヲ示ス別表ノ如シ

○運送船總統計五十隻ニシテ總噸數約十二萬五千噸其内戰闘

上陸時間ノ標準

歩兵隊上陸
時間ノ比ハ
第六篇上陸
作戰ノ部ヲ
參照スベシ

部隊ノミハ約十萬五千噸トシ

○各運送船ニハ上陸用端艇十隻ヲ有シ此各端艇ハ人員ノミナ
レバ四五十人馬匹ナレバ五頭ヲ積載シ得ルモノトシ

○諸艇ノ速力ハ平穩ノ海面千米突ヲ漕行スルニ平均二十分ヲ
要シ空艇ノ歸漕ハ十五分時ヲ要スルモノトシ

○上陸ノ爲メ本船ノ繫留地ハ海岸ヲ距ル千米ニアルモノトシ

○上陸棧橋ハ十箇所ニ設クルモノトシ

一ヶ所ヨリ十隻ノ端艇ニテ上陸セシメバ歩兵大隊ニ約四時
乃至五時間ヲ要シ乘馬隊一中隊ニハ約八時間ヲ要ス

即チ萬事好都合ヲ以テ迅速ニ上陸ヲ施行スルモ前記戦闘部隊
ノ上陸ハ少クモ二十四時間強ヲ費シ輻重ノ爲メニモ殆ンド同
等ノ時間ヲ要ス然レモ到底終始故障ナク上陸進捗スル者ニア

上陸順序區分豫定表ノ例

〔本例ハ學習上ノ概例ニ過ギス實際ニ於テハ當局者適宜ニ尤モ
便利且ツ明瞭ナリト思考セル便宜ノ表ヲ圖製スルモノトス〕

上陸順序區分豫定表		團	隊	上陸開始	上陸終了	上陸場所	備考
順次	何隊	何日	何時	何日	何時	某地第何番 棧橋	
第一次	、 、 、	、 、 、	、 、 、	何月何日	何月何日		
第二次	、 、 、	、 、 、	、 、 、				
第三次							
第四次							
第五次							
第六次							